

科目名	科目担当代表教員	ページ数
キャリアデザイン概論	宮田 龍	4
倫理学	前田 潤	7
博物館情報・メディア論	種石 悠	10
歴史学	種石 悠	13
憲法学	永田 均	16
政治学	西川 祥一	19
経済学	中田 和則	22
社会学	廣池 真一	26
自然科学の現在	麻生川 静男	29
科学技術と社会	末富 弘	32
情報コミュニケーション	前田 潤	35
情報セキュリティ	上原 貴史	38
情報とメディア	安藤 友晴	41
健康とスポーツ	山中 慎	44
北洋大学の「社会人学」	西川 祥一	47
スポーツとキャリア	山中 慎	50
変化の時代のキャリア形成	末富 弘	53
プレゼンテーション・スキル	樋口 葵	56
協働と対人関係	加藤 剛寿	59
マネジメント論	中田 和則	62
地方自治論	杉山 維彦	66
統計の基礎	中田 和則	69
データサイエンス	末富 弘	73
情報システム	上原 貴史	76
情報の収集と発信	西川 祥一	79
多文化社会論	末富 弘	82
異文化交流論	樋口 葵	85
国際関係論	麻生川 静男	88
ジェンダー論	尾野 裕子	91
持続可能社会論	末富 弘	94
英語で学ぶ日本	加藤 剛寿	97
中国歴史文化論	田 桃雨	100
オセアニア歴史文化論	種石 悠	103
Advanced Reading II	福嶋 剛司	106
Business English II	杉山 維彦	109
English Phonology	高橋 あすか	112
English for Tourism	杉山 維彦	115
Extensive Reading II	福本 達也	118
Extensive Reading IV	杉山 維彦	121
Extensive Reading IV	黄 美花	124
Intensive Online English Practice	加藤 剛寿	127

Intensive Reading IV	星野 芳輝	130
Intensive Reading IV	高橋 あすか	133
Public Speaking	高橋 あすか	136
Writing II	高橋 あすか	139
インテンシブ中国語 I	田 桃雨	142
インテンシブ中国語 III	田 桃雨	145
インテンシブ中国語 IV	陳 曦	148
コミュニケーション論	加藤 剛寿	151
ビジネス中国語	銭 蕾	154
ビジネス日本語 I	中田 和則	157
ロシア語	福本 達也	161
韓国語	金 昌男	164
視聴覚中国語 I	田 桃雨	167
中国語文法・作文	田 桃雨	170
中日翻訳 II	田 桃雨	173
日本語コミュニケーション II	星野 芳輝	176
日本語コミュニケーション IV	福本 達也	179
日本語応用 I	奥村 訓代	182
日本語文法 I	福本 達也	185
日本文学 A	星野 芳輝	188
基礎ゼミナール II	福本 達也	191
基礎ゼミナール II	福本 達也	194
基礎ゼミナール II	福本 達也	197
基礎ゼミナール II	福本 達也	200
基礎ゼミナール II	福本 達也	203
基礎ゼミナール II	福本 達也	206
基礎ゼミナール II	福本 達也	209
基礎ゼミナール II	福本 達也	212
基礎ゼミナール II	福本 達也	215
専門ゼミナール II	種石 悠	218
専門ゼミナール IV	中田 和則	221
専門ゼミナール IV	樋口 葵	225
専門ゼミナール IV	福本 達也	228
専門ゼミナール IV	末富 弘	231
専門ゼミナール IV	西川 祥一	234
専門ゼミナール IV	星野 芳輝	237
専門ゼミナール IV	杉山 維彦	240
専門ゼミナール IV	種石 悠	243
専門ゼミナール IV	山中 慎	246
専門ゼミナール IV	高橋 あすか	249
専門ゼミナール IV	加藤 剛寿	252
専門ゼミナール IV	黄 美花	255

専門ゼミナールⅣ	奥村 訓代	258
卒業研究	中田 和則	261
卒業研究	田 桃雨	266
卒業研究	樋口 葵	270
卒業研究	福本 達也	274
卒業研究	末富 弘	278
卒業研究	奥村 訓代	282
卒業研究	黄 美花	286
卒業研究	加藤 剛寿	290
卒業研究	高橋 あすか	294
卒業研究	山中 慎	298
卒業研究	種石 悠	302
卒業研究	杉山 維彦	306
卒業研究	星野 芳輝	310
卒業研究	西川 祥一	314
地域創生B	樋口 葵	318
伝統文化A(茶道)	佐藤 郁子	321
伝統文化B(華道)	上田 敦子	324
伝統文化D(アイヌ)	長谷 仁美	327
博物館情報・メディア論	種石 悠	331
博物館論(経営)	岡田 路明	334
博物館論(資料保存)	岡田 路明	337
音声学	植田 尚樹	340
言語心理学	福嶋 剛司	343
日本語教育実習Ⅱ	黄 美花	346
日本語教授法Ⅱ	奥村 訓代	350

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 入門						
科目名	キャリアデザイン概論						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	オンライン	担当教員	宮田 龍		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> キャリアデザインの基本理念を理解することができる。 社会の一員として、必要な知識や対応力を身につけるために基礎的な視点を見出すことのできる。 							
取得可能な資格							
なし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
特になし							
講義内容							
<ul style="list-style-type: none"> キャリアデザインと望ましい未来との関係について、主体的に考える時間とする。 ・人生の危機管理のついて学習する。 今日的な問題を取り上げながら、大学生として自立した人格と能力を身につけ、将来の就職活動においても自信を持って自分をPRできる力を養う。 							
成績評価の方法							
オンラインで授業を行うため、出席は、必ず授業の初めに取ります。普段の授業のレポートを重視しています。講義の後に、必ずレポート15回×5点＝75点 割合75%（講義で理解したことや感想等）の提出を求めます。							
授業の方法							
<p>人生のキャリアデザインを自分自身で作り上げていく特に、必ず「人生の危機に」直面する時がある。乗り越える力を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> オンライン授業で、提示した資料の説明等を解説する。 <p>毎回の講義において適時に提示したスライド資料を説明するため、講義前にわからない語句等を2時間かけて予習し、講義後は関連文献などを用いて2時間かけて復習を行う。</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 入門
科目名	キャリアデザイン概論
なし	
授業計画	
第1回	オリエンテーション ～本科目の意義と学び方～
第2回	キャリアとは何か ～「生きる、働く、学ぶ」の3つの問いを通して～
第3回	キャリアデザインの考え方(大学4年間の過ごし方が将来を左右する)
第4回	自分自身が描くキャリアデザインの作成
第5回	*コミュニケーションとは *悩みについて考える
第6回	危機管理とは(社会の危機管理について考える)
第7回	社会の危機管理の基本(人権侵害 DV等について)
第8回	社会の危機管理の基本(闇バイト等について)
第9回	自然災害(地震・北海道の地震等について)
第10回	学校での安全教育(地震防災等)

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 入門	
科目名	キャリアデザイン概論	
第11回	被災地の犯罪とデマ(復旧・復興へ向けて)	
第12回	情報獲得の仕方(新聞の見方。SNSについて)	
第13回	失敗学について	
第14回	自殺予防について	
第15回	まとめ(試験)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	25	まとめのレポート 1回×25点=25点
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	75	毎回、講義後にレポート提出 15回×5点=75点
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 人間						
科目名	倫理学						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	前田 潤		
到達目標							
<p>1. 学生が生きる上で倫理学の必要性を説明できる。</p> <p>2. 身の回りの生活や社会生活で出くわす困難を倫理学の立場から課題化することができる。</p> <p>3. 倫理的課題を自分自身だけでなく、回りの人々と一緒に考えることができる。</p>							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
特に定めず必要に応じて資料を配布する。							
講義内容							
<ul style="list-style-type: none"> ・倫理学とはどのような学問かを理解するために、日常の生活を見つめることから始めていく。 ・倫理とはより良く生きる方法を指すが、良い悪いの判断はどのように行うのか？個人、家族、社会、時代という観点から考えていく。そして絶対善や絶対悪はあるのか考察する。 ・生活の中から倫理的に課題となりそうな事柄を取り上げ、課題化し、その解決のために取り組んでもらう。 ・職業、生命、研究、個人情報保護に関わる倫理的課題をテーマに学生とともに問題の本質を見出し、解決の糸口を探る。 ・倫理的態度について取り上げ、倫理的態度の育て方について学生とともに考えを深めていく。 							
成績評価の方法							
<p>毎回小レポートを課し、それによって成績評価する。</p> <p>15回を10点満点で採点し、合計点÷1.5で100%成績を出す。</p> <p>60点以上が合格。</p> <p>不合格となった場合、再試や追試はせず、次年度に再受講とする。</p>							
授業の方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業は、対話形式を重視し、学生諸君の積極的な発言や能動的参加が欠かせません。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 最初に挨拶 2. それぞれの近況報告や本日の講義に対する興味関心を確認 3. 発言しやすい雰囲気づくり 4. 講義内容に関わる課題の提示 5. グループワーク 							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 人間
科目名	倫理学
授業計画	
第1回	倫理学とは何か？
第2回	生きる目的
第3回	徳の所在
第4回	日常生活の善と悪
第5回	家族と社会の善と悪
第6回	時代の善と悪の変遷
第7回	絶対善と絶対悪
第8回	倫理的葛藤を見出す
第9回	倫理的葛藤に取り組む
第10回	倫理的葛藤の解決を探る

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 人間	
科目名	倫理学	
第11回	職業倫理	
第12回	生命倫理	
第13回	研究倫理	
第14回	個人情報保護と社会問題	
第15回	倫理的態度を養う	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	毎回の章レポートの提出で成績を出す。 15回×10点÷1.5で計算する。
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	学芸員(令和2(2020)年以前) 学芸員						
科目名	博物館情報・メディア論						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2017	教室		担当教員	種石 悠		
到達目標							
博物館における情報とメディアについて理解できるようにする。							
取得可能な資格							
博物館学芸員							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
稲村哲也・近藤智嗣 2018『博物館情報・メディア論』放送大学教育振興会							
講義内容							
博物館はメディアの複合体であるといわれる。メディアとしての博物館について、その特色、技術、利点、課題を包括的に学んでゆく。							
成績評価の方法							
リアクションペーパー、期末レポート							
授業の方法							
テキストに沿いながら、随時、担当教員が勤務していた博物館の実例をあげながら、解説する。講義終了後、リアクションペーパーに記入いただく。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	学芸員(令和2(2020)年以前) 学芸員
科目名	博物館情報・メディア論
特になし。	
授業計画	
第1回	メディアとしての博物館
第2回	博物館における情報とメディアの基礎
第3回	博物館におけるメディア・リテラシー
第4回	情報のドキュメンテーションとデジタル・アーカイブズ
第5回	博物館と知的財産
第6回	ユニバーサル・ミュージアムと情報・メディア
第7回	博物館教育の多様な機会と情報・メディア
第8回	博物館の情報・メディア拡充への連携
第9回	科学系博物館における情報・メディア
第10回	生き物の博物館における情報・メディア①

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	学芸員(令和2(2020)年以前) 学芸員	
科目名	博物館情報・メディア論	
第11回	生き物の博物館における情報・メディア②	
第12回	民族・歴史博物館における情報・メディア	
第13回	美術館における情報・メディア	
第14回	考古博物館における情報・メディア	
第15回	地域の総合博物館における情報・メディア	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	80	期末レポート
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	20	リアクションペーパー
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 人間						
科目名	歴史学						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	種石 悠		
到達目標							
古代東北地方において蝦夷と呼ばれた集団がどのような人びとであったのか、またそれと対峙した畿内政権の政策がどのようなものであったのかを理解する。 講義を通じて、歴史学の基本的な調査・研究の方法についても理解することを目指す。							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
熊谷公男 2004年『古代の蝦夷と城柵』吉川弘文館 ※すでに絶版なので、古本等で入手するようにしてください。							
講義内容							
古代東北地方には「蝦夷(えみし)」と呼ばれた人たちがいた。 近年、文献史学や考古学の研究により、蝦夷がどのような人びとであったのか、またそれと対峙した古代日本国家の政策がどのようなものであったのか、新たな知見が加わりつつある。 講義を通じて、新たに判明した古代蝦夷論について解説する。また随時、歴史学研究の方法論についても解説する。							
成績評価の方法							
講義後のアクションペーパー(3点×15回、45%)、期末レポート(55点、55%)							
授業の方法							
テキストに沿いながら解説する。適宜、スライドを用いる。講義の終了後、受講者にアクションペーパーに記入いただく。 講義はテキストを一章ずつ解説してゆくので、講義前にわからない語句等を2時間をかけて予習し、講義後は関連文献などを用いて2時間をかけて復習を行なう。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 人間
科目名	歴史学
授業計画	
第1回	ガイダンス 古代蝦夷の研究史について
第2回	蝦夷観念の形成
第3回	蝦夷認識の観念性と現実性
第4回	蝦夷論と考古資料
第5回	南北両世界の交流
第6回	倭王権の蝦夷政策①
第7回	倭王権の蝦夷政策②
第8回	大化改新と蝦夷政策
第9回	初現期の「柵」
第10回	城柵の形成と南北交流①

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 人間	
科目名	歴史学	
第11回	城柵の形成と南北交流②	
第12回	蝦夷の戦闘能力と社会①	
第13回	蝦夷の戦闘能力と社会②	
第14回	諸国移配蝦夷からみた蝦夷文化	
第15回	新たな東北古代史研究に向けて	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	45	講義後のリアクションペーパー 3点×15回
その他	55	期末レポート 55点

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 社会						
科目名	憲法学						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	オンライン	担当教員	永田 均		
到達目標							
日本の根本的基本法である憲法の基礎理解を可能とする。 日本国憲法の構成を見ながら、憲法上の基本的理解、社会の現状を反映しながら、憲法の理解を深め、法的思考の養成を目指す。 。							
取得可能な資格							
各種公務員試験の基礎科目になっている。							
受講登録以前に準備すること							
特にないが、日常の時事問題など社会の問題に積極的に興味を持つこと。							
テキスト							
「憲法学読本 第4版」(安西・巻・宍戸共著)有斐閣 2024/12(本体 2,700円)							
講義内容							
日本国憲法の各テーマを通じて法的に思考力をつけるとともに、日本国憲法の基本思想である、基本的人権の保障、自由・平等権、平和主義についての理解を深める。 以下の授業項目は、状況により適宜順序を入れ替えるものとする。							
成績評価の方法							
授業時間数の3分の2以上出席していない場合は試験受験の資格を失う。 1、レポート 30点(授業15回中1回実施) 2、期末テスト 70点(授業15回中1回実施) 1、2、を基本に最終的には出席率を考慮し、総合判断する。							
授業の方法							
基本的にはパワーポイントによるリモート講義を実施。 予習復習は、各授業前後2時間前後実施を希望。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 社会
科目名	憲法学
授業で使ったスライド、課題出題サイトの用語確認、さらに参考書などで復習。 参考書 憲法判例集(12版)有斐閣新書(渋谷秀樹編著) 小型の六法(ポケット六法、コンパクト六法、デイリー六法など) 「大学生のための日本国憲法入門」吉田成利、慶応義塾大学出版会 松井茂記「LAW IN CONTEXT 憲法 - 法律問題を読み解く35の事例」有斐閣	
授業計画	
第1回	日本国憲法の構造(明治憲法と比較) 日本国憲法の3大基本原則
第2回	日本国憲法と明治憲法との比較 天皇主権と国民主権
第3回	天皇の人間宣言 象徴性とは?
第4回	天皇の行為と内閣の承認 天皇の生活費用
第5回	人権の淵源、モンテスキュー、トマス・ホブズ、ジャン・ロック、ジャン=ジャック・ルソー
第6回	様々な人権(自由権・社会権) 信教・表現・学問・婚姻・勤労の自由と制限
第7回	中間確認課題提出 文章作成練習への注意点を説明
第8回	1, 中間確認課題の講評、注意点を説明 2, 法の下での平等と是正措置としてのアファーマチブアクションの可否 法の下での平等と是正措置としてのアファーマチブアクションの可否 社会における、性・人種差別の容認
第9回	アファーマチブアクションと社会における、性・人種差別の容認
第10回	統治の基本原則・構造と選挙

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 社会	
科目名	憲法学	
第11回	三権分立・法の支配・国民主権	
第12回	立法と国会	
第13回	内閣と行政権	
第14回	司法と裁判所	
第15回	テスト課題提出と作成上の注意点を説明	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	70	15回授業中1回の試験実施にて採点。
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	30	15回授業中1回のレポートで採点。
その他	0	上記の総合点に、最終的には出席率も考慮し、総合判断する。

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 社会						
科目名	政治学						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	西川 祥一		
到達目標							
1 政治学の基本的な概念と各分野で問題となっているテーマを理解する。 2 一般教養科目として、大学生が常識として持つべき政治を習得する。							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
オリジナルな資料を用意します。							
講義内容							
今、政治学では何が問題となっているのか。なぜそれが争点になっているのか。その批判は的を得ているのか。「日本政治」「公務員制度」「地方自治制度」「国際政治」「政治思想」などの分野を対象に、これらの問題意識で今日の政治の構造や問題を検討する。体系的に政治学を概観するのではなく、ホットで現在問題となっているテーマや事例を、新聞記事や動画で紹介しながら解説していく。							
成績評価の方法							
授業への積極的参加(25%)、中間試験(25%)、期末レポート(50%)を基本に、総合的に評価します。							
授業の方法							
基本的にパワポをつかってわかりやすく説明していくつもりです。選挙、国会、マスメディアなどのテーマの際は、新聞記事なども資料に使い多角的に授業を進めるつもりです。7回目か8回目で、それまでの講義の理解度をチェックする中間試験を行います。理解度をみて、後半の講義内容を修正していきます。 1回の授業ごとに、 予習(2時間) 次回の授業で取り上げる内容についておおまかな流れをつかんでおく。 復習(2時間) 授業で取り上げた重要なポイントを中心に、見直し、論点を整理する。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 社会
科目名	政治学
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	議院内閣制と政党政治(なぜ石破首相は辞任に追い込まれたか)
第3回	選挙制度
第4回	公務員批判はまっとうか
第5回	地方自治
第6回	首長と地方議会
第7回	中間試験
第8回	戦争論(トランプ的力による「平和」をどう考える)
第9回	新自由主義
第10回	福祉論

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 社会	
科目名	政治学	
第11回	アメリカ政治	
第12回	中国政治	
第13回	政策過程と官僚・利益集団	
第14回	世論とマスメディア	
第15回	民主政治の現在(政治とカネ)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	期末課題・レポート評価
その他	50	授業の積極的参加(25%)や中間試験(25%)

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 社会						
科目名	経済学						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	中田 和則		
到達目標							
経済学を基礎を学び、社会経済の仕組みについて、自分の頭で考え判断できるようになることを到達目標とする。国や社会の現状分析、地域社会の発展に貢献していくための社会人としての基礎力を養う。							
取得可能な資格							
特になし。							
受講登録以前に準備すること							
日頃、新聞やニュースなどの経済記事や報道に関心を高め、経済学的なマインドを醸成しておくこと。							
テキスト							
1からの経済学 中谷武・中村保編 2010年 碩学舎							
講義内容							
経済学の基礎として、ミクロ経済学、マクロ経済学の各項目を採り上げ講義し学習する。理解を深めてもらうため、問題演習も適時、実施する。							
成績評価の方法							
授業参画(40%)と問題演習(20%)＋レポート(40%)の成績合計100点。特別な理由のある欠席は4回まで認める。5回以上の欠席は単位を認めない。							
授業の方法							
講義形式で進めるが、講義中に、随時、出席者の発言や意見を求める。積極的な授業参画も採点する。適時、問題演習(公務員試験等の経済問題)も取り入れる。毎回、予復習に4時間程度が必要。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 社会
科目名	経済学
授業計画	
第1回	オリエンテーション ○経済学とは何か、経済学の考え方
	担当教員 中田 和則
第2回	ミクロ経済学の基礎 ○分業の利益
	担当教員 中田 和則
第3回	ミクロ経済学の基礎 ○需要と供給
	担当教員 中田 和則
第4回	ミクロ経済学の基礎 ○価格メカニズム
	担当教員 中田 和則
第5回	ミクロ経済学の基礎 ○市場の効率性
	担当教員 中田 和則
第6回	ミクロ経済学の基礎 ○市場の失敗
	担当教員 中田 和則
第7回	ミクロ経済学の基礎 ○市場の限界
	担当教員 中田 和則
第8回	ミクロ経済学の基礎 ○労働市場
	担当教員 中田 和則

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 社会	
科目名	経済学	
第9回	マクロ経済学の基礎 ○GDPとは何か,何がGDPを決めるのか	
	担当教員	中田 和則
第10回	マクロ経済学の基礎 ○消費需要と投資需要	
	担当教員	中田 和則
第11回	マクロ経済学の基礎 ○貨幣と金融	
	担当教員	中田 和則
第12回	マクロ経済学の基礎 ○政府の役割	
	担当教員	中田 和則
第13回	マクロ経済学の基礎 ○外国貿易と為替レート	
	担当教員	中田 和則
第14回	マクロ経済学の基礎 ○経済成長と国民生活	
	担当教員	中田 和則
第15回	まとめ 問題演習	
	担当教員	中田 和則
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参画(40%)と問題演習(20%)+レポート(40%)の成績合計100点。特別な理由のある欠席は4回まで認める。5回以上の欠席は単位を認めない。

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 社会	
科目名	経済学	
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 社会						
科目名	社会学						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	オンライン	担当教員	廣池 真一		
到達目標							
社会学で頻出する初歩的な語彙を知る 日本社会の変容と多様性について概略を理解する 何か「当たり前だ」と思われているということはどのようなことなのかについて理解する							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
教 毎回教材を配布する 参 授業内で必要に応じて挙げる。							
講義内容							
社会学とは社会行為と人間の集団を系統的に研究する学問で、19世紀に始まりました。本来は社会秩序がいかんして構築されるかを探求する学問です。ただし、一般理論を作ることがあまり流行らなくなり、現在では多くの分野(家族社会学、宗教社会学、医療社会学、歴史社会学等々の〇〇社会学)に分かれてそれぞれ具体的な対象が研究されています。学際性が高く、特に人類学との境界はあいまいです。 そのため、現在の社会学の内実は非常に多様なのですが、社会学者の人たちには一つの傾向があり、「常識を疑う」ことを標榜していることが多いです。実際、私たちが「当たり前」だと思い込んでいる考え方やルールが「どのようにつくられたのか」「それを自明視							
成績評価の方法							
○平常点30%:授業への参加態度、質問への回答等。30点 ○レポート70%:授業中もしくは宿題として課すレポート。17.5点×4回 ○正当な理由なく5回以上欠席した学生には受験資格を認めない。							
授業の方法							
オンライン授業。講義を中心におこなうが、適宜映像資料なども使う。 授業前、授業後に配布教材中の語彙を確認すること。予習・復習にそれぞれ週2時間が必要。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 社会
科目名	社会学
順番や内容が変更になることはありうる。	
授業計画	
第1回	イントロダクション
第2回	社会学の歴史:大きな物語とその瓦解
第3回	少子高齢化:結婚できない男たち
第4回	ジェンダー:異世界でどんな相手にモテたいか
第5回	伝統の創造:忘却と思い込み
第6回	ナショナリズム:想像の共同体
第7回	人種差別:「人種はない、あるのは人種差別だ」
第8回	移民:がまんでできることできないこと
第9回	メディア:誹謗中傷・流言・都市伝説
第10回	宗教:宗教二世とカルト問題

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 社会	
科目名	社会学	
第11回	教育:ブラック校則とブラック部活	
第12回	労働:ブラック企業	
第13回	孤独:「ぼっち」と「おひとりさま」の居場所	
第14回	前期近代と後期近代:『ONE PIECE』はなぜ暑苦しいのか	
第15回	総括	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度等が30%(30点)、授業中もしくは宿題として課すレポートが70%(17.5点×4回)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 科学						
科目名	自然科学の現在						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	オンライン	担当教員	麻生川 静男		
到達目標							
1. 世界の各文化圏の科学史の発展の経緯を説明できる。 2. 現在の最先端の自然科学の全体像を説明できる。 3. 自然科学と社会のつながり(ポジティブ面、ネガティブ面)を説明できる。 4. 自然科学の社会への影響の是非を自分で価値判断できるようになる。							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
項目が多岐に渡るため、テキストはありません。ただし、單元ごとに参考文献を紹介します。授業の後で各人が関心のあるテーマに関し、自主的に選択して読んでください。							
講義内容							
現代の自然科学は、もはや単に知識探求といった純粋に学問的な探求行為ではなく、技術と一体となって人間社会だけでなく、地球環境全体にまで大きな影響を及ぼすようになってきました。 残念ながら、現在の自然科学に関する知識は内容が膨大な上に高度なので、一般人にとって理解し難い内容になっていることは否めません。							
成績評価の方法							
授業参加度 — 30点 毎回の授業まとめ — 70点							
授業の方法							
基本は講義ですが、授業中では学生に質問することが多くあります。また、あるテーマに関して議論することが発生するでしょう。いずれの場合も、積極的な発言が求められます。自主的で積極的な授業参加を期待します。復習は授業に使ったスライド資料を再読み、自分で考えを深めること。(約1時間)							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 科学
科目名	自然科学の現在
授業計画	
第1回	自己紹介、講義内容概要、科学と社会
第2回	科学史・西洋編(その1)
第3回	科学史・西洋編(その2)
第4回	科学史・イスラム
第5回	科学史・中国
第6回	科学史・日本
第7回	科学史・インド・東南アジア・朝鮮
第8回	科学史・比較編
第9回	天文・宇宙系
第10回	物理系

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 科学	
科目名	自然科学の現在	
第11回	化学系・生物系	
第12回	医学系・薬学系	
第13回	コンピュータ・サイエンスと自然科学	
第14回	科学技術が巻き起こす現代の諸問題	
第15回	科学技術が巻き起こす現代の諸問題	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	70	毎回の授業の後に、短いまとめ(内容概要、批評、自分の意見、コメント等)を提出してもらいます。その内容が、成績の70%を占めます。
その他	30	発言等による授業参加態度が成績の30%を占めます。

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 科学						
科目名	科学技術と社会						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	研究室	担当教員	末富 弘		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化社会における科学技術の活用について、事例を学修する。 ・地域社会の持続可能性と多様性を維持するための科学技術の活用について考える。特に企業経営の視点から、活用について理解する。 							
取得可能な資格							
特になし。							
受講登録以前に準備すること							
以下のHPを読み込み、Society5.0やデジタル化についてあらかじめ承知しておく。 (Society5.0)内閣府 https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html (デジタル化)北海道経済同友会 「道内産業のデジタル化推進に向けて」file:///C:/Users/sueto/Downloads/5e9c65fc28c3ae20bfe9002007678c6b-1.pdf							
テキスト							
都度、配布する。							
講義内容							
少子高齢化や基幹産業の衰退による地域社会の持続可能性や多様性を維持するために、最新の科学技術を活用することを学修する。 学修成果をもとに、地域社会全体及び地域を支える中小企業の経営デジタル化を考える。							
成績評価の方法							
期末レポート50%、毎回の受講態度50%で評価する。合計100点で60点以上で単位認定する。5回以上の欠席は単位を認定しない。							
授業の方法							
教員による対面講義。 事前配布された資料で2時間の予習(記載事項の理解)を行い、講義終了後に2時間の復習(授業内容の確認と習得)を行って補完する。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 科学
科目名	科学技術と社会
実務家教員による科目 1977～1998 北海道拓殖銀行 (1986～1988 北海道出向) 1998～2011 北洋銀行 (2000～2007 北海道TLO出向) 2011～ 苫小牧信用金庫	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	Society5.0について学修し、説明できるようにする。(1) Society5.0:社会の課題解決のために、最新の研究成果を活用する。
第3回	Society5.0について学修し、説明できるようにする。(2)
第4回	地域社会のデジタル化について必要性や効果等について理解を進める。
第5回	道内のデジタル化推進事例について学修する。(更別村)
第6回	道内のデジタル化推進事例について学修する。(サツドラHD)
第7回	道内のデジタル化推進事例について学修する。(調和技研)
第8回	デジタル化推進における課題等について調査する。(1)
第9回	デジタル化推進における課題等について調査する。(2)
第10回	道内地域金融機関におけるデジタル化の必要性や対応状況について調査する。

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 科学	
科目名	科学技術と社会	
第11回	道内地域金融機関に対するデジタル化推進案について提言をまとめる。	
第12回	道内におけるデジタル人材育成の必要性和現状について学修する。	
第13回	道内企業におけるデジタル化の推進必要性和課題について提言をまとめる。(1)	
第14回	道内企業におけるデジタル化推進の必要性和課題について提言をまとめる。(2)	
第15回	道内企業におけるデジタル化推進の必要性和課題について提言をまとめる。(3)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	期末レポート50%、毎回の受講態度50%で評価する。合計100店で、60点以上を単位認定する。5回以上の欠席は単位を認定しない。
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 情報						
科目名	情報コミュニケーション						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C202	担当教員	前田 潤		
到達目標							
<p>人々と交流することによってコミュニケーションの楽しさを体験することができる。 生まれたときから行ってきた人々とのコミュニケーションに情報交流の基礎があることを体験的に据え直すことができる。 コミュニケーションによって人は傷つき、癒され、そして支えあうことができることを学び、より良いコミュニケーションを実生活で活用したい気持ちが湧くようになる。</p>							
取得可能な資格							
受講登録以前に準備すること							
テキスト							
毎回資料を配布する							
講義内容							
<p>情報社会と言われている時代にあっても、その情報の発信者と受信者は個々の人間であり、情報とは無機質なやり取りではなく、ツールとしての情報技術は生きた人々の生活のためにあり、生きた人間同士のかかわりのためである。 本講義では、その情報社会や情報技術の作り手であり、受益者である人間同士の関わりに立ち戻り、人々の実際の様々なコミュニケーションについて体験的に理解し、コミュニケーションを様々な角度から検証し、より良いコミュニケーションを活用できるようになることを目指す。そのようなコミュニケーションについての体験的学習は、情報技術に関わる専門技術の学習にとっても有用となると考えている。</p>							
成績評価の方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標の達成度は毎回の小レポートで確認する ・総合点＝小レポート(15×10点\div15) <p>100点満点で 60点以上を合格とする。</p>							
授業の方法							
<p>講義 そのほか予習復習合わせて4時間が必要である。</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 情報
科目名	情報コミュニケーション
遅刻は認めない。13時までに教室に入るように。	
授業計画	
第1回	自己理解・他者理解のためのコミュニケーション
第2回	発達過程とソーシャルネットワークの変化
第3回	情報伝達とコミュニケーション
第4回	集団同調と命令指示・集団コミュニケーション
第5回	認知的不協和理論とコミュニケーション
第6回	好意と恋愛のコミュニケーション
第7回	自己評価と他者評価のコミュニケーション
第8回	コミュニケーションと人格形成
第9回	教育としてのコミュニケーション1(家庭教育の影響)
第10回	教育としてのコミュニケーション2(社会教育の影響)

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 情報	
科目名	情報コミュニケーション	
第11回	相談や悩みを聞くためのコミュニケーション	
第12回	やる気の起きるコミュニケーション	
第13回	世界とのコミュニケーション(世界とのつながりを確かめる)	
第14回	創造する力や夢や希望を抱くためのコミュニケーション	
第15回	自分の存在を確かめるためのコミュニケーション	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	毎回の授業で小レポートを課し評価する。 15回×10点 \div 15で評価する。 100点満点のうち60点以上を合格とする。
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 情報						
科目名	情報セキュリティ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	LL	担当教員	上原 貴史		
到達目標							
[1] セキュリティリスクの存在を認識し、情報セキュリティ対策の重要性が説明できる [2] 情報セキュリティ関連技術の基本を実践できる [3] 高いセキュリティ意識を持ったユーザとして社会人として実践できる							
取得可能な資格							
特に無し							
受講登録以前に準備すること							
情報処理推進機構『情報セキュリティ読本六訂版』の薄読							
テキスト							
情報処理推進機構『情報セキュリティ読本六訂版』 実教出版、2023年4月20日 購入先 https://www.ipa.go.jp/publish/dokuhon-v6.html ◎教科書(660円)は必ず入手すること							
講義内容							
現在では、情報システムやインターネットは、産業・経済活動や行政活動、そして日々の暮らしを支える重要な社会基盤(インフラ)である。しかし、その基盤を脅かす脅威(悪人)が存在する。マルウェア(=不正プログラム、コンピュータウイルス等)や不正アクセス、詐欺、情報流出等によって大きな被害が出ている。 情報セキュリティとは、情報の機密性・完全性・可用性を維持することと定義されているが、要は、脅威(悪人)から情報や情報システムを守ることである。情報セキュリティは、技術的な対策や国や組織等による対策だけでは実現できない。ユーザー一人一人が「知識と意識」を持って取り組むことが不可欠である。							
成績評価の方法							
●到達目標[1][2]は、主に定期試験で評価する 到達目標[3]は、主に提出課題で評価する ●欠席5回以上 → 受験無資格(単位不認定) 授業への積極的な参加 30点(30%) 授業中に課す課題 20点(20%) 定期試験 50点(50%)							
授業の方法							
講義形式 【予習内容】 授業計画にある言葉を各自調べてから授業に参加すること 【復習内容】 授業で出した課題について、わからない言葉を調べること 予習、復習あわせて週4時間程度学習すること							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 情報
科目名	情報セキュリティ
授業計画	
第1回	1. 科目ガイダンス
第2回	2. 危険の認識、情報セキュリティとは？
第3回	3. 外部のリスク要因
第4回	4. 内部のリスク要因
第5回	5. 情報リテラシーと情報倫理
第6回	6. マルウェアとは？
第7回	7. マルウェアへの共通の対策
第8回	8. 標的型攻撃・詐欺・不正請求への対策
第9回	9. 前半課題補講(模擬試験)
第10回	10. スマートフォンの対策、無線LANの対策

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 情報	
科目名	情報セキュリティ	
第11回	11. 組織のセキュリティ対策(ISMS)	
第12回	12. 従業員としての心得、情報漏えいの防止	
第13回	13. アカウント・ID・パスワード	
第14回	14. ファイアウォール	
第15回	15. 暗号とデジタル署名 情報セキュリティ関連の法規、まとめ 模擬試験(後半)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	50	選択式の問題60問、講義の自己評価感想1問
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	授業内での参加度・提出物 30% 授業内の課題(1講義あたり5～10問程度) 20%
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 情報						
科目名	情報とメディア						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	オンライン	担当教員	安藤 友晴		
到達目標							
<p>・この授業は、本学ディプロマ・ポリシーのうち「1.文章を正しく読み、書き、自分の考えを論理的に表現できる力」「3.広い視点から情報を判断、分析し、分かりやすく情報を発信する力」「4.幅広く豊かな教養をそなえ、多様な文化、価値観を理解する力」に特に対応しています。</p> <p>・メディアについて理解を深めながら、情報を的確に表現できるちからを身に着けましょう。</p>							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
担当教員が資料を配布します							
講義内容							
<p>・「メディア」とは、いわゆる「マスコミ」だけを指していることではありません。スマートフォン・テレビ・ラジオ・新聞などはメディアの例ですが、あなたのスマートフォンにインストールされているLINEやWeChat, YouTubeなどのアプリもまたメディアなのです。そうすると、あなたの身の回りにはたくさんのメディアがあると思いませんか？</p> <p>・この授業では、メディアがどのように発展していったのか、世界史の展開とともに見ていきます。</p>							
成績評価の方法							
<p>・毎回の授業で、その授業の内容の理解度を確認したり、簡単な調査をしてもらうことを目的としたリアクションペーパーの提出を求めます。</p> <p>・授業内容について自分で考えた内容をまとめることを目的とした2回の小レポートを課します。</p>							
授業の方法							
<p>・オンラインによる講義形式で授業を実施します。</p> <p>・授業前に目を通しておくべき資料を提示します。</p> <p>・授業後にはリアクションペーパーの作成を通して授業内容の復習を行います。</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 情報
科目名	情報とメディア
この授業は育英館大学で行っている授業を収録し、オンラインで受講可能にしたものです。授業コンテンツがいつ公開されるかは、受講者に指定したWebサイトの内容をよく確認してください。	
授業計画	
第1回	メディアとは何か
第2回	古代メソポタミアの文字と記録
第3回	古代エジプト
第4回	古代ギリシア
第5回	アレクサンドリア図書館
第6回	ペルガモンとローマ帝国の図書館
第7回	古代中国
第8回	イスラーム世界
第9回	中世ヨーロッパ
第10回	活版印刷術と印刷革命

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 情報	
科目名	情報とメディア	
第11回	公立図書館の誕生	
第12回	19世紀以降のメディア (1) 通信・交通・新聞・放送	
第13回	19世紀以降のメディア (2) 音とラジオ	
第14回	メディアの3つの時代	
第15回	19世紀以降のメディア (3) スクリーンとコンピュータ	
成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	・60%: リアクションペーパー (4点×15回) ・40%: 小レポート (20点×2回)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	一般教育科目 健康						
科目名	健康とスポーツ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	山中 慎		
到達目標							
健康の維持・増進のために知っておくべき知識を使い、卒業後においても『する・見る・支える』などといった視点から自己に適したスポーツとの関わり方で継続的にかかわることができる。							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
『これからの健康とスポーツの科学』安部孝/琉子友男・編 講談社2020							
講義内容							
生活習慣病、運動の効果、筋力トレーニングのメカニズム、ストレス社会との共存、高齢者の筋力トレーニング、骨粗鬆症など、現代を生きる学生が健康で充実した人生を送るために必要な知識。							
成績評価の方法							
評価方法:毎回の授業内レポート 評価割合:毎回の授業内レポート(100%)							
授業の方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式 ・毎回、授業内での説明について質問をおこなう。1回の授業について ・予習(2時間):授業で取り上げる内容などにより、授業のおおまかな流れをつかんでおくこと。次回対象となる項目については各授業の終了時に説明する。 ・復習(2時間):授業で取り上げた重要なポイントを中心に、見直し、論点を整理すること。 							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	一般教育科目 健康
科目名	健康とスポーツ
特になし	
授業計画	
第1回	ガイダンス 準備学習: シラバスを読んで受講上の注意点について事前に調べておく
第2回	テーマ: 健康を推進するための生活スタイルとは 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第3回	テーマ: 運動習慣は生活習慣病を予防・改善し、寿命を延ばすことができるか 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第4回	テーマ: 肥満はどのようにして起こり、どのように評価するのか 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第5回	テーマ: 力強さや爆発的なパワーは何が違うのか 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第6回	テーマ: 筋量を増加させ、筋力と筋パワーを高める方法とは 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第7回	テーマ: 高い持久力は何によって決まるのか 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第8回	テーマ: あなたもできるフル・マラソン完走のスタミナづくり 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第9回	テーマ: 身体機能はどこまで改善できるか 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第10回	テーマ: どのような運動をすると骨が強くなるか 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	一般教育科目 健康	
科目名	健康とスポーツ	
第11回	テーマ:子どもの体力・運動能力を改善する方法とは 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する	
第12回	テーマ:いろいろな環境下で安全に運動を行う方法とは 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する	
第13回	テーマ:加齢による筋委縮に対する運動と栄養摂取の役割 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する	
第14回	テーマ:動作の巧みさを科学する 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する	
第15回	テーマ:ストレスと運動 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	評価方法:毎回の授業内レポート 評価割合:毎回の授業内レポート(100%)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 キャリア・情報						
科目名	北洋大学の「社会人学」						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	西川 祥一		
到達目標							
<p>1大学教育の中でのインターンシップの位置づけや効果を学び、インターンシップで学ぶ目的を明確にできる。 2自分の適してる業種を見つけ、インターンシップ研修の目的を達成するための行動計画を立てることができる。 3ビジネスマナー、ビジネス文書、メールの書き方やインターンシップで必要なIT技術を習得できる。</p>							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
オリジナル資料を配布します。							
講義内容							
<p>文科省、厚労省、経産省の三省合意により、インターンシップの結果が、企業側の採用の際に使うことが可能になり、インターンシップが採用試験の一環になる傾向が強まっています。インターンシップの位置づけと教育的効果を理解したうえで、自分自身に合ったインターンシップの目的を各自考えます。就職支援会社の協力を得て、実践的な授業も盛り込みます。 この授業を履修したうえで、「実践型インターンシップⅠ」「実践型インターンシップⅡ」で、実際にインターンシップを経験してもらおうと思います。この授業ではインターンシップについても困らないノウハウを身に付けてもらいます。</p>							
成績評価の方法							
授業の参加態度(50%)、授業中に10回程度行うワークの作成・提出(50%)などにより総合的に評価します。							
授業の方法							
<p>自己分析や業界研究などは、知識や情報を伝える座学ばかりでなく、ワークをしてもらい多角的に理解を深めてもらいます。11月1日、2日と札幌で行われる合同企業説明会(インターンシップ説明会)に参加して、各企業がどんなインターンシップを提案しているのかを、企業担当者から学びます。また、インターンシップを実施している地元企業の具体的な内容を実際に本学にきてもらい説明する授業も計画しています。インターンシップ参加へのハードルを低くできるような工夫をしていきます。 1回の授業ごとに、予習(2時間)次回の授業で取り上げる内容についておおまかな流れをつかんでおく。</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 キャリア・情報
科目名	北洋大学の「社会人学」
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	就活スタートアップ
第3回	大学生活で頑張ること
第4回	自分らしさの発見(自己分析)
第5回	合同企業説明会の活用方法
第6回	就職支援サイトでインターンシップ企業を選ぶ
第7回	合同企業説明会(11月1日、2日)出席による休講
第8回	インターンシップとは
第9回	インターンシップの落とし穴
第10回	うちの会社のインターンシップ①

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 キャリア・情報	
科目名	北洋大学の「社会人学」	
第11回	うちの会社のインターンシップ②	
第12回	業界研究①	
第13回	業界研究②	
第14回	ビジネスマナー	
第15回	インターンシップに役立つパソコンスキル	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	授業の参加態度(50点)
その他	50	10回程度、授業中に行うワークの作成・提出(50点)

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 キャリア・情報						
科目名	スポーツとキャリア						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	山中 慎		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ業界の実績を詳しく説明できる ・スポーツビジネスに必要なことを論じることができる ・自分のキャリアを築くために必要なことを挙げるができる 							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
特になし							
講義内容							
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は3名の外部講師(オリンピック代表選手を含む)を招き、事前学習を含めてスポーツとキャリアについて講師に発問する。また、ビデオ学習にて選手・指導者の仕事の流儀を考察しレポートする。 							
成績評価の方法							
評価方法:毎回の授業内レポート 15回目レポート課題 評価割合:授業内レポート(80%) 15回目レポート課題(20%)							
授業の方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式 ・学生による発表を主体にします)1回の授業について ・予習(2時間):授業で取り上げる内容などにより、授業のおおまかな流れをつかんでおくこと。次回対象となる項目については各授業の終了時に説明する。 ・復習(2時間):授業で取り上げた重要なポイントを中心に、見直し、論点を整理すること。 							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 キャリア・情報
科目名	スポーツとキャリア
特になし	
授業計画	
第1回	ガイダンス 準備学習: シラバスを読んで受講上の注意点について事前に調べておく
第2回	ビデオ学習(仕事の流儀①) 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第3回	ビデオ学習(仕事の流儀②) 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第4回	外部講師対策(事前学習) 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第5回	外部講師による講義予定1 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第6回	外部講師対策(事前学習) 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第7回	外部講師による講義予定2 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第8回	ビデオ学習(仕事の流儀③) 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第9回	外部講師対策(事前学習) 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第10回	外部講師による講義予定3 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 キャリア・情報	
科目名	スポーツとキャリア	
第11回	ビデオ学習(仕事の流儀④) 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する	
第12回	スポーツ選手または指導者の本を取りあげ読み解く 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する	
第13回	スポーツ選手または指導者1名の本を取りあげ読み解く 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する	
第14回	スポーツ選手または指導者1名の本を取り上げ発表する 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する	
第15回	講義振り返り課題 準備学習: 外部講師3名のまとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	評価方法: 毎回の授業内レポート 15回目レポート課題 評価割合: 授業内レポート(80%) 15回目レポート課題(20%)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 キャリア・情報					
科目名		変化の時代のキャリア形成					
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	末富 弘		
到達目標							
就職活動に不安が生じないようにする「就職実践講座」で、春学期の「職業能力とキャリア」との通年授業を想定しています。自分の得意、不得意がきちんと把握でき、自己PRを自分の言葉で説明し、自分の希望するキャリアや就職企業を設定できるようになります。社会、企業が求める行動力や協調性を強化することも可能です。							
取得可能な資格							
なし							
受講登録以前に準備すること							
なし							
テキスト							
必要に応じて資料を配付します。							
講義内容							
主に、就職活動の正念場を迎えている3年生を想定し、この講座を受講することで、社会人としての心構え、就職活動の準備を身につけていきます。春学期の「職業能力とキャリア」に続くもので、通年で履修することを想定しています。すでに多くの3年生が8月にインターシップに参加していると考え、秋・冬にも開催されるインターンシップの準備、来年3月からの採用のための面接を想定し、エントリーシートを作成方法、面接試験対策、筆記試験対策など実践的なノウハウを身につけ、社会で活躍できる人材になるためのスキルを磨きます。本学学生の採用を検討している企業の担当者、卒業生の就活体験談、就職情報支援会社による講座も盛り込みわかりやすいノウハウをお伝えします。							
成績評価の方法							
課題などの提出物(40%:5点×8回)、授業への積極的参加・授業態度(15回×4点 60%)							
授業の方法							
授業に出て、集中して学び、知識を習得する。事前の準備はいりません。課題は多少あります。座学形式よりは、ワークシートへの記入、SPI模擬試験への参加、卒業生などの体験談を聞く学習など、密度の濃い内容です。就職情報会社の講師による「対策講座」も盛り込み、より実践的な内容にしていきます。予習復習に毎週4時間程度が必要です。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 キャリア・情報
科目名	変化の時代のキャリア形成
授業計画	
第1回	オリエンテーションとスタートアップ
第2回	業界選考の視野を広げる方法
第3回	自己分析
第4回	企業説明会(日程変更の場合有り)
第5回	企業説明会(日程変更の場合有り)
第6回	合同企業説明会の活用方法
第7回	秋、冬のインターンシップを活用する
第8回	SPI模擬試験(能力検査)を受験しよう①(日程変更の場合有り)
第9回	SPI性格検査で自分の得意、不得意を知ろう
第10回	自己分析と業種適性検査

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 キャリア・情報	
科目名	変化の時代のキャリア形成	
第11回	ESの書き方①	
第12回	ESの書き方②	
第13回	ESの書き方③	
第14回	面接試験対策(動画をつかって、失敗例を学ぶ)	
第15回	総まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	課題などの提出物(40%:5点×8回)、授業への積極的参加・授業態度(15回×4点60%)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 キャリア・情報					
科目名		プレゼンテーション・スキル					
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	LL	担当教員	樋口 葵		
到達目標							
WordやExcel、PPTの使い方をマスターする。 効果的なプレゼンテーションの方法を身に付け、説得力のあるプレゼンテーションが実践できるようになる。 人前での発表に慣れる。 他者の考えを能動的に聞き、適切なコメントを行うことで、有意義な議論を展開できるようになる。							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
LL教室でパソコンを使って授業を行うため、自分自身のチームス上のIDやパスワードを記憶しておくこと。(毎回授業が始まってから「パスワードがわからない」という受講生がちらほら見られる。)							
テキスト							
特になし							
講義内容							
学問の場でもビジネスの場でも、プレゼンテーションは欠かせないものになっている。人の心を動かす効果的なプレゼンテーションを行うためには技術と訓練が必要となる。 本授業では、WordやExcel、PPTの使い方をマスターしたうえで、効果的なプレゼンテーションの仕組み(話し方、見せ方、構造など)を説明できるようになる。グループワークやペアワーク、人前での発表を行ってプレゼンテーションに慣れながら実践的に話し方や聞き方、質疑応答などに参加する。							
成績評価の方法							
プレゼンテーション発表 (30%)、発表に対する評価と質疑応答 (25%)、各回で課す課題への取り組み (45%:15回×3点)							
授業の方法							
効果的なプレゼンテーションの仕組みについて講義形式で学びつつ、適宜、個人ワークほか、グループワーク、ペアワークを行ってプレゼンテーション作成や発表を行う場を設ける。WordやExcel、PPT等を使用した課題を課し、毎週4時間程度の予習、復習ができるようにする。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 キャリア・情報
科目名	プレゼンテーション・スキル
授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	Wordの使い方
第3回	Excelの使い方
第4回	PPTの使い方
第5回	自己PRとスピーチ①
第6回	自己PRとスピーチ②
第7回	効果的なプレゼンテーション資料の作り方①
第8回	効果的なプレゼンテーション資料の作り方②
第9回	プレゼンテーション実践①
第10回	プレゼンテーション実践②

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 キャリア・情報	
科目名	プレゼンテーション・スキル	
第11回	プレゼンテーション発表時の聞き方と質疑応答	
第12回	プレゼンテーション実践③	
第13回	プレゼンテーション実践④	
第14回	プレゼンテーション発表①	
第15回	プレゼンテーション発表②	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	プレゼンテーション発表(30%)、発表に対する評価と質疑応答(25%)、各回で課す課題への取り組み(45%:15回×3点)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 キャリア・情報					
科目名		協働と対人関係					
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	加藤 剛寿		
到達目標							
<p>1)「協働」の意義を説明でき、チームでミッションを達成できる。</p> <p>2)「望ましい対人関係をどう築き上げるか」を複数の視点から、具体的に説明できる。</p> <p>3)今後の就職活動の流れを説明でき、就職活動の準備について実践できる。</p> <p>4)SPI試験(能力検査)で高得点を取ることができる。</p>							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
<p>特に必須で求めているものはないが、可能であれば様々な課外活動、自己分析、企業分析、SPI試験対策を自身でも進めておくこと本授業の理解は深まると考える。</p> <p>※本科目は前身の「進路とキャリア」を兼ねていることから、就職活動の準備を実践できる内容も盛り込んでいる。日本での就職を考えている学生は就職活動のスタートに出遅れないためにも特に3年生は受講必須が望ましい。また、3年生以外の受講も可とする。</p> <p>※本科目はチームでの実践演習が組み込まれている。また、外部の専門家の方々から直接、語っていただける貴重な機会も設けている。さらには学外の企業説明会へも参加させていただく機会を予定している。これらのプログラムの受講を経て、課題やレポートの</p>							
テキスト							
<p>参考文献</p> <p>1)野村浩子:異なる人と「対話」する本気のダイバーシティ経営, 日本経済新聞出版社, 2021.</p> <p>2)エイミー・C・エドモンドソン:恐れのない組織〜「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす〜, 英治出版, 2021.</p> <p>3)松村亜里:誰もが幸せに成長できる心理的安全性の高め方, WAVE出版, 2022.</p> <p>4)長谷川浩:トラベルビー 人間対人間の看護, 医学書院, 1974.</p> <p>5)羽生祥子:SDGs、ESG経営に必須! 多様性って何ですか? D & I、ジェンダー平等入門, 日経BP, 2022.</p>							
講義内容							
<p>「協働」と「(望ましい)対人関係(を築くこと)」は、社会人基礎力の3つの能力のうち「チームで働く力」に関連付けられ、大変重要な内容と言える。どちらも重要な内容であることは理解しても、いざ実践となると、そう簡単に「協働」できないことや、「望ましい対人関係を築くこと」に困難を抱えることも少なくない。本科目責任者は、病院看護師、看護系及びダイバーシティ・インクルージョン(DEI)推進本部、さらには国際文化学部の大学教員の経歴があり、「協働」と「対人関係」について「看護」「DEI」「国際」「文化」は密接に関わっていることから考える機会が多かった。</p> <p>本科目では、この経験を活かし複数の視点で「協働」と「対人関係」について、学生と対話しながら理解を深めていく講義である。な</p>							
成績評価の方法							
<p>後述の成績評価の方法の表に沿って評価する。全15回中11回以上の出席かつ、100点中60点以上で単位を取得できる。各課題は各授業を受講していないと取り組めない内容になっている点、ご注意ください。</p>							
授業の方法							
<p>1)授業は一方的な指導(レクチャー)スタイルだけではなく、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング(学生が能動的に参加する授業展開)も適宜、取り入れ実施していく。</p> <p>2)1回の授業あたり予習・復習を合わせて4時間程度、実施する必要がある。</p> <p>3)教員の他、実践的な内容について、外部講師の登壇も予定している。</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 キャリア・情報
科目名	協働と対人関係
<p>1) 授業に関する重大な内容をTeamsでお知らせする場合があります。少なくとも、毎日、1日1回は必ず、Teamsでお知らせがないか、入念にご確認ください。Teamsのお知らせを閲覧できていなかったことにより不利益が生じた際、対応できない場合があります。予めご了承ください。</p> <p>2) 週末(土曜日、日曜日)、祝日などに札幌市内で行われる合同企業説明会へ参加が必要である。交通費等は自己負担となる点、留意する必要がある。合同企業説明会は、便宜上、第13～15回目に記載しておりますが、実際には前倒しのスケジュールでの実施となる予定です。体調管理、スケジュール管理を十分した上で、確実に参加できるよう臨んでください。</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	性格検査受験
第3回	就活スタートアップ講座(企業研究の方法、インターンシップ等の活用方法、留学生の就活ポイント、(SPI試験に準ずる)Webテスト受験説明等)
第4回	【グループディスカッション】「協働(できる力)」と「(望ましい)対人関係(を築ける力)」は本当に必要か? / どうすれば「協働」できるのか?
第5回	協働の実践① ～チームでミッション達成に向けた話し合い～
第6回	協働の実践② ～チームでミッション達成に向けた話し合い～
第7回	選考対策講座(エントリーシート/面接のポイント・マナー)
第8回	卒業後の進路の検討【就職・大学院進学】
第9回	AIを活用したエントリーシートの書き方
第10回	1)「ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン」風土の構築 2)「心理的安全性」の高め方

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 キャリア・情報	
科目名	協働と対人関係	
第11回	1)「人間対人間の看護」から学ぶ「対人関係」 2) 発達段階ごとの「個人の理解」	
第12回	SPI模擬試験(能力検査受験)	
第13回	合同企業説明会への参加①～企業のことを知る～	
第14回	合同企業説明会への参加②～企業が求める人物像を把握する～	
第15回	合同企業説明会への参加③～参加したいインターンシップを見つける～	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	50	SPI模擬試験(能力検査受験)(50点分)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	課題などの提出物(20点分:10点分×2回) レポート(30点)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 キャリア・情報						
科目名	マネジメント論						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	中田 和則		
到達目標							
経営学の基礎を学習する。企業の経営戦略・組織・マーケティングについて、自分の頭で考え判断できるようになることを到達目標とする。企業や組織の現状分析、経営改善や地域社会の発展に貢献していくための社会人としての基礎力を身に着ける。							
取得可能な資格							
特になし。							
受講登録以前に準備すること							
自分が就職したい企業または関心のある企業について新聞やネットで調べておくこと。							
テキスト							
特に指定しない。適時、講義内で指示する。							
講義内容							
経営学の基礎として、経営戦略・組織・マーケティングの各項目を採り上げ講義し学習する。最終的に、具体的な事例に当てはめ理解してもらうため、個別事例としてグループで事例発表してもらう。							
成績評価の方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・個人の事例発表プレゼンテーションの成績60%、参画率40% (40点×参画率)合計100点で評価。 ・理由のある欠席は4回まで5回以上の欠席は単位を認めない。 							
授業の方法							
講義形式で進めるが、最後はグループ(受講者の数によっては故人)で事例発表を行う。講義中に、随時、出席者の発言や意見を求める。毎回4時間程度の予復習が必要。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 キャリア・情報
科目名	マネジメント論
授業計画	
第1回	オリエンテーション
	担当教員 中田 和則
第2回	企業活動と経営戦略の全体概要
	担当教員 中田 和則
第3回	事業戦略(競争戦略)
	担当教員 中田 和則
第4回	企業戦略(成長戦略)
	担当教員 中田 和則
第5回	技術経営(イノベーション)
	担当教員 中田 和則
第6回	企業の社会的責任(CSR)とコーポレートガバナンス
	担当教員 中田 和則
第7回	組織構造論
	担当教員 中田 和則
第8回	組織行動論
	担当教員 中田 和則

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 キャリア・情報	
科目名	マネジメント論	
第9回	人的資源管理	
	担当教員	中田 和則
第10回	マーケティングマネジメント	
	担当教員	中田 和則
第11回	製品戦略(ブランド戦略)	
	担当教員	中田 和則
第12回	価格戦略・プロモーション戦略	
	担当教員	中田 和則
第13回	事例発表(個人発表)	
	担当教員	中田 和則
第14回	事例発表(個人発表)	
	担当教員	中田 和則
第15回	全体のまとめ	
	担当教員	中田 和則
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	個人事例発表の成績60%、参画率40%(40点×参画率)合計100点で成績評価。理由のある欠席は4回まで5回以上の欠席は単位を認めない。

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 キャリア・情報	
科目名	マネジメント論	
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 キャリア・情報						
科目名	地方自治論						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	杉山 維彦		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治の意義、制度の沿革等について理解する。 ・地方公共団体の事務、議会、執行機関等について理解する。 							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
特になし							
講義内容							
<p>本講義では、様々な分野によって構成されている地方行政・地方自治の現状を、市職員を講師に、実務者の観点から概説し、より身近にある自治について触れていきます。</p> <p>また、地方行政で行われている業務や、地方自治体が抱えている諸問題など、実務者の経験に基づき考えていきます。毎週4時間程度の予習・復習によって理解と定着が進む。</p>							
成績評価の方法							
<p>①授業の参加度(70%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師毎に課される小テスト、レポートの点数や内容を評価する。 ・授業への参加度や出席態度(遅刻や早期退席をはじめ、授業に無関係なPCやスマートフォンの使用、イヤホンの装着などは減点対象とする)等で評価する。 <p>②定期試験課題レポート(30%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期末の定期試験の時期に実施する(時期や課題、文字数等の条件については授業中口頭及びTeamsなどで通知する)。 							
授業の方法							
毎回市役所職員により講義形式にて行う							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 キャリア・情報
科目名	地方自治論
授業計画	
第1回	オリエンテーション(地方自治とは)
第2回	多様性・LGBTQ等について
第3回	特別地方公共団体・地方公共団体の組合等について
第4回	住民・税について
第5回	選挙について
第6回	選挙・直接請求について
第7回	議会について
第8回	福祉について
第9回	地方自治法の沿革について
第10回	財務について

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 キャリア・情報	
科目名	地方自治論	
第11回	市議会開催期間中のため未定	
第12回	市議会開催期間中のため未定	
第13回	条例及び規則について	
第14回	執行機関について	
第15回	市民参画について	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	30	レポートの構成、内容等で総合的に判断する ・与えられた課題に対し、その問題や解決策が具体的に述べられているものを評価する。 ・レポートの構成が非常識なもの、文字数が不足しているもの、文章の推敲がなされていないもの等については減点対象とする。
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	70	・講師毎に課される小テスト、レポートの点数や内容を評価する。 ・授業への参加度や出席態度(遅刻や早期退席をはじめ、授業に無関係なPCやスマートフォンの使用、イヤホンの装着などは減点対象とする)等で評価する。
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 キャリア・情報					
科目名		統計の基礎					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C103	担当教員	中田 和則		
到達目標							
統計および財務分析の基礎を学習する。統計や財務分析指標について学び、企業の財務や経営について、自分の頭で判断できるようになることを到達目標とする。統計や財務分析を通じて、経営改善や地域社会の発展に貢献していくための社会人としての基礎力を身に着ける。							
取得可能な資格							
特になし。							
受講登録以前に準備すること							
統計や財務分析について書籍等で調べておくこと。							
テキスト							
特に指定しない。適時、講義内で指示する。							
講義内容							
統計および経営分析の基礎として、各指標を採り上げ講義し学習する。基本的に企業事例の問題を計算分析し経営の実態、企業の経営の経営改善の方向性を自分の頭で考えてもらう。毎回、積極的な授業参画が求められる。							
成績評価の方法							
参画率(40点×参画率:40%)と中間テスト(30点)＋総合テスト(30点)の試験成績合計(60点:60%)合計100点。5回以上の欠席および試験の未受験者は単位を認めない。							
授業の方法							
基本的に、適時、学習した項目の確認と知識定着のために問題計算演習を行う。 必ず、計算機(スマホの計算機能使用もOK)を持参すること。毎回予習2時間、復習2時間の問題演習が必要。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 キャリア・情報
科目名	統計の基礎
授業計画	
第1回	オリエンテーション（統計・財務分析とは）
	担当教員 中田 和則
第2回	統計・財務分析指標について
	担当教員 中田 和則
第3回	事例問題演習
	担当教員 中田 和則
第4回	事例問題演習
	担当教員 中田 和則
第5回	事例問題演習
	担当教員 中田 和則
第6回	事例問題演習
	担当教員 中田 和則
第7回	中間テスト
	担当教員 中田 和則
第8回	事例問題演習
	担当教員 中田 和則

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 キャリア・情報	
科目名	統計の基礎	
第9回	事例問題演習	
	担当教員	中田 和則
第10回	事例問題演習	
	担当教員	中田 和則
第11回	事例問題演習	
	担当教員	中田 和則
第12回	事例問題演習	
	担当教員	中田 和則
第13回	事例問題演習	
	担当教員	中田 和則
第14回	総合テスト	
	担当教員	中田 和則
第15回	全体のまとめ	
	担当教員	中田 和則
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	参画率(40点×参画率:40%)と中間テスト(30点)＋総合テスト(30点)の試験成績合計(60点:60%)合計100点。5回以上の欠席と試験未受験者は単位を認めない。

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 キャリア・情報	
科目名	統計の基礎	
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 キャリア・情報						
科目名	データサイエンス						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	末富 弘		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・経営学入門レベルの知識を習得する。 ・データサイエンスの必要性と重要性を学修する。 ・データサイエンスを活用した経営について習得する。 							
取得可能な資格							
特になし。							
受講登録以前に準備すること							
総務省統計局の以下のHPを閲覧しておくこと。 https://www.stat.go.jp/dss/index.html							
テキスト							
都度、資料を配布する。							
講義内容							
経営学入門レベルの知識の習得する、データサイエンスの必要性と重要性の学修、データサイエンスを活用した経営について習得することを、教員の講義及び外部専門家による講義をまじえて行う。 受講前に事前配布した資料を理解し、受講後は内容について復習し、知識としてしっかり身に着ける。							
成績評価の方法							
期末レポート50%、毎回の受講態度50%で評価する。合計100点。60点以上が合格である・5回以上の欠席は単位を認定しない。							
授業の方法							
教員による講義が基本であるが、外部専門家による専門的な講義を行う場合もある。 事前配布された資料で2時間の予習(記載項目の事前理解)を行い、講義終了後に2時間の復習(授業内容の確認と習得)を行い補完する。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 キャリア・情報
科目名	データサイエンス
実務家教員による科目 1977～1998 北海道拓殖銀行 (1986～1988 北海道出向) 1998～2011 北洋銀行 (2000～2007 北海道TLO出向) 2011～ 苫小牧信用金庫	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	現代の科学と社会への活用を、Society5.0で学修し、理解する。
第3回	経営学入門を学修する。①(経営学とは何か)
第4回	経営学入門を学修する。②(現代の経営学の特徴～CSR、SDGs、ダイバーシティ等)
第5回	経営学入門を学修する。③(経営学の歴史的な発展の流れ)
第6回	経営学入門を学修する。④(企業の具体的な経営戦略～富士フィルム等)
第7回	経営学入門を学修する。⑤(道内企業の具体的な経営戦略～ニトリ、セイコーマート等)
第8回	データサイエンスとは何かを学修する。
第9回	データサイエンス入門を学修する①
第10回	データサイエンス入門を学修する②

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 キャリア・情報	
科目名	データサイエンス	
第11回	データサイエンス入門を学修する③	
第12回	データサイエンスの経営への活用事例を学修する。①	
第13回	データサイエンスの経営への活用事例を学修する。②	
第14回	データサイエンスの経営への活用事例を学修する。③	
第15回	データサイエンスの経営への活用事例を学修する。④	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	期末レポート50%、毎回の受講態度50%で評価する。合計100点。60点以上が合格である・5回以上の欠席は単位を認定しない。
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 キャリア・情報					
科目名		情報システム					
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	LL	担当教員	上原 貴史		
到達目標							
[1] 情報社会の根幹にある情報と情報システムの有用性について述べるができる [2] 情報システムの基本が説明できる [3] 安全に情報を収集することができる [4] 情報システムへのかかわり方について自分なりの考えを述べるができる							
取得可能な資格							
特に無し							
受講登録以前に準備すること							
特に無し							
テキスト							
【参】IPA ITパスポート試験 シラバス Ver6.3 (2023.12 独立行政法人 情報処理推進機構)							
講義内容							
情報機器及びシステムの把握や、担当業務の遂行及びシステム化を推進するために基礎的な内容について学ぶ。 [1] 利用する情報機器およびシステムを把握するために、コンピュータシステム、データベース、ネットワーク、情報セキュリティ、情報デザイン、情報メディアに関する内容 [2] 企業活動や関連業務の知識、システムの考え方や理論的な思考力(プログラミング的思考力など)、問題分析および問題解決手法に関する内容 [3] 安全に情報を収集し、効果的に活用するために、関連法規、情報セキュリティに関する各種規定、情報倫理に関する内容							
成績評価の方法							
・到達目標[1][2][3]は、主に定期試験で評価する。 ・到達目標[4]は、主に授業内の課題で評価する。 ・欠席5回以上⇒受験無資格(単位不認定) 授業への積極的な参加 30点(30%) 授業中に課す課題 20点(20%) 定期試験 50点(50%)							
授業の方法							
講義形式 【予習内容】 授業計画にある言葉を各自調べてから授業に参加すること 【復習内容】 授業で出した課題について、わからない言葉を調べること 予習、復習あわせて週4時間程度学習すること							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 キャリア・情報
科目名	情報システム
授業計画	
第1回	科目ガイダンス
第2回	システムとは、情報システムとは
第3回	企業活動、法務
第4回	経営戦略、技術戦略、ビジネスインダストリ
第5回	システム戦略、システム企画
第6回	システム開発技術、ソフトウェア開発管理技術
第7回	プロジェクトマネジメント
第8回	サービスマネジメント、システム監査
第9回	基礎理論 (AI関連含む)、アルゴリズムとプログラミング
第10回	ローコード開発

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 キャリア・情報	
科目名	情報システム	
第11回	コンピュータ構成要素、システム構成要素	
第12回	ソフトウェア、ハードウェア	
第13回	情報デザイン、情報メディア	
第14回	データベース、ネットワーク	
第15回	セキュリティ/まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	50	授業内からの課題から出題(70問)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	授業内での参加度・提出物 30% 授業内の課題(1講義あたり5~10問程度) 20%
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 キャリア・情報						
科目名	情報の収集と発信						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	西川 祥一		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・ジャーナリズムのベースとなるメディアの概況、特性、機能・役割について考察し、理解する。 ・メディア、ジャーナリズムの現況、課題、未来像などについて興味・関心を持ち、自ら調べ考える姿勢を養う。 							
取得可能な資格							
なし							
受講登録以前に準備すること							
なし							
テキスト							
藤竹暁、竹下俊郎、『図説 日本のメディア 伝統メディアはネットでどう変わるか』(NHK出版、2018年11月)							
講義内容							
<ul style="list-style-type: none"> ●メディアについて、その特徴・特性を学び、広くジャーナリズムのあり方について考え、理解を深めていく。報道・ニュースに限らず、広告やネット、SNSなど幅広い分野にわたる題材を取り上げ、考察を深めていく。 ●新聞・テレビ・雑誌・ラジオの4マスメディアに加え、ネットやSNSも含めた媒体について、その機能、役割、特性について概観、考察する。 ●フェイクニュースの問題やSDGsなど社会課題とジャーナリズム、ネット・SNS時代のメディア、ジャーナリズムのあり方を考える。 							
成績評価の方法							
講義への積極的参加度を40%。全体のまとめとして課す課題レポートの評価を60%とし、その合計点で評価します。							
授業の方法							
<p>一方通行の座学は避け、受講する学生に意見を出してもらいながら、進めていきます。テーマによっては、グループワークを採用しながら、多角的な内容にしていきます。</p> <p>1回の授業ごとに、 予習(2時間) 次回の授業で取り上げる内容についておおまかな流れをつかんでおく。 復習(2時間) 授業で取り上げた重要なポイントを中心に、見直し、論点を整理する</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 キャリア・情報
科目名	情報の収集と発信
授業計画	
第1回	イントロダクション 授業内容紹介
第2回	日本のメディア概況、メディア環境の変化
第3回	メディアの機能・特性 新聞①
第4回	メディアの機能・特性 新聞②
第5回	メディアの機能・特性 テレビ①
第6回	メディアの機能・特性 テレビ②
第7回	メディアの機能・特性 書籍・雑誌①
第8回	メディアの機能・特性 書籍・雑誌②
第9回	メディアの機能・特性 ラジオ
第10回	SNSの現在・SNSでのコミュニケーション

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 キャリア・情報	
科目名	情報の収集と発信	
第11回	フェイクニュース／メディア不信の実際	
第12回	メディアの誤報	
第13回	ジャーナリズムの現場	
第14回	ジャーナリズムを守る	
第15回	職業としてのジャーナリズム	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への積極的参加度を40%、期末課題レポートの評価を60%とし、その合計点で評価します。
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 文化・社会						
科目名	多文化社会論						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	末富 弘		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・経営学の基礎を学修し、説明できるようになる。 ・日本はグローバル化の進展により、多文化社会になってきたが、その中での経営戦略について学修する。 ・今後の多文化社会の在り方について提言をまとめる。 							
取得可能な資格							
特になし。							
受講登録以前に準備すること							
<p>(公財)東京都市町村実意自治調査会発行「日本における外国人の動向と受入れ側の多文化共生に係る取組の実態」を事前に読み込んでおくこと。 https://www.tama-100.or.jp/cmsfiles/contents/0000000/768/1.pdf 北海道総合政策部「外国人材に関する取り組み」を読み込んでおくこと。 https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/gaikokujinzai.html</p>							
テキスト							
都度、配布する。							
講義内容							
<ul style="list-style-type: none"> ・経営学の基礎を学修し、説明できるようになる。 ・日本はグローバル化の進展により、多文化社会になってきたが、その中での経営戦略について学修する。 ・今後の多文化社会の在り方について提言をまとめる。 							
成績評価の方法							
期末レポート50%、毎回の受講態度50%で評価する。合計100点。60点以上が合格である・5回以上の欠席は単位を認定しない。							
授業の方法							
教員が配布する資料を基に学修するが、外部専門家による全問的な講義を行う場合がある。事前配布資料で2時間の予習(記載事項の理解)を行い、講義終了後は2時間の復習(授業内容の確認・習得)を行って、説明できるようにする。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 文化・社会
科目名	多文化社会論
実務家教員による科目 1977～1998 北海道拓殖銀行 (1986～1988 北海道出向) 1998～2011 北洋銀行 (2000～2007 北海道TLO出向) 2011～ 苫小牧信用金庫	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	経営学入門(経営戦略①)について学修する。
第3回	経営学入門(経営戦略②)について学修する。
第4回	経営学入門(マーケティング①)について学修する。
第5回	経営学入門(マーケティング②)について学修する。
第6回	東京都の外国人対応について学修する。①
第7回	東京都の外国人対応について学修する。②
第8回	北海道の外交人対応について学修する。①
第9回	北海道の外交人対応について学修する。②
第10回	北海道の外交人対応について学修する。③

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 文化・社会	
科目名	多文化社会論	
第11回	経営管理論(海外進出)について学修する。	
第12回	経営管理論(人事管理)について学修する。	
第13回	多文化社会における経営戦略について提言をまとめる。①	
第14回	多文化社会における経営戦略について提言をまとめる。②	
第15回	外部専門家による指導を受け、修正する。	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	期末レポート50%、毎回の受講態度50%で評価する。合計100点。60点以上が合格である・5回以上の欠席は単位を認定しない。
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 文化・社会					
科目名		異文化交流論					
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	樋口 葵		
到達目標							
<p>自国や自身とは異なる文化や常識に触れ、違いを認識できる。 自国や自らを振り返るきっかけになる。 客観性を持ち、相手を尊重する姿勢を持つことができる。 相手に合わせたコミュニケーションや態度、対応ができる。</p>							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
日頃からさまざまな人々と交流すること。							
テキスト							
特になし							
講義内容							
<p>異文化交流とは、自分と異なる価値観やバックグラウンド(出身地・年齢・性別・環境など)を持つ人と交流を図ることだ。国境を超えた資本や労働力の移動が活発化し世界との結びつきが深まるなか、グローバル人材として活躍するためには異文化交流への理解が欠かせない。苫小牧市内でも外国人技能実習生や留学生の姿を目にする機会が増えるなど、異文化交流への注目度が高まっている。しかしながら、「外国人との接し方がわからない」などの課題を抱える場合も少なくない。また、海外と日本の違いだけでなく、日本人同士においてもバックグラウンドが異なるわけで、自分とは違う文化や習慣、考え方、価値観を受け入れる必要がある。本授業では、本学の学生同士が活発的に交流や発表し合う機会を設け、自分と相手の違いを理解し尊重する姿勢を学ぶ。</p>							
成績評価の方法							
リアクションペーパーを含めた小レポートやグループワーク(45%:15回×3点)、発表(35%)、レポート(20%)							
授業の方法							
<p>受講生が実践的に交流するアクティブ・ラーニング型の授業である。ペアワークやグループワークを毎回の授業で行い、活発的に話し合う。また、毎週4時間程度の予習として、次回の授業内容をはじめ異文化にまつわるさまざまなテーマを課し、受講生がそのテーマに関して事前に文献やインターネットなどで調べる機会を提供する。</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 文化・社会
科目名	異文化交流論
授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	異文化コミュニケーション
第3回	世界と日本
第4回	異文化理解とカルチャーツーリズム
第5回	異文化適応とカルチャーショック
第6回	異文化による学校生活の違い
第7回	異文化によるマナー・生活文化の違い
第8回	異文化による食文化の違い
第9回	異文化による住空間の違い
第10回	遊び・昔話の異文化

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 文化・社会	
科目名	異文化交流論	
第11回	海外のタブーな文化	
第12回	多文化共生社会	
第13回	プレゼンテーション①	
第14回	プレゼンテーション②	
第15回	総括	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	リアクションペーパーを含めた小レポートやグループワーク(45%:15回×3点)、発表(35%)、レポート(20%)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 文化・社会						
科目名	国際関係論						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	オンライン	担当教員	麻生川 静男		
到達目標							
1. 世界の各文化圏の特徴を歴史的視点から説明することができる。 2. 自分の国の長所・短所を国際比較の観点で冷静に判断できる。 3. 現在の国際情勢について、自分なりの考えを構築できる。 4. 今後のグローバル社会をどのように生きていけばよいか確信がもてる。							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
項目が多岐に渡るため、テキストはありません。ただし、單元ごとに参考文献を紹介します。授業の後で各人が関心のあるテーマに関し、自主的に選択して読んでください。							
講義内容							
<p>現代の世界は、政治、経済、文化、あらゆる面で国際化(グローバル化)が進展しています。どの国も国内事情だけで、政治を決めることはできなくなっています。</p> <p>多岐にわたる国際関係の複雑なからみあいの中で、一市民として自分の国の問題だけでなく、国際情勢に関しても高い見識を持つことが、今後の世界平和と発展のためには重要です。</p>							
成績評価の方法							
授業参加度 — 30点 毎回の授業まとめ — 70点							
授業の方法							
基本は講義ですが、授業中では学生に質問することが多くあります。また、あるテーマに関して議論することが発生するでしょう。いずれの場合も、積極的な発言が求められます。自主的で積極的な授業参加を期待します。 復習は授業に使ったスライド資料を再読し、自分で考えを深めること。(約1時間)							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 文化・社会
科目名	国際関係論
授業計画	
第1回	自己紹介、授業内容の概要
第2回	欧米の歴史と文化(その1)
第3回	欧米の歴史と文化(その2)
第4回	東欧・ロシア・ウクライナの歴史と文化
第5回	イスラム・中央アジアの歴史と文化
第6回	アフリカ・南太平洋の歴史と文化
第7回	インド・東南アジアの歴史と文化
第8回	中国の歴史と文化
第9回	朝鮮・韓国の歴史と文化
第10回	日本の歴史と文化

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 文化・社会	
科目名	国際関係論	
第11回	文明の対立、宗教の対立	
第12回	戦争・地域紛争、領土問題、政治体制の対立	
第13回	地球規模の環境問題、資源問題、ゴミ問題	
第14回	自由・人権問題、SDGs、奴隷問題、南北問題	
第15回	自らの力で国際関係を考えることができるために	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	30	発言等による授業参加態度が成績の30%を占めます。
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	70	毎回の授業の後に、短いまとめ(内容概要、批評、自分の意見、コメント等)を提出してもらいます。その内容が、成績の70%を占めます。
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 文化・社会						
科目名	ジェンダー論						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	尾野 裕子		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーをめぐる問題が、どのような経緯で生じるかを説明することができる。 ・多様な生き方を認め合う、相互尊重の姿勢を实践できる。 							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
なし							
講義内容							
<p>ジェンダーとは、社会的、文化的に作られる性別のことを指します。この講義では様々なニュース、データ、書類に触れながら、ジェンダーについて考察していきます。</p> <p>また、講義の中でグループワークの時間を設け、体験的に相互尊重を学んでいきます。</p>							
成績評価の方法							
<p>第1回～第15回のうちに行う下記の課題にて評価します。</p> <p>小テスト2回×20%、プレゼンテーション2回×20%、まとめ1回×20%</p>							
授業の方法							
<p>講師の準備する資料をもとに、講義を進めます。</p> <p>予習として、ジェンダー関連の用語を調べたり、ジェンダーに関する新聞の記事を読んできてください(40分程度)。</p> <p>復習として、講義内容の振り返りを行い、理解が不足しているものがあれば復習し、さらに発展的に調べたいことがあれば探求してください(20分程度)。</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 文化・社会
科目名	ジェンダー論
<p>翻訳アプリを使わずに授業を聴講し、他の学生と日本語でコミュニケーションを取れる学生のみ受講を許可します。日本語能力が不足していると思われる学生には、受講をお断りすることがありますので、ご了承ください。</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	ジェンダー論概説(1) 世代とジェンダー
第3回	ジェンダー論概説(2) 現在の課題
第4回	諸外国のジェンダー
第5回	政治・法律とジェンダー
第6回	マスメディアとジェンダー
第7回	性とジェンダー(1) 多様な性
第8回	性とジェンダー(2) 恋愛、デートDV
第9回	性とジェンダー(3) ジェンダーバイアスと性犯罪
第10回	性とジェンダー(4) 性的マイノリティが守られるためには

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 文化・社会	
科目名	ジェンダー論	
第11回	労働とジェンダー(1)女性と労働	
第12回	労働とジェンダー(2)社会保険制度と女性の労働	
第13回	今後の展望(1)男性学の登場	
第14回	今後の展望(2)子育て、教育	
第15回	まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト2回×20%、プレゼンテーション2回×20%、まとめ1回×20%
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 文化・社会						
科目名	持続可能社会論						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	末富 弘		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs(持続可能な開発目標)について学修し、説明できるようにする。 ・北海道における、地方自治体や企業のSDGsの取り組みを学修し、北海道の持続可能な社会づくりを提言する。 ・SDGs実現のための新規事業を検討する。 							
取得可能な資格							
特になし。							
受講登録以前に準備すること							
北海道の以下のHPを閲覧しておくこと。「北海道におけるSDGsの推進について」 https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sks/SDGs/93952.html							
テキスト							
都度、配布する。							
講義内容							
SDGs(持続可能な開発目標)の必要性と重要性について、教員の講義で学修する。 最終的には、SDGsを実現するための提言をまとめ、新規事業のネタにする。 事前資料を指定するので予習を行い、講義後は内容について復習し身に着ける。							
成績評価の方法							
期末レポート50%、毎回の受講態度50%で評価する。合計100点。60点以上が合格である・5回以上の欠席は単位を認定しない。							
授業の方法							
教員による講義が基本であるが、外部専門家による専門的な講義を行う場合もある。 事前配布された資料で2時間の予習(記載事項の理解)を行い、講義終了後に2時間の復習(授業内容の確認・習得)を行って補完する。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 文化・社会
科目名	持続可能社会論
実務家教員による科目 1977～1998 北海道拓殖銀行 (1986～1988 北海道出向) 1998～2011 北洋銀行 (2000～2007 北海道TLO出向) 2011～ 苫小牧信用金庫	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	SDGs(持続可能な開発目標)とは何かを、学修する。
第3回	北海道におけるSDGsの推進について、学修する。(1)
第4回	北海道におけるSDGsの推進について、学修する。(2)
第5回	北海道内各地域のSDGs推進状況について学修する。
第6回	北海道のゼロカーボン推進計画について学修する。(1)
第7回	北海道のゼロカーボン推進計画について学修する。(2)
第8回	企業の経営とSDGsの関係について学修する。
第9回	国内企業のSDGsに関する取り組みについて学修する。
第10回	道内企業のSDGsに関する取り組みについて学修する。

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 文化・社会	
科目名	持続可能社会論	
第11回	道内市町村のSDGsへの取り組みについて提言をまとめる。(1)	
第12回	道内市町村のSDGsへの取り組みについて提言をまとめる。(2)	
第13回	道内企業のSDGsへの取り組みについて提言をまとめる。(1)	
第14回	道内企業のSDGsへの取り組みについて提言をまとめる。(2)	
第15回	提言について外部専門家の指導を受け、修正する。	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	期末レポート50%、毎回の受講態度50%で評価する。合計100店で、60点以上を単位認定する。5回以上の欠席は単位を認定しない。
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 文化・社会						
科目名	英語で学ぶ日本						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	加藤 剛寿		
到達目標							
日本にまつわるキーワードについて、英語で説明することができる。							
取得可能な資格							
特になし。							
受講登録以前に準備すること							
1) 第2回目の授業からテキストを使用するので、受講される方は、速やかに下記のテキストを購入できるよう予め準備してください。 2) 15回の授業、全て大事な内容であり、1回も休むことのないよう、受講登録以前から体調管理を十分整えて臨んでください。							
テキスト							
コスモピア編集部 編:増補改訂第2版 英語で語るニッポン, コスモピア, 2023.							
講義内容							
本授業は、テキストに沿って、日本にまつわるキーワードを、英語で説明できるようにリーディング、スピーキングを実施する。キーワードは、日本に関する食、住まい、教育・社会、現代文化、日本の習慣、価値観、伝統文化、観光地の9つのジャンル毎に授業展開していく。							
成績評価の方法							
1回分の試験(100点)で評価する。全15回中11回以上の出席かつ、試験が60点以上で単位を取得できる。特段の理由(学校感染症、忌引き)による欠席以外の欠席(未受験)の場合は、追試験の対象外であるので、体調管理に十分注意して臨んでください。							
授業の方法							
1) 授業は教員からのテキストを使用した一方的な指導(レクチャー)スタイルだけではなく、修得した文章を使ったクイズ、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング(学生が能動的に参加する授業展開)も適宜、取り入れ実施していく。 2) 1回の授業あたり予習・復習を合わせて4時間程度、実施し知識の定着を図り、試験で高得点が取れるよう臨んでください。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 文化・社会
科目名	英語で学ぶ日本
<p>授業に関する重大な内容をTeamsでお知らせする場合があります。少なくとも、毎日、1日1回は必ず、Teamsでお知らせがないか、入念にご確認ください。Teamsのお知らせを閲覧できていなかったことにより不利益が生じた際、対応できない場合があります。予めご了承ください。</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	英語で日本を語るためのテクニック
第3回	英語で日本を語る 一食 その1ー
第4回	英語で日本を語る 一食 その2ー
第5回	英語で日本を語る 一住まい・生活ー
第6回	英語で日本を語る 一教育・社会生活ー
第7回	英語で日本を語る 一現代日本 その1ー
第8回	英語で日本を語る 一現代日本 その2ー
第9回	英語で日本を語る 一昔から今につながる習慣 その1ー
第10回	英語で日本を語る 一昔から今につながる習慣 その2ー

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 文化・社会	
科目名	英語で学ぶ日本	
第11回	英語で日本を語る ー価値観・考え方ー	
第12回	英語で日本を語る ー伝統文化ー	
第13回	英語で日本を語る ー観光地ー	
第14回	試験／まとめ	
第15回	フィードバック	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	100	試験:100点(100点×1回分)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 文化・社会					
科目名		中国歴史文化論					
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	田 桃雨		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・中国語圏の文化を理解できる。 ・日本の文化と比較しながら、異文化を理解出来る。 							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
資料、プリントを配布する。 参考書 吳思佳、孟玮 (2023)『中国文化』大连理工大学出版社。							
講義内容							
この授業は、中国語圏の地域文化・言語文化に関する基礎知識を学ぶ。日本の文化と比較しながら異文化を理解することで、異文化コミュニケーション能力の向上をはかる。							
成績評価の方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み(30%):積極的に授業に参加し、教員の質問に答える必要がある。毎回の授業は2点とする。 ・発表・課題の提出(30%):一回以上発表する必要がある(15%)+グループディスカッションの意見のまとめ(15%)。 ・期末レポート(40%):授業のテーマを一つ選んで、日本文化との比較を行う。 							
授業の方法							
講義と演習をバランスよく行う。 演習については、具体的にはグループワークや個人発表などの手法を用いる。 1回の授業につき、予習と復習が必要、目安は週に4時間ぐらい。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 文化・社会
科目名	中国歴史文化論
参考書: 武田雅哉・加部勇一郎・田村容子 (2016)『中国文化55のキーワード』ミネルヴァ書房 湯浅邦弘(2016)『テーマで読み解く中国の文化』ミネルヴァ書房	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	中華料理について
第3回	中国のお茶について
第4回	中国の伝統行事について
第5回	漢服について
第6回	書道について
第7回	中国画について
第8回	中国の戯曲について
第9回	中国の音楽について
第10回	中国の民間工芸について

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 文化・社会	
科目名	中国歴史文化論	
第11回	磁器について	
第12回	カンフーについて	
第13回	中医学について	
第14回	中国の庭園について	
第15回	中国の世界遺産について	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み(30%):積極的に授業に参加し、教員の質問に答える必要がある。毎回の授業は2点とする。 ・発表・課題の提出(30%):一回以上発表する必要がある(15%)+グループディスカッションの意見のまとめ(15%)。
その他	40	<ul style="list-style-type: none"> ・期末レポート(40%):授業のテーマを一つ選んで、日本文化との比較を行う。

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 文化・社会						
科目名	オセアニア歴史文化論						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	種石 悠		
到達目標							
<p>現生人類が発生したアフリカからオセアニア海域、さらにはアメリカ大陸、イースター島に到達するまでの歴史と文化について、考古学的手法ほかによって理解できるようにする。 人類の島嶼域における海洋適応について、理解できるようにする。</p>							
取得可能な資格							
博物館学芸員							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
<p>小野林太郎 2018年『海の人類史 東南アジア・オセアニア海域の考古学』雄山閣 ※初版でも増補改訂版でも構わない。</p>							
講義内容							
<p>現生人類が発生したアフリカからオセアニア海域に到達するまでの歴史と文化について、また、人類の島嶼域における海洋適応について、考古学の観点から解説する。</p>							
成績評価の方法							
<p>毎回講義後のリアクションペーパー(3点×15回=45点、45%)、期末レポート(55点、55%)</p>							
授業の方法							
<p>テキストに沿いながら、適宜スライドを用いて解説する。講義終了後に、リアクションペーパーを記入いただく。講義はテキストの章ごとに毎回進めてゆくの、講義の前に2時間をかけてわからない語句等を予習し、講義後は関連文献などを用いて2時間をかけて復習を行なう。</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 文化・社会
科目名	オセアニア歴史文化論
授業計画	
第1回	ガイダンス なぜオセアニア史を学ぶのか
第2回	環太平洋と海の人類史①
第3回	環太平洋と海の人類史②
第4回	人類の進化と海との出会い①
第5回	人類の進化と海との出会い②
第6回	旧人・新人による海洋適応と環太平洋圏への進出①
第7回	旧人・新人による海洋適応と環太平洋圏への進出②
第8回	新人によるウォーレンシア海域への進出と海洋適応①
第9回	新人によるウォーレンシア海域への進出と海洋適応②
第10回	完新世～新石器時代の人類拡散と海洋適応①

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 文化・社会	
科目名	オセアニア歴史文化論	
第11回	完新世～新石器時代の人類拡散と海洋適応②	
第12回	金属器時代と海域ネットワークの生成①	
第13回	金属器時代と海域ネットワークの生成②	
第14回	南太平洋の巨石文化と海洋文化の盛衰	
第15回	環太平洋圏と海の文明史	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	45	講義終了後のリアクションペーパー(3点×15回)
その他	55	期末レポート(55点)

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	Advanced Reading II						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	オンライン	担当教員	福嶋 剛司		
到達目標							
<p>自律した英語学習者として教授者からの指導がなくとも、自分で学習を続けていけるようになるためには、正確な読解を含めたインプット能力を育成することが不可欠である。</p> <p>本講義では、精読演習・解説を中心に英語の読解時にどのような文法項目・知識が組み合わされて理解が行われるかをじっくりと行い、自分で英文を誤読なく読めるようにすることを目指す。</p>							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
<p>教科書の購入(第1、2回目を除く)</p> <p>英和もしくは英英辞典の用意の準備(紙・電子辞書を問わない)</p>							
テキスト							
Andrew E. Bennett (2015) Reading Pass 2 Second Edition, NAN ³ UN-DO.							
講義内容							
<p>読解用に教員が提示する英文を用いて、読解に必要な要素(語彙・文法・品詞・構文)の理解をはかる。多角的に進めるために練習問題とともにその他演習を多分に含め進めていく。</p> <p>授業は計画にあるUnitの解説から始めるため毎回、提出期限日までにUnitの本文を自身で日本語にすることで受講者の理解度を確認し授業を進める。</p> <p>また音声を使用しネイティブスピーカーの音声を使った復習も行うことが必須である。ただし、参加者の状況・進度によっては授業計画を若干修正する場合もあるので教員の指示に注意すること。その他、授業中に用いる資料はTeamsを使用し共有するため、適宜</p>							
成績評価の方法							
<p>授業内での課題・議論の積極性(16%)</p> <p>和訳課題(42%):3点×14回</p> <p>小テスト(42%):3点×14回</p>							
授業の方法							
<p>教科書の進捗に合わせて、予習(各回2-3時間程度)することが必須である。また正しく精読ができているかに関しては適宜、受講者全員に和訳を課すため、定期的な課題の提出が面倒である、日本語能力に不安がある、もしくは和訳を好まないなどの学生の受講はおすすしめない。また英文を丁寧に読む方法を確認した後は定着のために復習(各回1-2時間程度)が必要となる。読む力は、聞く・書く・話す力を構成する上でも重要な能力であるため、英語能力を本気で向上させるつもりのある学生が参加するように求める。</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Advanced Reading II
授業計画	
第1回	授業ガイダンス・読解力に必要な要素・読解練習
第2回	Unit 1: Millenials
第3回	Unit 2: Green Profits
第4回	Unit 3: Well-Loved Pets
第5回	Unit 5: Viral Marketing
第6回	Unit 6: TED Talks
第7回	Unit 7: The Gossip Media
第8回	Unit 9: Adventure Tourism
第9回	Unit 12: Computer Actors
第10回	Unit 13: New York City

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Advanced Reading II	
第11回	Unit 14: Fresh Water: A Growing Crisis	
第12回	Unit 15: Exporting Culture	
第13回	Unit 16: Aging Populations	
第14回	Unit 18: Sotheby's	
第15回	Unit 20: Crime-Fighting Scientists	
成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での課題・議論の積極性(16%) 和訳課題(42%);3点×14回 小テスト(42%):3点×14回
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	Business English II						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	杉山 維彦		
到達目標							
1.進出単語を使用して文章を作成することができる 2.授業で学んだ基礎を身につけ、応用ができる 3.TOEICの試験の概要とパターンを理解することができる 4.TOEICを受験しスコア350点以上を取ることを到達目標とする							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
THE HIGH ROAD TO TOEIC® LISTENING AND READING TEST / Koji Hayakawaら4名 / 金星堂 / ISBN978-4-7647-4045-7 / ￥2,200(税込)							
講義内容							
企業で一般的に使用されるビジネス英語を解説・指導し、ビジネス分野での英語コミュニケーションの基礎力を養う。 様々なビジネスシーン・環境の解説を加えながら、テキストに沿ってTOEIC®の問題パターンに慣れるよう演習を実施する。							
成績評価の方法							
授業内での評価(単語Quiz・発表など) 30% (3回各10%) 授業外での評価(Reading演習など) 20% (2回各10%) 定期試験(期末試験) 50%							
授業の方法							
講義・演習を中心に行う。 授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要。 事前学習:新出単語の意味を事前にチェックし、テキストの会話の内容を理解する。(週各2時間) 事後学習:授業内にまとめた単語を見直して暗記すると共に、テキストの空欄を充填する。(週各2時間)							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Business English II
<p>グループワークや個人でのプレゼンテーションを行ってもらおう。 配布物(プリントなど)は、翌々回(次の次の回)までしか配布しないので、欠席する場合は注意! 授業内で小テストを行うことがあるので、欠席にした場合はその点数が無くなる。 定期試験(期末試験)を実施するが詳細は授業内で発表する。 よって、欠席した場合は、これらの情報や得点が得られない懸念があるので、なるべく欠席をしない様に。</p>	
授業計画	
第1回	プロローグ & ガイダンス(授業の概要&進め方、評価の方法、到達目標)
第2回	Unit 1:Travelをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第3回	Unit 1: Travelをテーマとした実用英語の演習を文法(時制)及び読解を中心に行う。
第4回	Unit 2: Dining Outをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第5回	Unit 2: Dining Outをテーマとした実用英語の演習を文法(主述の一致)及び読解を中心に行う。
第6回	Unit 3: Mediaをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第7回	Unit 3: Mediaをテーマとした実用英語の演習を文法(能動態・受動態)及び読解を中心に行う。
第8回	Unit 4: Entertainmentをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第9回	Unit 4:Entertainmentをテーマとした実用英語の演習を文法(動名詞・不定詞)及び読解を中心に行う。
第10回	Unit 5: Purchasingをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Business English II	
第11回	Unit 5: Purchasingをテーマとした実用英語の演習を文法(代名詞)及び読解を中心に行う。	
第12回	Unit 6: Clientsをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。	
第13回	Unit 6: Clientsをテーマとした実用英語の演習を文法(品詞)及び読解を中心に行う。	
第14回	Unit 7: Recruitingをテーマとした実用英語の演習を行う。	
第15回	エピローグ & まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	50	Listening & Reading(期末1回)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	授業内での評価(単語Quiz・発表など) 30%(3回各10%) 授業外での評価(Reading演習など) 20%(2回各10%)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	English Phonology						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	高橋 あすか		
到達目標							
英語の音素論、音節構造、語強勢、リズム、イントネーション、英語のアクセントの変異などを理解し、適切に使用できることを目標とします。							
取得可能な資格							
特になし。							
受講登録以前に準備すること							
テキスト、電子辞書(スマホ不可)又は英和辞書(紙)を必ず準備してください。							
テキスト							
フィリップ・カー、2021、英語音声学・音韻論入門(新版)、研究社							
講義内容							
テキストに沿って進め、練習問題に取り組みます。CDを聴きながら発音練習を何度も繰り返します。							
成績評価の方法							
小テスト 50% (5点×10回) 定期試験 50% (25点×2回) 欠席は4回までです。5回以上の欠席は単位認定できません。							
授業の方法							
テキストに沿って進めます。適宜ペアワーク、グループワークやディスカッション等も行い、学生同士が議論し、調べたことを発表する機会を提供します。毎週4時間程度の予習、復習が必要です。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	English Phonology
英語B2レベル以上の学生のみ受講可能です。	
授業計画	
第1回	英語音声学: 子音 (i)
第2回	英語音声学: 子音 (ii)
第3回	英語音声学: 母音 (i)
第4回	英語音声学: 母音 (ii)
第5回	音素論の原理
第6回	英語の音素
第7回	英語の音節構造
第8回	英語のリズムと語強勢
第9回	リズム・反転・弱化
第10回	英語のイントネーション

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	English Phonology	
第11回	書記音素論: つづり字と発音の関係	
第12回	英語のアクセント間の変異	
第13回	英語のアクセントの概要	
第14回	第一言語(L1)としての英語の音声と音韻の習得	
第15回	第二言語(L2)としての英語の音声と音韻の習得	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	50	定期試験 50% (25点×2回)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	小テスト 50% (5点×10回)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	English for Tourism						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	杉山 維彦		
到達目標							
1.海外旅行の流れについて知る。 2.事前に必要な旅行準備や入国書類などについて理解する。 3.自身の旅行知識を活用できるようになる。 4.海外を訪問することの意義について学ぶ。 以上について英語で説明できる。							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
世界中使える 瞬時に話せる旅行英会話大特訓 / 柴山かつの / Jサーチ出版 / 2024年 / ISBN978-4-8639-2615-8 / 1,320円(税込)							
講義内容							
テキストを使いながら、配布プリントも使って進めていく							
成績評価の方法							
授業内レポート40%(2回各20%)・小テスト 40%(4回各10%) 定期試験に代わるレポート 20%							
授業の方法							
毎回配布資料またはテキストを読み、理解し、それを英語で説明できるよう演習する。 その後授業内課題(レポート)もしくは小テストを行う。 授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要。 【事前学習】 各回の授業テーマに該当する内容・役割・動向をインターネットなどで情報収集し、内容を取りまとめておく。(週各2時間)。 【事後学習】 授業で学んだ内容を振り返り、知識の定着を図ると共に、疑問な点を発見した場合は、まず自身で調べ、それでも不明							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	English for Tourism
<p>個人でのプレゼンテーションを行ってもらおう。 配布物(プリントなど)は、翌々回(次の次の回)までしか配布しないので、欠席する場合は注意! 授業内で課題や小テストを行うので、欠席にした場合はその点数が無くなる。 定期試験(期末試験)を実施するが詳細は授業内で発表する。 よって、欠席した場合は、これらの情報や得点が得られない懸念があるので、なるべく欠席をしない様に。 Schedules are subject to change without notice.</p>	
授業計画	
第1回	プロローグ & ガイダンス(授業の進め方・評価法)
第2回	航空関係の英語① @空港でチェックイン
第3回	航空関係の英語② @機内
第4回	ホテルの英語① @ホテルでチェックイン
第5回	ホテルの英語② @客室でトラブル
第6回	ショッピングでの英語① @ショッピングセンター
第7回	ショッピングでの英語② @ブランド店
第8回	旅行先での会話① @鉄道駅や観光地
第9回	旅行先での会話② @レストラン
第10回	旅行先での会話③ @財布を盗まれ警察署

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	English for Tourism	
第11回	世界の観光地	
第12回	日本の観光地	
第13回	欧米の文化	
第14回	海外での笑い話と笑えない話	
第15回	エピローグ & まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内レポート40%(2回各20%)・小テスト 40%(4回各10%) 定期試験に代わるレポート 20%
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	Extensive Reading II (日)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	福本 達也		
到達目標							
日本語能力試験N2・N3レベルの日本語の語彙の知識を身につけることができる。 日本語能力試験N2・N3レベルの日本語運用能力を身につけることができる。							
取得可能な資格							
日本語能力試験N2・N3の合格を目指すことができる。							
受講登録以前に準備すること							
日本語能力試験N3・N4レベルの日本語の語彙の知識を習得していることが望ましい。							
テキスト							
視聴覚資料、印刷物などを配布。場合によって映像を見る。 氏原康子・佐伯玲子共著(2017)『日本語能力試験N2語彙必修パターン』有限会社リサーチ出版 その他の参考文献は授業中に紹介する。							
講義内容							
まず、日本語能力試験N3レベルの語彙事項の復習をし、練習問題を解く。 次に、N2レベルの語彙事項を学び、練習問題を解く。 最後にN2レベルの模擬試験の問題を解いてみる。							
成績評価の方法							
授業への貢献度(30%)、授業内の課題(30%)、期末課題・試験(40%)などにより総合的に評価する。							
授業の方法							
毎回語彙事項の説明をした後、練習問題を解いてみる。その後問題の正答と解説をする。 小テストを実施することがある。復習として課題を作成し次の週に提出させる。復習時間は毎週4時間程度必要。期末には模擬テストを実施する。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Extensive Reading II (日)
授業計画は学生の理解・習得の程度などにより変更することがある。	
授業計画	
第1回	語彙の基礎編①: 伸ばす音・伸ばさない音
第2回	語彙の基礎編②: 詰まる音・詰まらない音
第3回	語彙の基礎編③: 「清音」「濁音」「半濁音」
第4回	語彙の基礎編④: 「ん」が入る音
第5回	語彙の基礎編⑤: 漢字の訓読みに注意したい言葉
第6回	語彙の基礎編⑥: いろいろな読み方をする初級漢字
第7回	語彙の基礎編⑦: 読み方が同じ言葉
第8回	N2語彙問題の対策準備①: 漢字の訓読みに注意したい言葉
第9回	N2語彙問題の対策準備②: いろいろな意味を持つ言葉
第10回	N2語彙問題の対策準備③: 形が似ている言葉

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Extensive Reading II (日)	
第11回	N2語彙問題の対策準備④:意味が似ている言葉	
第12回	N2語彙問題の対策準備⑤:一字で言葉になるもの	
第13回	N2語彙問題の対策準備⑥:前に付く語・後ろに付く語	
第14回	N2語彙問題の対策準備⑦:特別な読み方の言葉、「たとえ」の表現	
第15回	N2語彙模擬試験、解答と解説	
成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	授業での貢献度(30%)、5回以上の欠席は単位認定できない。また、授業での説明を聴いたり練習をする態度・姿勢、積極性などによって評価する。(毎回0~2点評価)X15回=30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):課題を確実に取り組んでいるか、要求通りにできているかによって評価する。(毎回0~2点評価)X15回=30点満点(評価30%)
その他	40	期末課題・試験(40%)、最後の授業の時模擬試験を行う。模擬試験に真剣に取り組んでいるか、問題がどれだけできたかで評価する。40点満点。

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	Extensive Reading IV (英)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	杉山 維彦		
到達目標							
1. 基本的な英語の知識(語彙、英文法)を習得し、テキストの英文をより正確に理解することができる。 2. テキストの英文を正しい発音でスムーズに音読することができる。 3. 英語のリズムや発音の特徴をつかみ、まとまった英文を効率よく聴いたり読んだりできる。 4. テキストの英文内容を理解し、テーマについての知識を広げたり理解を深めたりできる。							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
Reading Link / Robert Hickling, Misato Usukura / 金星堂 / ¥2,310 / 2024年 / ISBN978-4-7647-4100-3							
講義内容							
基本的にテキストを使用し、その単元を順番に行っていく。 なお、学生に返答を求める。							
成績評価の方法							
授業内での評価(単語Quiz・発表など) 30% (3回各10%) 授業外での評価(Reading演習など) 20% (2回各10%) 定期試験(期末試験) 50%							
授業の方法							
講義・演習を中心に行う。 授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要。 事前学習: 新出単語の意味を事前にチェックし、テキストの会話の内容を理解する。(週各2時間) 事後学習: 授業内にまとめた単語を見直して暗記すると共に、テキストの空欄を充填する。(週各2時間)							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Extensive Reading IV (英)
<p>グループワークや個人でのプレゼンテーションを行ってもらおう。 配布物(プリントなど)は、翌々回(次の次の回)までしか配布しないので、欠席する場合は注意! 授業内で小テストを行うことがあるので、欠席にした場合はその点数が無くなる。 定期試験(期末試験)を実施するが詳細は授業内で発表する。 よって、欠席した場合は、これらの情報や得点が得られない懸念があるので、なるべく欠席をしない様に。 Schedules are subject to change without notice.</p>	
授業計画	
第1回	プロローグ & ガイダンス(授業の進め方・評価法など)
第2回	Unit 1 Who Is Pepper? [現在形]
第3回	Unit 2 ① What's It Like to Be a Self-Sufficient Family? [代名詞]
第4回	Unit 2 ②
第5回	Unit 3 ① Why Did Starbucks Become a Hit in Japan? [過去形]
第6回	Unit 3 ②
第7回	Unit 4 ① How Do Americans Celebrate Halloween? [可算名詞・不可算名詞]
第8回	Unit 4 ②
第9回	Unit 5 ① Do You Want to Travel Back in Time to a Roman Thermae? [時と場所を表す前置詞]
第10回	Unit 5 ②

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Extensive Reading IV (英)	
第11回	Unit 6 ① Are You Going Cashless? [進行形]	
第12回	Unit ②	
第13回	Unit 7	
第14回	Unit 8 Would You Like to Be a Pioneer Like Coco Chanel? [動名詞・不定詞]	
第15回	エピローグ & まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	50	Listening & Reading (期末試験)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	授業内での評価(単語Quiz・発表など) 30% (3回各10%) 授業外での評価(Reading演習など) 20% (2回各10%)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	Extensive Reading IV (日)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C323	担当教員	黄 美花		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・日常の資料の中から重要な情報を探し出し理解できる。 ・身近な話題についての簡単な新聞記事から重要点を取り出すことができる。 ・学校、余暇などの場面でふだん出会う、ごく身近な事柄について要点を理解できる。 							
取得可能な資格							
日本語能力試験N3、N2の合格を目指すことができる。							
受講登録以前に準備すること							
日本語能力試験N4、N3レベルの日本語を習得していることが望ましい。							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・指定テキストは特になし。 ・必要に応じて、その都度ハンドアウトを配布する。 ・参考文献は、授業中に適宜紹介する。 							
講義内容							
1. 私が紹介したい人 2. 地域の文化を知る 3. 新聞記事を読む 4. ポスター作成 この4つのテーマを中心に、日本語で話す・読む・書く練習を行う。また、N3とN2の聴解練習も行う。							
成績評価の方法							
授業への参加度30%(2点×15回)、授業内の課題30%(6点×5回)、聴解20%(4点×5回)、ミニ発表20%(4点×5回)により総合的に評価する。							
授業の方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業は、話す(やりとり)→読む→書く→話す(ミニ発表)流れで進める。 ・読む・書く課題は、「Extensive Reading IV ノート」にまとめて、提出する。 ・学期はじめに設定した各テーマに沿って、各自で週4時間程度の予・復習が必要となる。 							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Extensive Reading IV (日)
<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティに積極的に参加すること。 ・学習した日本語はできるだけ使うように心がけること。 	
授業計画	
第1回	オリエンテーション(授業の進め方等の説明) (*必ずご参加ください)
第2回	私が紹介したい人 (説明、資料精読)
第3回	私が紹介したい人 (原稿作成、原稿修正)
第4回	私が紹介したい人 (発表、フィードバック)
第5回	地域の文化を知る (調べる、資料精読)
第6回	地域の文化を知る (原稿作成、原稿修正)
第7回	地域の文化を知る (発表、フィードバック)
第8回	N3聴解練習、解答と解説
第9回	N2聴解練習、解答と解説
第10回	新聞記事を読む (調べる、新聞記事精読)

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Extensive Reading IV(日)	
第11回	新聞記事を読む (まとめる)	
第12回	新聞記事を読む (発表、フィードバック)	
第13回	ポスター作成①	
第14回	ポスター作成②	
第15回	ポスター発表、全体の振り返り、フィードバック	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	授業への参加度30%(2点×15回)、授業内の課題30%(6点×5回)
その他	40	聴解20%(4点×5回)、ミニ発表20%(4点×5回)

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	Intensive Online English Practice						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	LL	担当教員	加藤 剛寿		
到達目標							
1) 生成AIを活用することで、Listening力がCEFR A2レベルに到達できる。 2) 生成AIを活用することで、Speaking力がCEFR A2レベルに到達できる。							
取得可能な資格							
特になし。							
受講登録以前に準備すること							
1) パソコンでChat GPT等の生成AIを使用致します。各自、生成AIを事前登録したノートパソコンを持参してください。 2) 15回の授業、全て大事な内容であり、1回も休むことのないよう、受講登録以前から体調管理を十分整えて臨んでください。							
テキスト							
1) 山本康太: 英語教師・学習者のための生成AI「超」活用術, 明治図書出版, 2025. 2) 奥田百子: CHATGPTとの会話で学ぶ英語入門, 日本橋出版, 2025.							
講義内容							
パソコンでChat GPT等の生成AIを使用し、Listening力とSpeaking力を高める授業を展開していきます。本科目は、クラスメンバー同士の学び合い、交流を積極的に実施します。また、主体的に学生が学ぶスタイルの授業です。							
成績評価の方法							
後述の成績評価の方法の表に沿って評価する。全15回中11回以上の出席かつ、試験が60点以上で単位を取得できる。特段の理由(学校感染症、忌引き)による欠席以外の欠席(未受験)の場合は、追試験の対象外であるので、体調管理に十分注意して臨んでください。							
授業の方法							
1) 授業は教員からのテキストを使用した一方的な指導(レクチャー)スタイルだけではなく、修得した文章を使ったクイズ、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング(学生が能動的に参加する授業展開)も適宜、取り入れ実施していく。 2) 1回の授業あたり予習・復習を合わせて4時間程度、実施し知識の定着を図り、試験で高得点が取れるよう臨んでください。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Intensive Online English Practice
<p>1) 授業に関する重大な内容をTeamsでお知らせする場合があります。少なくとも、毎日、1日1回は必ず、Teamsでお知らせがないか、入念にご確認ください。Teamsのお知らせを閲覧できていなかったことにより不利益が生じた際、対応できない場合があります。予めご了承ください。</p> <p>2) CEFR A2レベル到達を目指した授業です。すでにCEFR A2レベル以上の方は他のB1レベル以上の科目の受講をお勧め致します。</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	Listening①
第3回	Listening②
第4回	Listening③
第5回	Listening④
第6回	Listening⑤
第7回	Listeningテスト／振り返り
第8回	Speaking①
第9回	Speaking②
第10回	Speaking③

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Intensive Online English Practice	
第11回	Speaking④	
第12回	Speaking⑤	
第13回	Speaking⑥	
第14回	Speakingテスト／まとめ	
第15回	フィードバック	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	100	Listeningテスト 50点 Speakingテスト 50点
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	Intensive Reading IV(日)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	星野 芳輝		
到達目標							
日本語の文章を、ただ読むだけではなく、内容を理解、解釈し、自らの言葉で再構築することを目標とする。学術論文を中心に、専門的な内容の文章の読解を翻訳ツール等を使用せずに読む。							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
事前に配布される論文を読み、ある程度内容を把握しておく(4時間程度)							
テキスト							
なし							
講義内容							
本講義では、学術論文を中心とした専門的な日本語文章を教材とし、単なる読解にとどまらず、内容を理解・解釈し、自らの言葉で再構築する力を養うことを目指す。受講者は翻訳ツール等に依存することなく、文献の論理構造や表現形式を分析しながら読解を進める。さらに、読んだ内容を要約・批評・応用する演習を通じて、学術的な議論を自ら展開する基盤を培う。							
成績評価の方法							
授業毎の確認小課題 15回×3点(45%) 講義への積極的参加 15回×1点(15%) 中間確認試験(20%) 最終レポート課題(20%)							
授業の方法							
配布される学術論文の要点や文法、わかりづらい単語など、文章に関する内容を講師が解説する。その後、それに対応する読解問題や要約、意見文の作成などを随時行う(これらを同時に行うことはしない。)							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Intensive Reading IV(日)
特になし	
授業計画	
第1回	ガイダンス。講義内容の解説と、中間試験、最終レポート試験に関するアナウンス
第2回	論文の読解 文法・構文解析 ① よく使われる表現と、論文における役割
第3回	論文の読解 文法・構文解析② 引用と、引用に関する構文の読解
第4回	論理構造の把握① 文法から見る論理構造
第5回	論理構造の把握② 因果関係と対比の文章
第6回	主張と目的の特定
第7回	中間テスト
第8回	方法論・データの理解① 定量的データを読み解く
第9回	方法論・データの理解② 定性的データを読み解く
第10回	批判的読解 論文を批判的に読む

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Intensive Reading IV(日)	
第11回	複数の文献を読む	
第12回	要約と再構築①	
第13回	要約と再構築②	
第14回	要約と再構築③	
第15回	まとめと課題のアナウンス	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	40	中間確認試験(20%) 最終レポート課題(20%)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	授業毎の確認小課題 15回×3点(45%) 講義への積極的参加 15回×1点(15%)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	Intensive Reading IV (英)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	高橋 あすか		
到達目標							
TOEIC400点以上の英語の読解力を身に着けることを目標とします。							
取得可能な資格							
TOEIC							
受講登録以前に準備すること							
テキスト、電子辞書(スマホ不可)又は英和辞書(紙)を必ず準備してください。							
テキスト							
Sandra Heyer, 2019, True Stories 2, Pearson							
講義内容							
イラストつきのリーディングパッセージ、読解問題、文法、語彙問題、会話練習、作文演習で構成されます。リーディングパッセージに出てきた文法事項や表現を使用し、会話練習や英作文を作成します。							
成績評価の方法							
小テスト 50% (5点×10回) 定期試験 50% (25点×2回) 欠席は4回までです。5回以上の欠席は単位認定できません。							
授業の方法							
テキストに沿って進めていきます。適宜ペアワーク、グループワークやディスカッション等も行い、学生同士が議論し、調べたことを発表する機会を提供します。毎週4時間程度の予習、復習が必要となります。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Intensive Reading IV (英)
授業計画	
第1回	Dish Soap for Dinner
第2回	A New Man
第3回	The Runner
第4回	The Love Letters
第5回	Bad Luck, Good Luck
第6回	Lost and Found
第7回	Try, Try Again
第8回	Man's Best Friend
第9回	The Coin
第10回	Love or Baseball?

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Intensive Reading IV (英)	
第11回	The First Day	
第12回	The Winning Ticket	
第13回	Thank You	
第14回	Together Again	
第15回	Saved by the Bell	
成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	50	定期試験 50% (25点×2回)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	小テスト 50% (5点×10回)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	Public Speaking						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	高橋 あすか		
到達目標							
学術的な場面において、高度な相互コミュニケーションを可能にするディスカッションスキルを習得することを目標とします。							
取得可能な資格							
TOEIC							
受講登録以前に準備すること							
テキスト、辞書、パソコンを各自で用意してください。							
テキスト							
David Kehe, 2012, Discussion Strategies, Second Edition, ProLingua Associates							
講義内容							
戦略的な会話スキルを基盤として、より高度なディスカッション技法を体系的に学びます。段階的な手順に従い、発言や進行の方法を実践的に習得し、ディスカッションを主導する力と参加する力の双方を養います。特に、相づちやフォローアップ質問、説明や確認のやり取り、意見の表明と根拠提示など、多様な戦略を繰り返し練習することで、学術的場面における円滑で効果的なコミュニケーション能力を培います。							
成績評価の方法							
レポート: 20% パフォーマンステスト: 80%(20点×4回) 欠席は4回までです。5回以上の欠席は単位認定できません。							
授業の方法							
各レッスンでは英会話表現を学習し、ペアワークを通じて実践的に練習します。学生同士で会話を分析する機会を設け、表現の使い方や会話の構造を深く理解します。また、テキストの予習・復習および会話を考察・分析するレポート作成を通じて、毎週およそ4時間程度の自学自習が必要となります。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Public Speaking
授業計画	
第1回	Rejoinders and Follow-up Questions
第2回	Clarification Expressions
第3回	Clarification Questions, I and Comprehension Checks
第4回	Clarification Questions, II
第5回	Answering with Details
第6回	DISCUSSION
第7回	Paragraph Clarifications, I
第8回	Paragraph Clarifications, II
第9回	Answering for More Details
第10回	DISCUSSION

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Public Speaking	
第11回	DISCUSSION	
第12回	Interrupting Someone	
第13回	Words That Describe	
第14回	DISCUSSION	
第15回	Telling What You've Heard	
成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート: 20% パフォーマンステスト: 80%(20点×4回)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	Writing II						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	高橋 あすか		
到達目標							
日常の事柄について簡単な説明文や記述文が書けるようになることを目標とします。							
取得可能な資格							
TOEIC							
受講登録以前に準備すること							
テキスト、パソコン、電子辞書(スマホ不可)又は英和辞書(紙)を必ず準備してください。							
テキスト							
Linda Lonon Blanton, 2011, Write On 1 Writing practice in the Real World、センゲージ・ラーニング							
講義内容							
イラストつきのリーディングパッセージ、読解問題、文法、語彙問題、作文演習で構成されます。リーディングパッセージに出てきた文法事項や語彙の学習、文章構成を活用し、各ユニットの総仕上げとして英作文を作成します。							
成績評価の方法							
小テスト 50% (5点×10回) 定期試験 50% (25点×2回) 欠席は4回までです。5回以上の欠席は単位認定できません。							
授業の方法							
テキストに沿って進めていき、各ユニットのトピックで英作文を作成します。適宜ペアワーク、グループワークやディスカッション等も行い、学生同士が議論し、調べたことを発表する機会を提供します。毎週4時間程度の予習、復習が必要となります。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Writing II
授業計画	
第1回	Introducing Yourself Reading 1
第2回	Introducing Yourself Model 1, Composition 1
第3回	Identifying Family and Home Reading 2
第4回	Identifying Family and Home Model 2, Composition 2
第5回	Describing a Typical Activity Reading 3
第6回	Describing a Typical Activity Model 3 , Composition 3
第7回	Describing a Special Place or Event Reading 4
第8回	Describing a Special Place or Event Model 4 , Composition 4
第9回	Describing a Typical Activity Reading 5
第10回	Describing a Typical Activity Model 5 , Composition 5

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Writing II	
第11回	Describing Locations Reading 6	
第12回	Describing Locations Model 6 , Composition 6	
第13回	Describing Activities Reading 7	
第14回	Describing Activities Model 7, Composition 7	
第15回	Describing Future Activities	
成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	50	定期試験 50% (25点×2回)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	小テスト 50% (5点×10回)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	インテンシブ中国語 I						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C322	担当教員	田 桃雨		
到達目標							
中国語の発音表記を見て、正確な発音ができるようになる。基本的な文法をマスターし、中国語の初歩的な聞く・話す能力を身につける。							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
テキスト、日中辞書							
テキスト							
姜麗萍 (2015) 『スタンダードコース中国語 -中国語の世界標準テキスト-1(HSK1級対応)』							
講義内容							
聞く・話す能力の基礎を養う。日常生活の中の最も基本的な事柄から中国語を練習する。							
成績評価の方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み(30%):積極的に会話などの練習に参加する必要がある。毎回の授業は2点とする。 ・課題の提出(30%):単語テスト、例文作成。毎回の課題は2点とする。 ・期末試験(40%):筆記試験(20%)+会話試験(20%) 注:HSK2級以上合格したら期末筆記試験免除可能							
授業の方法							
対面講義、テキストに沿って、進める。 授業する前に、新しい単語、テキストの内容を予習する必要がある。 授業後、単語を覚えるなどしっかり復習することが大事。 1回の授業につき、予習と復習が必要、目安は週に4時間ぐらい。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	インテンシブ中国語 I
授業の進み具合によって、構成は変更になる場合がある。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション 第1課 你好 こんにちは。
第2回	第2課 谢谢你 ありがとうございます。
第3回	第3課 你叫什么名字 あなたの名前はなんですか。
第4回	第4課 她是我的汉语老师 彼女は私の中国語の先生です。
第5回	第5課 她女儿今年二十岁 彼女の娘は今年二十歳です。
第6回	第6課 我会说汉语 中国語が話せます。
第7回	第7課 今天几号 今日は何日ですか。
第8回	第8課 我想喝茶 お茶を飲みたいです。
第9回	第9課 你儿子在哪儿工作 あなたの息子はどこで働いていますか。
第10回	第10課 我能坐这儿吗 ここに座ってもいいですか。

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	インテンシブ中国語 I	
第11回	第11課 現在几点 今は何時ですか。	
第12回	第12課 明天天气怎么样 今日の天気はどうですか。	
第13回	第13課 他在学做中国菜呢 彼は中華料理を学んでいます。	
第14回	第14課 她买了不少衣服 彼女は服をたくさん買いました。	
第15回	第15課 我是坐飞机来的 飛行機で来ました。	
成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	40	・期末試験(40%) : 筆記試験 (20%) + 会話試験 (20%) 注: HSK2級以上合格したら期末筆記試験免除可能
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	・授業への取り組み(30%): 積極的に会話などの練習に参加する必要がある。毎回の授業は2点とする。 ・課題の提出(30%): 単語テスト、例文作成。毎回の授業は2点とする。
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	インテンシブ中国語Ⅲ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C322	担当教員	田 桃雨		
到達目標							
中級レベルの文法の完全なマスターを目指す。中国語の中級レベルの聞く・話す能力を身につける。							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
辞書							
テキスト							
姜麗萍 (2015) 『スタンダードコース中国語 -中国語の世界標準テキスト3』							
講義内容							
この授業では、中級レベルの単語・文法・表現を勉強し、また、勉強した単語・文法・表現を使って、読む・書く・聞く・話す練習をします。							
成績評価の方法							
出席・授業への参加度(30%)、授業内の課題(30%)、期末テスト(40%)などにより総合的に評価する。							
授業の方法							
対面講義、テキストに沿って、進める。 授業する前に、新しい単語、テキストの内容を予習する必要がある。 授業後、単語を覚えるなどしっかり復習することが大事。 1回の授業につき、予習と復習が必要、目安は週に4時間ぐらい。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	インテンシブ中国語Ⅲ
授業計画	
第1回	オリエンテーション 第1課 周末你有什么打算 週末は予定ありますか
第2回	第2課 他什么时候回来 彼はいつ戻ってきますか
第3回	第3課 桌子上放着很多饮料 テーブルの上に飲み物がたくさん置いてあります
第4回	第4課 她总是笑着跟客人说话 彼女はいつもニコニコしてお客さんと話しています
第5回	第5課 我最近越来越胖了 最近はますます太っています
第6回	第6課 怎么突然找不到了 なんで急に見つからなくなりましたか
第7回	第7課 我跟他都认识五年了 彼と知り合って五年も経ちました
第8回	第8課 你去哪我就去哪 どこへでもついていきます
第9回	第9課 她的汉语说得跟中国人一样好 彼女の中国語は中国人と同じ上手です
第10回	第10課 数学比历史难多了 数学は歴史よりだいぶ難しい

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	インテンシブ中国語Ⅲ	
第11回	第11課 别忘了把空调关了 エアコンを消すのを忘れないでください	
第12回	第12課 把重要的东西放在我这儿吧 大事なものは私のところに置きましょう	
第13回	第13課 我是走回来的 歩いて帰ってきました	
第14回	第14課 你把水果拿过来 果物を持ってきてください	
第15回	第15課 其他都没什么问题 他に問題はありません	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	40	期末テスト
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	出席、授業への参加度(30%) 授業での説明を聴く態度・姿勢、質問を行う度合いなどによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回=30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%): 課題、小テストなどちゃんとできているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回=30点満点(評価30%)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	インテンシブ中国語Ⅳ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	オンライン	担当教員	陳 曦		
到達目標							
さまざまなトピックについて中国語でコミュニケーションをすることができる。							
取得可能な資格							
受講登録以前に準備すること							
テキスト							
『標準教程 HSK4 上』董政、張軍 著北京語言大学出版社							
講義内容							
この授業では、中級レベルの単語・文法・表現を勉強し、また、勉強した単語・文法・表現を使って、読む・書く・聞く・話す練習をします。							
成績評価の方法							
授業への積極的な参加(30%)、課題(13回程度)(40%)、発表(1回)(30%)							
授業の方法							
教科書に沿って進めます。 学生が主体となる活動を多く設けます。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	インテンシブ中国語Ⅳ
授業計画を変更する可能性があります。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション 第3課 经理对我印象不错
第2回	第3課 经理对我印象不错
第3回	第3課 经理对我印象不错
第4回	第4課 不要太着急赚钱
第5回	第4課 不要太着急赚钱
第6回	第4課 不要太着急赚钱
第7回	第5課 只买对的, 不买贵的
第8回	第5課 只买对的, 不买贵的
第9回	第5課 只买对的, 不买贵的
第10回	第6課 一分钱一分货

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	インテンシブ中国語IV	
第11回	第6課 一分钱一分货	
第12回	第6課 一分钱一分货	
第13回	第7課 最好的医生是自己	
第14回	第7課 最好的医生是自己	
第15回	第7課 最好的医生是自己 まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	70	課題(13回程度)(40%)、発表(1回)(30%)
その他	30	授業への積極的な参加

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	コミュニケーション論						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	加藤 剛寿		
到達目標							
<p>1) 自身のコミュニケーションの仕方一つの違いが周りの人へどう影響するか、体感したことを説明できる。</p> <p>2) 様々な分野の職業人、実践家が語る「具体的なエピソード」から、様々な視点で人間としてお互いが生きるための「コミュニケーション」について自身が考えたことを説明できる。</p> <p>3) 発達障害のある方々とうどうコミュニケーションしていくと望ましいか、体験から感じたことを説明できる。</p>							
取得可能な資格							
特になし。							
受講登録以前に準備すること							
特になし。本科目は講義後、次回以降の授業でその講義内容に関する実践演習が組み込まれている。また、外部の実践家の方々から直接、語っていただける貴重な機会も設けている。さらには外部のコミュニティの活動へも参加させていただく機会を予定している。これらのプログラムの受講を経て、ワークシートやレポートの記載ができる内容となっている。15回の授業、全て大事な内容であり、1回も休むことのないよう、体調管理を十分整えて臨んでください。							
テキスト							
<p>1) 宮津多美子: 異文化コミュニケーション入門 ことばと文化の共感力, 勁草書房, 2024.</p> <p>2) 大橋理枝 他: コミュニケーション学入門, 放送大学教育振興会, 2019.</p> <p>3) 中西のりこ 他: グローバル・コミュニケーション学入門, 三省堂, 2018.</p> <p>4) 日本がん看護学会 監修: 患者の感情表出を促すNURSEを用いたコミュニケーションスキル, 医学書院, 2015.</p> <p>5) 石井敏 他: はじめて学ぶ異文化コミュニケーションー多文化共生と平和構築に向けてー, 有斐閣選書, 2013.</p> <p>6) 池田理知子 他: グローバル社会における異文化コミュニケーションー身近な「異」から考える, 三修社, 2019.</p>							
講義内容							
<p>いじめ、ハラスメント等の身近な人間関係トラブルから、差別、内戦、紛争や戦争等の国内外の対立に至るまで、多くの人間が求めているであろう「幸せ」「平和」とは決して言い難い真逆の出来事が、今もなお、学校や会社、様々なコミュニティを含め、世界各地の至る所で起きており、一向に止む気配はない。</p> <p>こうした現状の中、人間として一人ひとりがより良く生きるために求められる力の一つとして大事な力が「コミュニケーション力」であると私は考える。「コミュニケーション力が大事なこと」や、「どうコミュニケーションすれば良いか」頭では理解していても、いざ実践となると実際には難しい。自身が「できている」と思っても、相手から見ると「できていない」ということもある。その時々に応じた望ましい「コミ</p>							
成績評価の方法							
後述の成績評価の方法の表に沿って評価する。全15回中11回以上の出席かつ、100点中60点以上で単位を取得できる。各課題は各授業を受講していないと取り組めない内容になっている点、ご注意ください。							
授業の方法							
<p>1) 授業は一方的な指導(レクチャー)スタイルだけではなく、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング(学生が能動的に参加する授業展開)も適宜、取り入れ実施していく。</p> <p>2) 1回の授業あたり予習・復習を合わせて4時間程度、実施する必要がある。</p> <p>3) 教員の他、実践的な内容について、外部講師の登壇も予定している。</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	コミュニケーション論
<p>1) 授業に関する重大な内容をTeamsでお知らせする場合があります。少なくとも、毎日、1日1回は必ず、Teamsでお知らせがないか、入念にご確認ください。Teamsのお知らせを閲覧できていなかったことにより不利益が生じた際、対応できない場合があります。予めご了承ください。</p> <p>2) 週末(土曜日、日曜日)、祝日などに札幌市内で行われる「発達障害のある方との交流活動」へ参加が1回(180分程度:2コマ分)必要である。交通費等は自己負担となる点、留意する必要がある。</p> <p>「発達障害のある方との交流活動」は、便宜上、第14～15回目に記載しておりますが、実際には前倒しのスケジュールでの実施となる</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション(自己紹介、アイスブレイク、グループトーク)
第2回	コミュニケーション(言語/非言語によるコミュニケーション、高/低コンテキスト、傾聴、応答、共感スキル等)とは
第3回	相手の行動が変わる魔法の質問
第4回	高齢者の方とのコミュニケーション 講師: 中田 亜由美(株式会社かんごぶらす(札幌市立大学発 × 北海道大学発 認定スタートアップ) 代表取締役社長/北海道大学非常勤講師)
第5回	「札幌おもてなし隊」から始まるコミュニケーション(マネジメントへの応用) 講師: 藤木 一到(総務省 地方公共団体の経営・財務マネジメント強化事業公営企業関係 アドバイザー)
第6回	【実践演習】相手の行動が変わる魔法の質問
第7回	ディスカッション: コミュニケーションツールの一つであるSNS! 危険な事やデメリットに対し、どう使用・対応するか?
第8回	無意識の偏見(アンコンシャスバイアス)
第9回	【実践演習・中間評価】相手の行動が変わる魔法の質問
第10回	小児在宅医療現場におけるコミュニケーションの実態 講師: 高波千代子(医療法人稲生会 社会福祉士/事務長)

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	コミュニケーション論	
第11回	発達障害のある方とのコミュニケーション	
第12回	アサーティブコミュニケーション	
第13回	【実践演習・最終評価】相手の行動が変わる魔法の質問	
第14回	実践演習:発達障害のある方と「踊り」を通して関わるコミュニケーション	
第15回	実践演習:発達障害のある方と「踊り」を通して関わるコミュニケーション	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	提出物①(リアクションペーパーまたはワークシートのいずれか)40点分(10点×4回) 提出物②(実践演習のレポート その1)30点分 提出物③(実践演習のレポート その2)30点分
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 言語文化					
科目名		ビジネス中国語					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	オンライン	担当教員	銭 蕾		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスで使用する中国語を習得し、適切に使用できるようになる。 ・中国のビジネス慣習を理解し、適切な言動ができるようになる。 							
取得可能な資格							
HSK4級							
受講登録以前に準備すること							
HSK3級以上の中国語スキルを有すること。							
テキスト							
徐送迎 (2023)『もっと活躍しよう！中国語 中級』朝日出版社							
講義内容							
中国語中級(HSK3級以上)の学生を対象とし、ビジネスの場面で必要な中国語表現やマナーを実践的に学ぶ。							
成績評価の方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み(30%):積極的に会話などの練習に参加する必要がある。 ・課題の提出(30%):単語テスト、例文作成、発表、作文など。 ・期末試験(40%) : :100点満点中60点以上を合格とする。 注:HSK4級以上合格したら筆記試験免除可能							
授業の方法							
授業外の学習時間(予習、復習時間):毎回60分以上。 予習内容:教科書の新出語彙や文法の確認、等々。 復習内容:(1)授業内に勉強した語彙と文法などの暗記。 (2)教科書の内容について、音声ファイルを繰り返し聞きながら発音の真似練習をする。 (3)授業の課題:教科書の練習問題、例文作成、等々。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	ビジネス中国語
※授業の進み具合によって、構成は変更になる場合がある。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	第1課 空港にて(1)
第3回	第2課 空港にて(2)
第4回	第3課 スケジュール表(1)
第5回	第4課 スケジュール表(2)
第6回	第5課 面接(1)
第7回	第6課 面接(2)
第8回	第7課 インターンシップ(1)
第9回	第8課 インターンシップ(2)
第10回	第9課 お土産(1)

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	ビジネス中国語	
第11回	第10課 お土産(2)	
第12回	第11課 送別会(1)	
第13回	第12課 送別会(2)	
第14回	まとめ	
第15回	期末試験	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	40	・期末試験(40%) :100点満点中60点以上を合格とする。
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	・授業への取り組み(30%):積極的に会話などの練習に参加する必要がある。 ・課題の提出(30%):単語テスト、例文作成、発表、作文など。
その他	0	注:HSK4級以上合格したら筆記試験免除可能

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	ビジネス日本語 I						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	中田 和則		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスで使用する日本語とビジネス文書を習得し、適切に使用できるようにする。 ・日本のビジネス慣習を理解し、適切な判断と行動ができるようにする。 							
取得可能な資格							
BJTビジネス日本語能力検定							
受講登録以前に準備すること							
日本語の新聞各紙(全国紙・地方紙・経済専門紙等)を読む習慣をつけ、ビジネスに関する最新の情報の収集を図っておくこと。							
テキスト							
配布資料を使って授業を進める。 (参考資料) ・『BJTビジネス日本語能力テスト』入門 わかるビジネス日本語 アスク出版 ・『BJTビジネス日本語能力テスト』公式模擬テスト&ガイド 日本漢字能力検定協会 他							
講義内容							
日本語上級(C1以上)の留学生を対象とし、ロールプレイやペアワーク等を通して、ビジネスの場面で必要な日本語表現やマナーを実践的に学ぶ。また、BJTビジネス日本語能力テストの練習問題を解きながら、ビジネス文書やビジネス慣習に関する知識を蓄え、運用能力を高める。							
成績評価の方法							
定期試験は実施しない。授業への参画度(40%)、各授業での積極的な発言、質疑応答やロールプレイ、ビジネスに関する日本語のプレゼン発表(60%)合計100点で成績評価する。理由のある欠席は4回まで認める。特別な事情のない欠席5回以上は単位を認めない。							
授業の方法							
一方的な講義にならないように、毎回、発言を求める。最終回は、各自による、ビジネステーマのプレゼン発表を実施する。予復習は毎回4時間が必要。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	ビジネス日本語 I
日本語レベルC段階の留学生のみ受講可能。	
授業計画	
第1回	イントロダクション
	担当教員 中田 和則
第2回	自己紹介の方法
	担当教員 中田 和則
第3回	メールの書き方
	担当教員 中田 和則
第4回	実践問題①
	担当教員 中田 和則
第5回	実践問題②
	担当教員 中田 和則
第6回	書類の作り方
	担当教員 中田 和則
第7回	手紙の出し方
	担当教員 中田 和則
第8回	実践問題③
	担当教員 中田 和則

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	ビジネス日本語 I	
第9回	実践問題④	
	担当教員	中田 和則
第10回	会議の進め方	
	担当教員	中田 和則
第11回	議事録の取り方	
	担当教員	中田 和則
第12回	実践問題⑤	
	担当教員	中田 和則
第13回	実践問題⑥	
	担当教員	中田 和則
第14回	総合演習	
	担当教員	中田 和則
第15回	総合演習 ビジネステーマによるプレゼン発表	
	担当教員	中田 和則
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参画度(40%)、各授業での積極的な発言、質疑応答やロールプレイ、ビジネスに関する日本語のプレゼン発表(60%)合計100点で成績評価する。理由のある欠席は4回まで認める。特別な事情のない欠席5回以上は単位を認めない。

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	ビジネス日本語 I	
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	ロシア語						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	福本 達也		
到達目標							
ロシア語の文字と発音を正確に理解し使用できるようになる。 ロシア語の基本的な文法と表現を習得し使えるようになる。日常的な表現と基本的な言い回しが理解できる。 ロシア語の日常的な会話ができるようになる。							
取得可能な資格							
ロシア連邦教育省認定ロシア語検定試験(TPK)の入門レベルの合格を目指すことができる。							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
テキスト: 桑野隆 (2012)『初級ロシア語20課』白水社 参考図書: 匹田剛監修 (2019)『ゼロからスタートロシア語文法編』リサーチ							
講義内容							
視覚教材と音声教材を使って、目と耳からロシア語を学ぶ。 基本的な文法について解説し練習する。 教材の文章を音読したり、紙に書いたり、音声を聞いたりしてロシア語を練習する。 練習問題などを使って、学んだロシア語を使えるように練習する。							
成績評価の方法							
授業への貢献度(30%)、授業内の課題(30%)、期末試験・課題(40%)などにより、総合的に評価する。							
授業の方法							
毎回教材の文章や単語の意味や発音について説明した後、文章や単語を音読し発音や意味を確認し練習する。音声教材を用いて、発音の確認と聞き取り練習をする。文章の文法を説明し理解させる。教材の表現を用いて対話練習をさせる。復習として課題を作成し提出させる。復習時間は毎週4時間程度必要。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	ロシア語
授業計画は学生の理解・習得の程度などにより変更することがある。	
授業計画	
第1回	文字と発音(1)ロシア語のアルファベット、基本母音文字、子音文字①
第2回	文字と発音(2)アクセント、母音の弱化①、子音文字②、複合母音
第3回	文字と発音(3)硬母音字と軟母音字、子音文字③、硬子音と軟子音、母音の弱化②
第4回	文字と発音(4)子音の同化 基本的なあいさつ語
第5回	第1課 この人は誰ですか？
第6回	第2課 あなたは医者ですか？
第7回	第3課 郵便局はどこですか？
第8回	第4課 これは誰の写真ですか？
第9回	第5課 どこにお勤めですか？
第10回	第6課 彼はロシア語を話します

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	ロシア語	
第11回	第7課 どこに住んでいるの？	
第12回	第8課 こんにちは、アンナ！	
第13回	第9課 どこへ行くところ？	
第14回	第10課 何をする予定？	
第15回	総復習、練習問題1～5、第1～10課の内容の会話練習	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	授業への貢献度(30%):5回以上の欠席は単位認定できない。また、授業での説明を聞いたり練習を行う時の姿勢態度や積極性の有無・程度などによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回=30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):毎回の課題を要求通りに作成し提出したか、課題の問題を正確に配当できているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回=30点満点(評価30%)
その他	40	期末課題提出(40%):期末課題40点満点、要求された課題を確実に作成し提出したか、課題の問題を理解し適切に解答できているか、正しく答えられているかで評価する。

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	韓国語						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	オンライン	担当教員	金 昌男		
到達目標							
1. 韓国語がどんな言語であるかが理解できる。 2. 韓国語で基礎的な会話ができる。							
取得可能な資格							
韓国政府が実施する韓国語能力試験(TOPIK)に挑戦することができる。							
受講登録以前に準備すること							
まず、ハングルの字母(基本母音と基本子音)を習得しておくとおもしろい。							
テキスト							
できる韓国語初級 I (新装版)、株式会社アスク出版、2021年 新装版 第25刷							
講義内容							
1. 韓国語と日本語を文法的に比較し類似点と相違点を説明する。 2. 基礎的な文法や表現を説明し、学生達が理解し実際に基礎的な韓国語が使えるようにする。 3. 毎回の授業中に発音練習や表現練習を行って簡単な会話や読解や聴解ができるようにする。							
成績評価の方法							
授業への参画度(50%)(5回目から14回目まで10回授業中に質疑応答で評価(5点×10回))、レポート(20%)(10点×2回-7回目と14回目に提出)、インタビューテスト(30%)(15回目に実施)などにより、総合的に評価する。							
授業の方法							
1. 毎回基本的なことを講義した後、重要語彙と表現は繰り返し練習を行う。 2. 練習した後、個別に質疑応答しどれくらい理解しているかを確認する。 3. 主な文法項目と重要表現をまとめる。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	韓国語
この授業は2単位の授業で、30時間は講義形式で行い、残りの時間は授業中に学んだ重要語彙と文型の復習と次回に学ぶ学習内容の予習をしてもらいたい。また、授業計画(週案)は受講学生達のレベルによって多少変更する場合がある。	
授業計画	
第1回	1. 授業計画の紹介、またハングルの字母について紹介する。
第2回	2. 基本母音と基本子音(平音)を学習する。
第3回	3. 基本子音(激音と濃音)を学習する。
第4回	4. パッチム、つまり「子音+母音+子音(パッチム)の組み合わせ」について学習する。
第5回	5. 合成母音(11個)と日常的によく使われている「挨拶の言葉」を学習する。
第6回	6. 第1課 私は日本人です。 自己紹介、丁寧表現「-입니다(です)/-입니까?(ですか)」と助詞「-은/는(は)」を学習する。
第7回	7. 第2課 日本人ではありません。 否定表現「-이/가 아닙니다(ではありません)」と助詞「-이/가(が)」を学習する。【1回目のレポート提出】
第8回	8. 第3課 それは何ですか。 丁寧表現「-에요/이에요(です)」、否定表現「-이/가 아니에요(ではありません)」を学習する。
第9回	9. 第4課 約束があります。 丁寧表現「있습니다/있어요(あります/います)」、否定表現「없습니다/없어요(ありません/いません)」を学習する。
第10回	10. 第5課 会社はどこにありますか。 存在表現「-에 있어요(にあります/います)」を学習する。

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	韓国語	
第11回	11. 第6課 週末は何をしますか。 丁寧表現「-ㅁ/습니다(ます/です)」、原因・理由の「-고(して/くて)」を学習する。	
第12回	12. 第7課 そんなに遠くありません。 否定表現「안-/지 않습니다」、「-부터(에서)-까지(-から-まで)」を学習する。	
第13回	13. 第8課 いつ行きますか。 漢字語数詞、助数詞、「-네요(ですね/ますね)」を学習する。	
第14回	14. 第9課 釜山までどうやって行きますか。 丁寧表現「-아요/어요(ます/です)」を学習する。【2回目のレポート提出】	
第15回	15. インタビューテスト	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	30	15回目の授業中にオンラインでもって個人インタビューテストを行う。
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	授業への参画度(5回目から14回目まで10回授業中に質疑応答で評価(5点×10回))
その他	20	レポート(10点×2回-7回目と14回目に提出してもらう。)

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	視聴覚中国語 I						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C322	担当教員	田 桃雨		
到達目標							
<p>視覚と聴覚を活用し、実践的な中国語力を養成することを目的とする。 中国語の基礎を身につけ、日常生活で簡単なコミュニケーションが取れるようになる。</p>							
取得可能な資格							
特になし。							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
<p>音声、動画教材がメイン、こちらで用意する。 参考書:『聴く中国語』株式会社愛言社</p>							
講義内容							
<p>動画、音楽、ドラマ、ニュース、映画、SNSなどの視覚、聴覚媒介を利用し、日常生活上様々な分野での生の中国語を学び、聴く、話す、読む能力を全面的に向上させる。</p>							
成績評価の方法							
<p>講義への参加度(60%) 課題・発表(40%)</p>							
授業の方法							
<p>視覚、聴覚資料を見て、中に出てきた中国語の単語、文法、特殊用法などをプリント資料を使いながら、詳しく説明する。説明終わった後、音読、シャドーイング、書き写し、暗記など強化練習する。最後は簡単な作文などのテストを通して、勉強した内容を復習する。予習復習時間は毎回2時間ごととする。</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	視聴覚中国語 I
受講者レベルにより、講義難易度、計画を変更する可能性がある。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション 発音デモンストレーションを利用し、中国語の音声体系を学ぶ。
第2回	挨拶と自己紹介
第3回	数字と年齢
第4回	時間と日付き
第5回	家族の呼び方
第6回	飲食の注文
第7回	方向と交通手段
第8回	買い物と値切り
第9回	天気と季節
第10回	趣味と日常活動

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	視聴覚中国語 I	
第11回	健康と体調	
第12回	中国の祭りと習慣	
第13回	旅行会話	
第14回	ドラマ鑑賞	
第15回	総まとめ 課題発表	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	出席、授業への参加度(30%) 授業での説明を聴く態度・姿勢、質問を行う度合いなどによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回=30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):課題の提出、完成度(毎回0～2点評価)X15回=30点満点(評価30%)
その他	40	課題・発表

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	中国語文法・作文						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C322	担当教員	田 桃雨		
到達目標							
初級から準中級レベルの文法の完全マスターを目指す。 文法を使って作文ができる。							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
視聴覚資料、印刷物などを配布。 参考資料、文献などは授業中に紹介する。							
講義内容							
中国語学習の基礎文法を中心に詳しく説明し、練習問題を解く。 学習出来た文法を使って、作文練習をする。							
成績評価の方法							
出席・授業への参加度(30%)、授業内の課題(30%)、期末テスト(40%)などにより総合的に評価する。							
授業の方法							
対面授業、毎回用意したプリントに沿って、授業を進める。 一回の授業につき、予習時間2時間、復習時間2時間とする。 予習内容:次回に出てくる文法の特徴、使う場面を考えておくこと。 復習内容:授業で学んだ文法を見直し、整理して、その文法を使って、作文をする。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	中国語文法・作文
受講者外国語能力に応じて、難易度、計画変更することがある。	
授業計画	
第1回	指示代詞と人称代詞
第2回	形容詞述語文
第3回	動詞述語文
第4回	疑問文
第5回	前置詞
第6回	副詞
第7回	文成分のまとめ
第8回	存在・出現・消失の分・非主述文・命令文
第9回	能願動詞
第10回	進行・持続・完了・将然のアスペクト

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	中国語文法・作文	
第11回	補語	
第12回	結果・方向補語	
第13回	比較の言い方	
第14回	「把」構文	
第15回	「被」構文	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	40	期末試験
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	出席、授業への参加度(30%)、授業での説明を聴く態度・姿勢、質問を行う度合いなどによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%): 課題、小テストなどちゃんとできているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	中日翻訳Ⅱ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	田 桃雨		
到達目標							
専門分野の翻訳対応力向上。 文化的ニュアンスの処理ができる。							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
辞書							
テキスト							
視聴覚資料、印刷物は用意する。 参考書『中译日实例解析』俞瑞良 徐旻 2002 大连出版社 上海海文音像出版社							
講義内容							
翻訳の実例を分析しながら、いろいろなジャンルの文章を翻訳して、解析する。							
成績評価の方法							
出席・授業への参加度(30%)、授業内の課題、小テスト(30%)、期末テスト(40%)などにより総合的に評価する。							
授業の方法							
理論解説、対照言語分析、実践翻訳演習、添削フィードバックの流れで講義を行う。 授業後、単語の意味、翻訳方法などの復習が必要。目安は週に4時間ぐらい。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	中日翻訳Ⅱ
日本人学生も中国人学生も受講可 受講者によって、講義難易度、計画を変更する可能性がある。	
授業計画	
第1回	人称代名詞の翻訳
第2回	常用動詞の翻訳
第3回	成語、諺の翻訳
第4回	省略、補って訳す。
第5回	区切って訳す、適合して訳す
第6回	意識
第7回	使役文の翻訳
第8回	受け身文の翻訳
第9回	実務翻訳①
第10回	実務翻訳②

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	中日翻訳Ⅱ	
第11回	実務翻訳③	
第12回	実務翻訳④	
第13回	実務翻訳⑤	
第14回	実務翻訳⑥	
第15回	総まとめ 課題テスト	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	40	筆記の翻訳テスト 中→日(20%) 日→中(20%)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	出席、授業への参加度(30%) 授業での説明を聴く態度・姿勢、質問を行う度合いなどによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回=30点満点(評価30%) 授業内の課題、小テスト(30%):課題や小テストちゃんとできているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回=30点満点(評価30%)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	日本語コミュニケーションⅡ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	星野 芳輝		
到達目標							
コミュニケーションツールとしての日本語の実用的な使い方、またその文化的背景などを学び、実践的な学習から日本語によるコミュニケーションの上達を測る。 資料や原稿を見ずにある程度日本語会話を可能にする。							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし。							
テキスト							
無し。適宜配布プリントを使用。							
講義内容							
日本語を「使える」という状態にするためには、単語の知識だけではなく、日本の文化を理解し、ネイティブな会話を理解する必要がある。 この講義では、日常会話をはじめとする様々なコミュニケーションの場面を想定し、文化的背景や歴史的背景などを含め、より円滑なコミュニケーションを日本語によって行えるようになることを目指す。 そのうえで、本講義では発表など、実践的な内容を行う機会を設ける。実施の際には必ず講義、Teamsによって周知をする。							
成績評価の方法							
講義への積極的参加 15回×2点(30%) 小テスト 5点×5回(25点) 発表 3回×15点(45%)							
授業の方法							
講義による背景知識の提示に加え、文章や資料の読解、映像資料の視聴、会話練習などを組み合わせる。発表やディスカッションを通して実践する。 発表や重要事項の連絡は必ず事前に行われる。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	日本語コミュニケーションⅡ
発表課題の準備や、必要な復習を適宜行う(4時間程度)	
授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	日本語コミュニケーションと日本文化
第3回	日常生活でのやりとり①(買い物・サービス利用) 注文・支払い・問い合わせ場面を想定。
第4回	日常生活でのやりとり②(医療・役所などの公的場面) 症状説明、書類や手続き関連での会話。
第5回	SNS・チャットの日本語文化 絵文字・スタンプ・既読文化と、誤解を避ける表現。
第6回	ニュースや広告の読み取り メディアの日本語、意図やニュアンスをどう理解するか。
第7回	発表①気になるニュースを紹介する
第8回	社会問題を話す日本語 SDGsや地域課題について
第9回	ユーモアとことば遊び
第10回	地域社会での会話(ボランティア・地域イベント) 世代間の言葉遣い、高齢者や子どもへの配慮。

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	日本語コミュニケーションⅡ	
第11回	発表②最近困った事を話そう	
第12回	日本の地域・文化①	
第13回	日本の地域・文化②	
第14回	発表③日本で行ってみたいところ	
第15回	まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	25	小テスト 5点×5回 (25点)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	30	講義への積極的参加 15回×2点(30%)
その他	45	発表 3回×15点(45%)

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	日本語コミュニケーションⅣ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C322	担当教員	福本 達也		
到達目標							
<p>中級後期から上級水準の日本語コミュニケーションができる。 事実や自分の考えを上手に紹介・説明でき、重要な内容について相手と交渉でき、意見の異なる相手と日本語で議論できる。 自分の考えや多様な情報の中から選んでまとめたものなどを相手にわかりやすいように発表・伝達・説明できる。</p>							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
日本語コミュニケーションⅠ、Ⅱ、Ⅲの単位を取得しているか、それに相当する日本語能力を有していることが望ましい。日本人学生の受講も可。							
テキスト							
<p>視覚資料、印刷物などを配布。場合によって映像を見る。 参考資料: 荻原稚佳子他著(2007)『日本語超級話者への道』スリーエーネットワーク その他の参考文献は授業中に紹介する。</p>							
講義内容							
各時間にそれぞれのテーマや場面で使われる表現などについて学び、練習する。その後テーマに関して自分の考えなどをまとめて発表の準備をした後発表したり話す練習をする。期末にはテーマや場面・内容を選んで課題を作成し発表する。							
成績評価の方法							
授業への貢献度(30%)、授業内の課題(30%)、期末課題・発表(40%)などにより総合的に評価する。							
授業の方法							
<p>視覚資料や印刷物を利用し表現練習などを行い、話す練習をする。その後テーマの内容についての発表の準備をし、発表をする。 必要に応じて、2人でペアを組んでの対話練習やグループでの討論練習、教師との1対1の対話練習などを使い分けながら実践的な会話練習を可能な限り行う。復習としてその週のテーマの課題を作成し次の週に発表・提出させる。復習時間は毎週4時間程度必要。</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	日本語コミュニケーションⅣ
授業の内容・計画は学生の理解・習得の程度などにより変更することがある。	
授業計画	
第1回	ガイダンス、授業について
第2回	話題・テーマ1:今の自分の心境や状態など、または話したいことを話す練習
第3回	話題・テーマ2:自分の好きなシーン・場面の紹介
第4回	話題・テーマ3自分の国や他の国の行事・イベント(伝統行事・祭り)などの紹介
第5回	話題・テーマ4:困ったこと、問題だと考えることについて
第6回	話題・テーマ5:他の人や社会などに対する不満・問題提起、その対処法について
第7回	話題・テーマ6:注意を促す、注意喚起の仕方
第8回	話題・テーマ7:グラフや表を使用した説明、プレゼン
第9回	話題・テーマ8:ステレオタイプに対する意見・反論、打破
第10回	話題・テーマ9:就職や入学などの試験(制度)について

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	日本語コミュニケーションⅣ	
第11回	話題・テーマ10:働くことについて、働くことの意義・目的・理由など	
第12回	話題・テーマ11:環境問題について	
第13回	話題・テーマ12:犯罪について、実態や状況や問題など	
第14回	話題・テーマ13:マスコミ・メディアの功罪について	
第15回	期末課題の発表、会話練習	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	授業への貢献度(30%):5回以上の欠席は単位認定できない。また、授業での説明を聞いたり練習を行う時の姿勢態度や積極性の有無・程度などによって評価する。(毎回0~2点評価)X15回=30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):毎回の課題を要求通りに作成し提出したか、課題の問題を正確に解答できているかによって評価する。(毎回0~2点評価)X15回=30点満点(評価30%)
その他	40	期末課題発表・提出(40%):期末課題40点満点、要求された課題を確実に作成し提出したか、要求された話題・テーマで正しく発表できたかによって評価する。

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	日本語応用 I						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C322	担当教員	奥村 訓代		
到達目標							
多言語と比較しながら、日本語らしさや日本語の良さ、そして面白さを知ることができるようになる。							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
言葉の「面白さ」について意見をまとめておく							
テキスト							
特になし 必要にあわせて指示する							
講義内容							
色々な話題や方法で日本語の楽しさ・面白さを体験する							
成績評価の方法							
毎回の参加度(80%以上)、貢献度などにより判断する。							
授業の方法							
講義・演習・ビデオ鑑賞・討論を適宜行うので、課題(反転授業)課題予習に2・3時間の予習と、授業後には、何がわかって、自分は何をしたかをきちんと整理するポートフォリオ作成に1・2時間の時間を要することを十分承知してください。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	日本語応用 I
授業計画	
第1回	オリエンテーション(授業の進め方・評価基準・その他)
第2回	日本語の特徴について(1)言葉の性質
第3回	同上(2)文字の特徴
第4回	同上(3) 話言葉と書き言葉
第5回	同上(4) 男言葉と女言葉
第6回	同上(5)「読み書き」と「聞く話す」
第7回	同上(6) 笑いと日本人
第8回	同上(7) 万葉仮名に挑戦
第9回	同上(8) 方言と標準語(拍と音声を中心に)
第10回	同上(9) 標準語と共通語(目的と使い分け)

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	日本語応用 I	
第11回	同上(10)「やさしい日本語」再考	
第12回	同上(11)共生日本語を考える	
第13回	同上(12) JLPT1級に1年で合格させる方法について(生成AI利用)	
第14回	同上(13)日本人は世界で、どのように認知されているのか?(世界のジョーク集などを参考に)	
第15回	纏めと小論文	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	90	レポート 発表 討論 が毎回ある。出席は基本的に80%を必要とする。
その他	10	全体(授業への貢献度・態度など)から判断する。

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	日本語文法 I						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	福本 達也		
到達目標							
日本語能力試験N2・N1レベルの日本語文法の知識を身につけることができる。 日本語能力試験N2・N1レベルの日本語運用能力を身につけることができる。							
取得可能な資格							
日本語能力試験N2・N1の合格を目指すことができる。							
受講登録以前に準備すること							
日本語能力試験N2・N3レベルの日本語文法の知識を習得していることが望ましい。							
テキスト							
視聴覚資料、印刷物などを配布。場合によって映像を見る。 氏原康子・岡本牧子共著(2015)『日本語能力試験N1文法必修パターン』有限会社リサーチ出版 その他の参考文献は授業中に紹介する。							
講義内容							
まず、日本語能力試験N2・3レベルの文法事項の復習をし、練習問題を解く。 次に、N1レベルの文法事項を学び、練習問題を解く。 最後にN1レベルの模擬試験の問題を解いてみる。							
成績評価の方法							
授業への貢献度(30%)、授業内の課題(30%)、期末課題・試験(40%)などにより総合的に評価する。							
授業の方法							
毎回文法事項の説明をした後、練習問題を解いてみる。その後問題の正答と解説をする。 小テストを実施することがある。復習として課題を作成し次の週に提出させる。復習時間は毎週4時間程度必要。期末には模擬テストを実施する。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	日本語文法 I
授業計画は学生の理解・習得の程度などにより変更することがある。	
授業計画	
第1回	N2・3レベルの文法の復習①:助詞
第2回	N2・3レベルの文法の復習②:副詞
第3回	N2・3レベルの文法の復習③:接続詞
第4回	N2・3レベルの文法の復習④:敬語
第5回	N2・3レベルの文法の復習⑤:復習問題1
第6回	N2・3レベルの文法の復習⑥:復習問題2
第7回	N1文型の整理①:時間・時期、立場・状況・場合、限定、例示・比喩の文型・表現
第8回	N1文型の整理②:対比、同時・二つの事柄、不変・無関係、強調・くり返しの文型・表現
第9回	N1文型の整理③:逆接・意外、結果、条件・基準・方法、様子・傾向の文型・表現
第10回	N1文型の整理④:話題・対象、意志・意向、理由・根拠、目的の文型・表現

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	日本語文法 I	
第11回	N1文型の整理⑤:可能・不可能、評価・感想、見方・考え方、NG・禁止の文型・表現	
第12回	N1文型の整理⑥:言葉をつなぐ練習1	
第13回	N1文型の整理⑥:言葉をつなぐ練習2	
第14回	N1文型の整理⑦:文をつなぐ練習	
第15回	N1文法模擬試験、解答と解説	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	授業への貢献度(30%)、5回以上の欠席は単位認定できない。また、授業での説明を聴いたり練習をする態度・姿勢、積極性などによって評価する。(毎回0~2点評価)X15回=30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):課題に確実に取り組んでいるか、要求通りできているかによって評価する。(毎回0~2点評価)X15回=30点満点(評価30%)
その他	40	期末課題・試験(40%)、最後の授業の時模擬試験を行う。模擬試験に真剣に取り組んでいるか、問題がどれだけできたかで評価する。40点満点。

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	日本文学A						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	星野 芳輝		
到達目標							
日本文学を通じ、日本文化、歴史背景を学び、日本文化への理解を深める。 日本の文芸作品を楽しみ、その文化的概要を学ぶ。							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
なし							
講義内容							
日本文学作品の概要と、作者、時代背景や文化的背景を講義形式で学ぶ。 作品講読と共に、日本文化についての解説も行う。							
成績評価の方法							
講義への積極的参加15回×3点(45%) 期末レポート55点(55%)							
授業の方法							
日本文学における各作品についての解説を行う。また、その前提知識としての時代背景、文化的背景、古語知識など、周辺知識の解説を行う。 基本は講義形式で行い、質疑があれば適宜受け付ける。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	日本文学A
指定された文献の事前学習(4時間程度)	
授業計画	
第1回	ガイダンス 講義計画のアナウンス
第2回	日本文学の概要
第3回	上代文学 古事記と万葉集
第4回	平安文学 源氏物語、枕草子
第5回	中世文学 徒然草
第6回	江戸の文学 松尾芭蕉と俳諧
第7回	江戸の文学 東海道中膝栗毛
第8回	近代文学 近代化する社会と日本の文芸
第9回	昭和の文学 戦前から戦後
第10回	昭和の文学 高度経済成長下の日本

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	日本文学A	
第11回	平成の文学 ポストモダンと多様性	
第12回	日本の「文学」ライトノベル	
第13回	日本の「文学」漫画	
第14回	日本の「文学」オタク文化	
第15回	まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	55	期末レポート55点(55%)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	45	講義への積極的参加15回×3点(45%)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	基礎ゼミナールⅡ(種石)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	1	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	福本 達也、福本 達也、四川 祥一、樋口 葵、種石 悠、田 桃雨、杉山 維彦、星野 芳輝、黄 美花、加藤 剛寿		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読んで趣旨・内容を理解し、要点をまとめることができるようになる。 ・テキストを読んで、その内容などに対する自分の考えをまとめ、その根拠も含めて人にわかりやすく説明できるようになる。 ・学術的なレポートが書けるようになる。 							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・主テキスト:授業中に提示・指示をする。 ・参考テキスト:新田誠吾(2019)『これならできる!レポート・論文のまとめ方』すばる舎 小森万里・三井久美子(2016)『ここがポイント!レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版 							
講義内容							
テキストを読んで、内容を理解したり趣旨・要点をまとめた上で、その文章に対する自分の主張や意見を論理的に述べる力を養う。また日本語能力試験N2読解問題を解く能力を養う。さらに、レポート作成の演習を通して、論証型レポートを作成する能力を培う。							
成績評価の方法							
テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度 (30%) 意見文の作成、レジュメ、ショートレポート (30%) 論証型レポート (40%)							
授業の方法							
まず、テキストを読んで要点や内容について発表やディスカッションを行い文章の内容を理解したうえで、自分の主張や意見を論理的に述べる口頭発表や意見文作成をする。さらに、レポート作成の方法を学び、レポート作成の演習を行う。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	基礎ゼミナールⅡ(種石)
各クラスの進捗状況により、内容および進度を変更することがある。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション:授業の進め方
第2回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(1-1)
第3回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(1-2)
第4回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(2-1)
第5回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(2-2)
第6回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(3-1)
第7回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(3-2)
第8回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(4-1)
第9回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(4-2)
第10回	論証型レポートの作成、準備(1)

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	基礎ゼミナールⅡ(種石)	
第11回	論証型レポートの作成、準備(2)	
第12回	論証型レポートの作成、準備(3)	
第13回	論証型レポートの作成、準備(4)	
第14回	論証型レポートの作成、準備(5)	
第15回	論証型レポートの作成、準備(6)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度(30%)、5回以上の欠席は単位認定できない。また、授業での輪読ができるか、テキストの内容についてディスカッションできるかなどの度合いによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):意見文の作成、レジュメ、ショートレポートなどの課題を指示通りに作成しているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%)
その他	40	論証型レポート提出。40点満点。テキストの内容を理解して、その内容に対する自分の意見を証拠を示しながら論じるレポートが作成できているかどうかで評価する。また、レポート形式に則ってレポートを作成しているかどうかで評価する。

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	基礎ゼミナールⅡ(黄)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	1	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C322	担当教員	福本 達也、福本 達也、四川 祥一、樋口 葵、種石 悠、田 桃雨、杉山 維彦、星野 芳輝、黄 美花、加藤 剛寿		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読んで趣旨・内容を理解し、要点をまとめることができるようになる。 ・テキストを読んで、その内容などに対する自分の考えをまとめ、その根拠も含めて人にわかりやすく説明できるようになる。 ・学術的なレポートが書けるようになる。 							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・主テキスト:授業中に提示・指示をする。 ・参考テキスト:新田誠吾(2019)『これならできる!レポート・論文のまとめ方』すばる舎 小森万里・三井久美子(2016)『ここがポイント!レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版 							
講義内容							
<p>テキストを読んで、内容を理解したり趣旨・要点をまとめた上で、その文章に対する自分の主張や意見を論理的に述べる力を養う。また日本語能力試験N2読解問題を解く能力を養う。さらに、レポート作成の演習を通して、論証型レポートを作成する能力を培う。</p>							
成績評価の方法							
<p>テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度 (30%) 意見文の作成、レジュメ、ショートレポート (30%) 論証型レポート (40%)</p>							
授業の方法							
<p>まず、テキストを読んで要点や内容について発表やディスカッションを行い文章の内容を理解したうえで、自分の主張や意見を論理的に述べる口頭発表や意見文作成をする。さらに、レポート作成の方法を学び、レポート作成の演習を行う。</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	基礎ゼミナールⅡ(黄)
各クラスの進捗状況により、内容および進度を変更することがある。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション:授業の進め方
第2回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(1-1)
第3回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(1-2)
第4回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(2-1)
第5回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(2-2)
第6回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(3-1)
第7回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(3-2)
第8回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(4-1)
第9回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(4-2)
第10回	論証型レポートの作成、準備(1)

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	基礎ゼミナールⅡ(黄)	
第11回	論証型レポートの作成、準備(2)	
第12回	論証型レポートの作成、準備(3)	
第13回	論証型レポートの作成、準備(4)	
第14回	論証型レポートの作成、準備(5)	
第15回	論証型レポートの作成、準備(6)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度(30%)、5回以上の欠席は単位認定できない。また、授業での輪読ができるか、テキストの内容についてディスカッションできるかなどの度合いによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):意見文の作成、レジュメ、ショートレポートなどの課題を指示通りに作成しているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%)
その他	40	論証型レポート提出。40点満点。テキストの内容を理解して、その内容に対する自分の意見を証拠を示しながら論じるレポートが作成できているかどうかで評価する。また、レポート形式に則ってレポートを作成しているかどうかで評価する。

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	基礎ゼミナールⅡ(加藤)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	1	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C317	担当教員	福本 達也、福本 達也、四川 祥一、樋口 葵、種石 悠、田 桃雨、杉山 維彦、星野 芳輝、黄 美花、加藤 剛寿		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読んで趣旨・内容を理解し、要点をまとめることができるようになる。 ・テキストを読んで、その内容などに対する自分の考えをまとめ、その根拠も含めて人にわかりやすく説明できるようになる。 ・学術的なレポートが書けるようになる。 							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・主テキスト:授業中に提示・指示をする。 ・参考テキスト:新田誠吾(2019)『これならできる!レポート・論文のまとめ方』すばる舎 小森万里・三井久美子(2016)『ここがポイント!レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版 							
講義内容							
<p>テキストを読んで、内容を理解したり趣旨・要点をまとめた上で、その文章に対する自分の主張や意見を論理的に述べる力を養う。また日本語能力試験N2読解問題を解く能力を養う。さらに、レポート作成の演習を通して、論証型レポートを作成する能力を培う。</p>							
成績評価の方法							
<p>テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度(30%) 意見文の作成、レジュメ、ショートレポート(30%) 論証型レポート(40%)</p>							
授業の方法							
<p>まず、テキストを読んで要点や内容について発表やディスカッションを行い文章の内容を理解したうえで、自分の主張や意見を論理的に述べる口頭発表や意見文作成をする。さらに、レポート作成の方法を学び、レポート作成の演習を行う。</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	基礎ゼミナールⅡ(加藤)
各クラスの進捗状況により、内容および進度を変更することがある。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション:授業の進め方
第2回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(1-1)
第3回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(1-2)
第4回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(2-1)
第5回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(2-2)
第6回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(3-1)
第7回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(3-2)
第8回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(4-1)
第9回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(4-2)
第10回	論証型レポートの作成、準備(1)

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	基礎ゼミナールⅡ(加藤)	
第11回	論証型レポートの作成、準備(2)	
第12回	論証型レポートの作成、準備(3)	
第13回	論証型レポートの作成、準備(4)	
第14回	論証型レポートの作成、準備(5)	
第15回	論証型レポートの作成、準備(6)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度(30%)、5回以上の欠席は単位認定できない。また、授業での輪読ができるか、テキストの内容についてディスカッションできるかなどの度合いによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):意見文の作成、レジュメ、ショートレポートなどの課題を指示通りに作成しているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%)
その他	40	論証型レポート提出。40点満点。テキストの内容を理解して、その内容に対する自分の意見を証拠を示しながら論じるレポートが作成できているかどうかで評価する。また、レポート形式に則ってレポートを作成しているかどうかで評価する。

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	基礎ゼミナールⅡ(杉山)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	1	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C321	担当教員	福本 達也、福本 達也、四川 祥一、樋口 葵、種石 悠、田 桃雨、杉山 維彦、星野 芳輝、黄 美花、加藤 剛寿		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読んで趣旨・内容を理解し、要点をまとめることができるようになる。 ・テキストを読んで、その内容などに対する自分の考えをまとめ、その根拠も含めて人にわかりやすく説明できるようになる。 ・学術的なレポートが書けるようになる。 							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・主テキスト:授業中に提示・指示をする。 ・参考テキスト:新田誠吾(2019)『これならできる!レポート・論文のまとめ方』すばる舎 小森万里・三井久美子(2016)『ここがポイント!レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版 							
講義内容							
<p>テキストを読んで、内容を理解したり趣旨・要点をまとめた上で、その文章に対する自分の主張や意見を論理的に述べる力を養う。また日本語能力試験N2読解問題を解く能力を養う。さらに、レポート作成の演習を通して、論証型レポートを作成する能力を培う。</p>							
成績評価の方法							
<p>テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度(30%) 意見文の作成、レジュメ、ショートレポート(30%) 論証型レポート(40%)</p>							
授業の方法							
<p>まず、テキストを読んで要点や内容について発表やディスカッションを行い文章の内容を理解したうえで、自分の主張や意見を論理的に述べる口頭発表や意見文作成をする。さらに、レポート作成の方法を学び、レポート作成の演習を行う。</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	基礎ゼミナールⅡ(杉山)
各クラスの進捗状況により、内容および進度を変更することがある。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション:授業の進め方
第2回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(1-1)
第3回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(1-2)
第4回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(2-1)
第5回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(2-2)
第6回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(3-1)
第7回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(3-2)
第8回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(4-1)
第9回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(4-2)
第10回	論証型レポートの作成、準備(1)

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	基礎ゼミナールⅡ(杉山)	
第11回	論証型レポートの作成、準備(2)	
第12回	論証型レポートの作成、準備(3)	
第13回	論証型レポートの作成、準備(4)	
第14回	論証型レポートの作成、準備(5)	
第15回	論証型レポートの作成、準備(6)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度(30%)、5回以上の欠席は単位認定できない。また、授業での輪読ができるか、テキストの内容についてディスカッションできるかなどの度合いによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):意見文の作成、レジュメ、ショートレポートなどの課題を指示通りに作成しているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%)
その他	40	論証型レポート提出。40点満点。テキストの内容を理解して、その内容に対する自分の意見を証拠を示しながら論じるレポートが作成できているかどうかで評価する。また、レポート形式に則ってレポートを作成しているかどうかで評価する。

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	基礎ゼミナールⅡ(星野)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	1	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C315・C316	担当教員	福本 達也、福本 達也、四川 祥一、樋口 葵、種石 悠、田 桃雨、杉山 維彦、星野 芳輝、黄 美花、加藤 剛寿		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読んで趣旨・内容を理解し、要点をまとめることができるようになる。 ・テキストを読んで、その内容などに対する自分の考えをまとめ、その根拠も含めて人にわかりやすく説明できるようになる。 ・学術的なレポートが書けるようになる。 							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・主テキスト:授業中に提示・指示をする。 ・参考テキスト:新田誠吾(2019)『これならできる!レポート・論文のまとめ方』すばる舎 小森万里・三井久美子(2016)『ここがポイント!レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版 							
講義内容							
<p>テキストを読んで、内容を理解したり趣旨・要点をまとめた上で、その文章に対する自分の主張や意見を論理的に述べる力を養う。また日本語能力試験N2読解問題を解く能力を養う。さらに、レポート作成の演習を通して、論証型レポートを作成する能力を培う。</p>							
成績評価の方法							
<p>テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度 (30%) 意見文の作成、レジュメ、ショートレポート (30%) 論証型レポート (40%)</p>							
授業の方法							
<p>まず、テキストを読んで要点や内容について発表やディスカッションを行い文章の内容を理解したうえで、自分の主張や意見を論理的に述べる口頭発表や意見文作成をする。さらに、レポート作成の方法を学び、レポート作成の演習を行う。</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	基礎ゼミナールⅡ(星野)
各クラスの進捗状況により、内容および進度を変更することがある。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション:授業の進め方
第2回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(1-1)
第3回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(1-2)
第4回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(2-1)
第5回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(2-2)
第6回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(3-1)
第7回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(3-2)
第8回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(4-1)
第9回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(4-2)
第10回	論証型レポートの作成、準備(1)

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	基礎ゼミナールⅡ(星野)	
第11回	論証型レポートの作成、準備(2)	
第12回	論証型レポートの作成、準備(3)	
第13回	論証型レポートの作成、準備(4)	
第14回	論証型レポートの作成、準備(5)	
第15回	論証型レポートの作成、準備(6)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度(30%)、5回以上の欠席は単位認定できない。また、授業での輪読ができるか、テキストの内容についてディスカッションできるかなどの度合いによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):意見文の作成、レジュメ、ショートレポートなどの課題を指示通りに作成しているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%)
その他	40	論証型レポート提出。40点満点。テキストの内容を理解して、その内容に対する自分の意見を証拠を示しながら論じるレポートが作成できているかどうかで評価する。また、レポート形式に則ってレポートを作成しているかどうかで評価する。

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	基礎ゼミナールⅡ(西川)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	1	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C324	担当教員	福本 達也、福本 達也、四川 祥一、樋口 葵、種石 悠、田 桃雨、杉山 維彦、星野 芳輝、黄 美花、加藤 剛寿		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読んで趣旨・内容を理解し、要点をまとめることができるようになる。 ・テキストを読んで、その内容などに対する自分の考えをまとめ、その根拠も含めて人にわかりやすく説明できるようになる。 ・学術的なレポートが書けるようになる。 							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・主テキスト:授業中に提示・指示をする。 ・参考テキスト:新田誠吾(2019)『これならできる!レポート・論文のまとめ方』すばる舎 小森万里・三井久美子(2016)『ここがポイント!レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版 							
講義内容							
テキストを読んで、内容を理解したり趣旨・要点をまとめた上で、その文章に対する自分の主張や意見を論理的に述べる力を養う。また日本語能力試験N2読解問題を解く能力を養う。さらに、レポート作成の演習を通して、論証型レポートを作成する能力を培う。							
成績評価の方法							
テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度(30%) 意見文の作成、レジュメ、ショートレポート(30%) 論証型レポート(40%)							
授業の方法							
まず、テキストを読んで要点や内容について発表やディスカッションを行い文章の内容を理解したうえで、自分の主張や意見を論理的に述べる口頭発表や意見文作成をする。さらに、レポート作成の方法を学び、レポート作成の演習を行う。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	基礎ゼミナールⅡ(西川)
各クラスの進捗状況により、内容および進度を変更することがある。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション:授業の進め方
第2回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(1-1)
第3回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(1-2)
第4回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(2-1)
第5回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(2-2)
第6回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(3-1)
第7回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(3-2)
第8回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(4-1)
第9回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(4-2)
第10回	論証型レポートの作成、準備(1)

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	基礎ゼミナールⅡ(西川)	
第11回	論証型レポートの作成、準備(2)	
第12回	論証型レポートの作成、準備(3)	
第13回	論証型レポートの作成、準備(4)	
第14回	論証型レポートの作成、準備(5)	
第15回	論証型レポートの作成、準備(6)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度(30%)、5回以上の欠席は単位認定できない。また、授業での輪読ができるか、テキストの内容についてディスカッションできるかなどの度合いによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回=30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):意見文の作成、レジュメ、ショートレポートなどの課題を指示通りに作成しているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回=30点満点(評価30%)
その他	40	論証型レポート提出。40点満点。テキストの内容を理解して、その内容に対する自分の意見を証拠を示しながら論じるレポートが作成できているかどうかで評価する。また、レポート形式に則ってレポートを作成しているかどうかで評価する。

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	基礎ゼミナールⅡ(田)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	1	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	福本 達也、福本 達也、四川 祥一、樋口 葵、種石 悠、田 桃雨、杉山 維彦、星野 芳輝、黄 美花、加藤 剛寿		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読んで趣旨・内容を理解し、要点をまとめることができるようになる。 ・テキストを読んで、その内容などに対する自分の考えをまとめ、その根拠も含めて人にわかりやすく説明できるようになる。 ・学術的なレポートが書けるようになる。 							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・主テキスト:授業中に提示・指示をする。 ・参考テキスト:新田誠吾(2019)『これならできる!レポート・論文のまとめ方』すばる舎 小森万里・三井久美子(2016)『ここがポイント!レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版 							
講義内容							
<p>テキストを読んで、内容を理解したり趣旨・要点をまとめた上で、その文章に対する自分の主張や意見を論理的に述べる力を養う。また日本語能力試験N2読解問題を解く能力を養う。さらに、レポート作成の演習を通して、論証型レポートを作成する能力を培う。</p>							
成績評価の方法							
<p>テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度 (30%) 意見文の作成、レジュメ、ショートレポート (30%) 論証型レポート (40%)</p>							
授業の方法							
<p>まず、テキストを読んで要点や内容について発表やディスカッションを行い文章の内容を理解したうえで、自分の主張や意見を論理的に述べる口頭発表や意見文作成をする。さらに、レポート作成の方法を学び、レポート作成の演習を行う。</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	基礎ゼミナールⅡ(田)
各クラスの進捗状況により、内容および進度を変更することがある。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション:授業の進め方
第2回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(1-1)
第3回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(1-2)
第4回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(2-1)
第5回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(2-2)
第6回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(3-1)
第7回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(3-2)
第8回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(4-1)
第9回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(4-2)
第10回	論証型レポートの作成、準備(1)

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	基礎ゼミナールⅡ(田)	
第11回	論証型レポートの作成、準備(2)	
第12回	論証型レポートの作成、準備(3)	
第13回	論証型レポートの作成、準備(4)	
第14回	論証型レポートの作成、準備(5)	
第15回	論証型レポートの作成、準備(6)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度(30%)、5回以上の欠席は単位認定できない。また、授業での輪読ができるか、テキストの内容についてディスカッションできるかなどの度合いによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):意見文の作成、レジュメ、ショートレポートなどの課題を指示通りに作成しているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%)
その他	40	論証型レポート提出。40点満点。テキストの内容を理解して、その内容に対する自分の意見を証拠を示しながら論じるレポートが作成できているかどうかで評価する。また、レポート形式に則ってレポートを作成しているかどうかで評価する。

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	基礎ゼミナールⅡ(樋口)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	1	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C318	担当教員	福本 達也、福本 達也、四川 祥一、樋口 葵、種石 悠、田 桃雨、杉山 維彦、星野 芳輝、黄 美花、加藤 剛寿		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読んで趣旨・内容を理解し、要点をまとめることができるようになる。 ・テキストを読んで、その内容などに対する自分の考えをまとめ、その根拠も含めて人にわかりやすく説明できるようになる。 ・学術的なレポートが書けるようになる。 							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・主テキスト:授業中に提示・指示をする。 ・参考テキスト:新田誠吾(2019)『これならできる!レポート・論文のまとめ方』すばる舎 小森万里・三井久美子(2016)『ここがポイント!レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版 							
講義内容							
<p>テキストを読んで、内容を理解したり趣旨・要点をまとめた上で、その文章に対する自分の主張や意見を論理的に述べる力を養う。また日本語能力試験N2読解問題を解く能力を養う。さらに、レポート作成の演習を通して、論証型レポートを作成する能力を培う。</p>							
成績評価の方法							
<p>テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度 (30%) 意見文の作成、レジュメ、ショートレポート (30%) 論証型レポート (40%)</p>							
授業の方法							
<p>まず、テキストを読んで要点や内容について発表やディスカッションを行い文章の内容を理解したうえで、自分の主張や意見を論理的に述べる口頭発表や意見文作成をする。さらに、レポート作成の方法を学び、レポート作成の演習を行う。</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	基礎ゼミナールⅡ(樋口)
各クラスの進捗状況により、内容および進度を変更することがある。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション:授業の進め方
第2回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(1-1)
第3回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(1-2)
第4回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(2-1)
第5回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(2-2)
第6回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(3-1)
第7回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(3-2)
第8回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(4-1)
第9回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(4-2)
第10回	論証型レポートの作成、準備(1)

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	基礎ゼミナールⅡ(樋口)	
第11回	論証型レポートの作成、準備(2)	
第12回	論証型レポートの作成、準備(3)	
第13回	論証型レポートの作成、準備(4)	
第14回	論証型レポートの作成、準備(5)	
第15回	論証型レポートの作成、準備(6)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度(30%)、5回以上の欠席は単位認定できない。また、授業での輪読ができるか、テキストの内容についてディスカッションできるかなどの度合いによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):意見文の作成、レジュメ、ショートレポートなどの課題を指示通りに作成しているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%)
その他	40	論証型レポート提出。40点満点。テキストの内容を理解して、その内容に対する自分の意見を証拠を示しながら論じるレポートが作成できているかどうかで評価する。また、レポート形式に則ってレポートを作成しているかどうかで評価する。

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	基礎ゼミナールⅡ(福本)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	1	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C319	担当教員	福本 達也、福本 達也、四川 祥一、樋口 葵、種石 悠、田 桃雨、杉山 維彦、星野 芳輝、黄 美花、加藤 剛寿		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読んで趣旨・内容を理解し、要点をまとめることができるようになる。 ・テキストを読んで、その内容などに対する自分の考えをまとめ、その根拠も含めて人にわかりやすく説明できるようになる。 ・学術的なレポートが書けるようになる。 							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・主テキスト:授業中に提示・指示をする。 ・参考テキスト:新田誠吾(2019)『これならできる!レポート・論文のまとめ方』すばる舎 小森万里・三井久美子(2016)『ここがポイント!レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版 							
講義内容							
<p>テキストを読んで、内容を理解したり趣旨・要点をまとめた上で、その文章に対する自分の主張や意見を論理的に述べる力を養う。また日本語能力試験N2読解問題を解く能力を養う。さらに、レポート作成の演習を通して、論証型レポートを作成する能力を培う。</p>							
成績評価の方法							
<p>テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度 (30%) 意見文の作成、レジュメ、ショートレポート (30%) 論証型レポート (40%)</p>							
授業の方法							
<p>まず、テキストを読んで要点や内容について発表やディスカッションを行い文章の内容を理解したうえで、自分の主張や意見を論理的に述べる口頭発表や意見文作成をする。さらに、レポート作成の方法を学び、レポート作成の演習を行う。</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	基礎ゼミナールⅡ(福本)
各クラスの進捗状況により、内容および進度を変更することがある。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション:授業の進め方
第2回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(1-1)
第3回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(1-2)
第4回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(2-1)
第5回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(2-2)
第6回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(3-1)
第7回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(3-2)
第8回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(4-1)
第9回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(4-2)
第10回	論証型レポートの作成、準備(1)

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	基礎ゼミナールⅡ(福本)	
第11回	論証型レポートの作成、準備(2)	
第12回	論証型レポートの作成、準備(3)	
第13回	論証型レポートの作成、準備(4)	
第14回	論証型レポートの作成、準備(5)	
第15回	論証型レポートの作成、準備(6)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度(30%)、5回以上の欠席は単位認定できない。また、授業での輪読ができるか、テキストの内容についてディスカッションできるかなどの度合いによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):意見文の作成、レジュメ、ショートレポートなどの課題を指示通りに作成しているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%)
その他	40	論証型レポート提出。40点満点。テキストの内容を理解して、その内容に対する自分の意見を証拠を示しながら論じるレポートが作成できているかどうかで評価する。また、レポート形式に則ってレポートを作成しているかどうかで評価する。

2025 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		専門ゼミナールⅡ					
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	種石 悠、奥村 訓代、山中 慎、種石 悠、田桃雨、末富 弘、高橋 あすか、星野 芳輝		
到達目標							
研究におけるレポート・論文作成能力を得る。 興味を持つ専門分野を見つけ、来年度以降に向けて研究の基礎を構築する。							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
佐渡島紗織ほか2021『これから研究を書くひとのためのガイドブック[第2版]』ひつじ書房							
講義内容							
大学での重要な活動の1つに「研究」がある。北洋大学では、専門ゼミナールおよび卒業研究を通して研究活動を行う。研究活動を行うためには、どのような専門分野があるのか、各専門分野ではどのような手法を用いるのかを知り、研究についての具体的なイメージを持つ必要がある。 専門ゼミナールⅠおよびⅡでは、テキストを参考文献として用いながら、レポート・論文の書き方について各項目を設定して解説する。その際、各教員の専門分野に照らし合わせながら説明する。各教員のゼミにより各専門分野に触れることによって、研究とはどのようなものかを知り、自分がどのような専門分野について研究するのかを考える。							
成績評価の方法							
各2回(初回3回)のゼミ終了後の小レポート(3点×15回、45%):各教員が自由に設定。 期末レポート(55点、55%):期末レポート課題を提示する。担当教員で採点を分担。教員の裁量で評価する。							
授業の方法							
受講生に対して、7名の教員が2回ずつ(初回のみ3回)順番にゼミを担当する。 テキストの項目に沿って解説してゆくので、受講生はゼミの前に不明な語句等について2時間を変えて予習し、ゼミのあとは関連文献などを用いて2時間をかけて復習をすること。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅡ
授業全体に関する質問等があれば責任教員(種石)に連絡すること。その他、各ゼミに関する質問は各担当教員に直接質問すること。	
授業計画	
第1回	文章の書き方。論文とは何か。
第2回	文章の書き方。論文とは何か。
第3回	文章の書き方。論文とは何か。
第4回	テーマを決める
第5回	テーマを決める
第6回	文献研究
第7回	文献研究
第8回	文献研究
第9回	文献研究
第10回	実証研究

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅡ	
第11回	実証研究	
第12回	実証研究	
第13回	実証研究	
第14回	研究計画書を書く	
第15回	研究計画書を書く	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	45	ゼミ後の小レポート・小テスト(3点×15回)
その他	55	期末レポート 55点

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	専門ゼミナールⅣ(中田)						
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C322	担当教員	中田 和則		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・財務諸表の仕組みの理解、日商簿記検定(3級・2級)やビジネス検定(3級)の合格レベルを到達目標とする。 ・グループで新規ビジネスプランを策定する。 							
取得可能な資格							
日商簿記検定(3級、2級)、ビジネス会計検定3級等							
受講登録以前に準備すること							
簿記・会計の知識をベースに、将来、自分が取り組みたい、新規ビジネスプランのイメージしておくこと。							
テキスト							
講義の中で、適時、指示する。							
講義内容							
ゼミの前半は、簿記・会計の演習を中心に、後半は新規ビジネスプランに関する学習・検討を実施する。							
成績評価の方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミへの積極的な参画状況(40%) 問題演習の採点(30%)ビジネスプラン策定への貢献度(30%)により成績評価する。 ・理由がある欠席は3回まで認める。特別な理由がない場合、欠席4回以上は単位を認めない。 							
授業の方法							
前半は、日商簿記の問題演習を中心に、後半は創業やビジネスプラン策定を中心に実施する。 日商簿記の問題演習の復習には、毎週4時間程度が必要。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅣ(中田)
ゼミ内で策定検討した、新規ビジネスプランを持って、「学生ビジネスプランコンテスト」に応募し発表を目指す。	
授業計画	
第1回	簿記・会計問題演習
	担当教員 中田 和則
第2回	簿記・会計問題演習
	担当教員 中田 和則
第3回	簿記・会計問題演習
	担当教員 中田 和則
第4回	簿記・会計問題演習
	担当教員 中田 和則
第5回	簿記・会計問題演習
	担当教員 中田 和則
第6回	簿記・会計問題演習
	担当教員 中田 和則
第7回	簿記・会計問題演習
	担当教員 中田 和則
第8回	ビジネスプラン ・会社の設立と運営
	担当教員 中田 和則

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅣ(中田)	
第9回	ビジネスプラン ・理念、戦略	
	担当教員	中田 和則
第10回	ビジネスプラン ・ターゲット	
	担当教員	中田 和則
第11回	ビジネスプラン ・組織、人財	
	担当教員	中田 和則
第12回	ビジネスプラン ・競合分析	
	担当教員	中田 和則
第13回	ビジネスプラン ・PDCA計画	
	担当教員	中田 和則
第14回	ビジネスプラン ・資金調達	
	担当教員	中田 和則
第15回	ビジネスプラン ・プレゼン、プロモーション	
	担当教員	中田 和則
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	ゼミへの積極的な参画状況(40%)問題演習の採点(30%)ビジネスプラン策定への貢献度(30%)により成績評価する。

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅣ(中田)	
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		専門ゼミナールⅣ(樋口)					
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C315・C316	担当教員	樋口 葵		
到達目標							
<p>文献、フィールドワークで学んだ内容を論理的かつ明快に説明することができる。 フィールドワークで得た内容をまとめることはもちろん、考察を加えて自分の考えを持つことができる。 現代社会で起こっている観光現象について論じたり、グループワークやペアワーク、ディスカッションを通して学生同士が討議できる。</p>							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
斎藤常治(2024)「資格がない人のための体験ツアー企画・運営ガイドー旅行業法違反にならずに成功させるインバウンド」秀和システム							
講義内容							
<p>国内外には美しい自然環境から伝統文化、文化遺産、食文化、音楽、アート、ポップ・サブカルチャーなど地域固有のさまざまな資源が存在する。そこには、その地域に長年生活する地元民がいるほか、観光しに訪れる旅行者などもいる。 本授業では、受講生がそれぞれ関心のある観光事例を調べたり、苫小牧市内で起こっている観光現象について調べて課題を探ったり、専門ゼミⅢで行ったツアープログラム作りを引き続き行う予定だ。 また、苫小牧市内の観光資源や現状の課題を実践的に学べるようフィールドワークも適宜行い、実践的な学びを行う。</p>							
成績評価の方法							
フィールドワークへの参加(30%)・授業への積極的な参画(30%)・授業内外で行う発表(40%)							
授業の方法							
<p>受講生が興味のある観光事例を調べたり、ツアープログラムを考えたり、指定した文献のレジュメ作成を行ったりする学生主体のアクティブ・ラーニング型の授業である。授業の中では適宜、グループワークやペアワーク、ディスカッションを実施したり、フィールドワークを通して参加者へインタビュー調査を行ったり、動態調査を実施したりする。また、調査結果の考察やまとめも行う。 予復習として、毎週4時間程度それぞれが関心のある観光事例を紹介する資料作りを行ったり、発表資料を作成したりする時間が必要となる。フィールドワークでの調査内容も学生たちで考える。</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅣ(樋口)
土日にフィールドワークを行うことがある。市内移動の交通費が学生負担となる場合もある。	
授業計画	
第1回	ガイダンス・春学期の調査の振り返り
第2回	ツアープログラムの発表と議論①
第3回	ツアープログラムの発表と議論②
第4回	事例研究①
第5回	事例研究②
第6回	フィールドワーク準備①
第7回	フィールドワーク準備②
第8回	フィールドワーク①
第9回	フィールドワーク②
第10回	フィールドワーク③

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅣ(樋口)	
第11回	結果の考察①	
第12回	結果の考察②	
第13回	結果のまとめと発表①	
第14回	結果のまとめと発表②	
第15回	結果のまとめと発表③	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	フィールドワークへの参加(30%)・授業への積極的な参画(30%)・授業内外で行う発表(40%)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	専門ゼミナールⅣ(福本)						
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C319	担当教員	福本 達也		
到達目標							
日本や中国などのアジアの国について説明できる。それぞれの国のことについて理解し比較することによって世界の中での立ち位置や関係について論述できる。授業の内容について自ら考え自分の意見を発表・文章化でき、レポートや論文が書けるようになる。							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
日中などの文化・社会などに興味・関心を持つことが望ましい。							
テキスト							
教師作成の視覚資料を提供する。場合によっては映像を用いる。 参考資料・文献は授業中に知らせる。							
講義内容							
専門ゼミ3に引き続き、日本や中国などのアジアの国の文化や社会などについて項目ごとに調べ比較しながら、それぞれの国や人々、社会について考察し、議論しながら理解を深め、自分の考えを発表したり課題作成をする。期末に授業で考察した内容をさらに深めるために期末レポートを作成する。							
成績評価の方法							
授業への貢献度(30%)、授業内の課題(30%)、期末レポート(40%)などにより総合的に評価する。							
授業の方法							
毎回、各項目について講義・説明した後、その内容についてメモしたり考えたりした後、その内容について各自まとめ、質疑応答や議論をする。復習として課題作成をする。復習時間は毎週4時間程度必要。 期末に授業でした内容の中からいくつか選んでテーマを決めて深く考察・分析しレポートを作成する。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅣ(福本)
授業の内容・計画は学生の理解・習得の程度などにより変更することがある。	
授業計画	
第1回	全体ガイダンス、オリエンテーション
第2回	ゼミクラスでのガイダンス、授業について 文化や社会などの国際比較について
第3回	日中などの地理について
第4回	日中などの歴史について
第5回	日中などの文化について
第6回	日中などの風俗・習慣について
第7回	日中などの精神文化・宗教・思想について
第8回	日中などの言語について
第9回	日中などの芸術・美術について
第10回	日中などの伝統芸能について

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅣ(福本)	
第11回	日中などの交通・通信・運輸について	
第12回	日中などの娯楽文化、サブカルチャーについて	
第13回	日中などの国民性、人間性、価値観、美意識、礼儀作法、生死観について	
第14回	日中などの社会問題について	
第15回	日中などの経済について	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	授業への貢献度(30%)、5回以上の欠席は単位認定できない。また、授業での説明を聴く態度・姿勢、質問を行う度合いなどによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%): 要求した課題を指示通りに作成しているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%)
その他	40	期末レポート提出。40点満点。授業などで学んだ内容からいくつか選んでその内容について深く調査し分析してレポートを作成しているかどうかで評価する。レポート形式に則ってレポートを作成しているかどうかで評価する。

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	専門ゼミナールⅣ(末富)						
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室		担当教員	末富 弘		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・北海道の各地域の特徴や経済の現状を説明できる。 ・課題を承知して、具体的な活性化策を提言する。 ・活性化策を実現する企業のビジネスプランを作成する。 							
取得可能な資格							
特になし。							
受講登録以前に準備すること							
<p>北海道のHPの以下の部分を開覧し、北海道地域の状況等について認識しておく。 https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/fs/6/8/8/8/2/9/8/_/14_%E3%80%90%E8%B3%87%E6%96%993-2%E3%80%912%E7%AB%A0(P4`8)%E4%BF%AE%E6%AD%A3.pdf</p>							
テキスト							
<p>参考資料： 北海道「北海道の現状と課題」 北海道経済同友会「北海道の未来を拓くヒトづくり―食・観光の針路を踏まえー」 日本政策金融公庫「創業の手引」 ドリームゲート「ビジネスプランテンプレート」</p>							
講義内容							
<p>各種資料から北海道の現状を確認し、課題を発見する。 その課題の解決の為に何を行うかの提言書を作成する。</p>							
成績評価の方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・合計100点で、60点以上の場合に単位を付与する。 ・ゼミの各回の理解度・学習態度:最高50点 ・ビジネスプランの完成度:最高50点 ・5回以上の欠席は単位を認めない。 							
授業の方法							
<p>教員や外部専門家が、ゼミの進捗に合わせて指導を行う。 (復習)ゼミ終了後は作成した部分について見直し、必要であれば修正する。(2時間) (予習)ゼミ前には、当日の内容についてあらかじめ理解しておく。(ゼミを効果的に進めるため)(2時間)</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅣ(末富)
実務家教員による科目 1977～1998 北海道拓殖銀行 (1986～1988 北海道出向) 1998～2011 北洋銀行 (2000～2007 北海道TLO出向) 2011～ 苫小牧信用金庫	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	北海道経済の現状と課題について学修し、説明できるようにする。(1) SWOT分析:SWOT分析とは、自社(地域)の内部環境と外部環境を「強み」「弱み」「機会」「脅威」の4つの要素で分析し、企業(地域)の現状を把握し効果的な戦略を策定するためのフレームワークです。
第3回	北海道経済の現状と課題について学修し、説明できるようにする。(2)
第4回	ビジネスモデルを検討する。①(課題解決からどのように利益を得るシステムを考える)
第5回	ビジネスモデルを検討する。②(課題解決からどのように利益を得るシステムを考える)
第6回	資金計画を検討する。①
第7回	資金計画を検討する。②
第8回	収支計画を検討する。①(売上予測)
第9回	収支計画を検討する。②(経費予測)
第10回	創業の基礎知識を確認する。(許認可等)

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅣ(末富)	
第11回	第一次ビジネスプランを作成する。①	
第12回	第一次ビジネスプランを作成する。②	
第13回	第一次ビジネスプランについて評価を受ける。	
第14回	第二次ビジネスプランを作成する。	
第15回	第二次ビジネスプランについて評価を受ける。	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	活性化の提言に至るまでの学修を評価する。(50%) また、出来上がった活性化の提言について評価する(50%) 合計100店で、60点以上に単位を付与する。 5回以上の欠席は認めない。
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	専門ゼミナールⅣ(西川)						
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C318	担当教員	西川 祥一		
到達目標							
<p>苫小牧市を活性化するための調査、立案、実施を行うプロジェクトゼミです。</p> <p>1)自分たちでプロジェクトを企画、実践できる 2)地域の特性を理解し、地域の問題を把握し、解決策を提案できる 3)社会人に求められるセルフマネジメント力を習得できる</p>							
取得可能な資格							
なし							
受講登録以前に準備すること							
なし							
テキスト							
必要に応じて、資料を用意します。							
講義内容							
<p>このゼミは、専門書のレジメを書き発表したり、それぞれのテーマで議論したりという従来型のゼミではありません。テーマを調査し、立案し、実行するプロジェクト型の演習です。大きなテーマは、苫小牧市の活性化です。まちで活動している人たちと議論しながら、実行する実践型のゼミです。2025年度のテーマは、国際交流、異文化理解です。本学の留学生をゲストに、日常生活、食、趣味など身近な情報を聞きだし、SNSやコミュニティーFMの番組作成などを通じて発信していきます。</p> <p>(履修の注意) 社会体験や企業、商店、NPOなどとの交流、体験に意欲的な学生の受講を期待しています。教室で活性化活動する人たちと議論することもあります。多くは市中心部の店舗やコミュニティーFMなどでの作業になります。授業の日時、シラバスの内</p>							
成績評価の方法							
ゼミの積極的参加やプレゼン、企画力(45%)FM番組の完成度(25%)、プロジェクトについてのレポート(30%)など、総合的に評価します。							
授業の方法							
このゼミは、他の授業や部活、アルバイトなどとのスケジュール調整が必要です。しかし、このプロジェクトを優先するような強制はしません。社会人に求められるセルフマネジメントを学ぶ機会でもあります。自ら立案したプロジェクトを進行させ、一定の実績を出すのが目的です。地域の抱える課題、ラジオに登場するゲストについても調査、ラジオ番組の収録、編集などの作業(予習、復習)に4時間はかかります。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅣ(西川)
授業計画	
第1回	専門ゼミⅢで計画したプロジェクトの点検。
第2回	FM番組製作
第3回	FM番組制作
第4回	立案したプロジェクトについて、まちの人の意見を聞き修正
第5回	立案したプロジェクトについて、まちの人の意見を聞き修正
第6回	プロジェクトの進行
第7回	FM番組制作
第8回	FM番組制作
第9回	プロジェクトの進行
第10回	プロジェクトの進行

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅣ(西川)	
第11回	FM番組制作	
第12回	FM番組制作	
第13回	プロジェクト進行	
第14回	FM番組制作	
第15回	総まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	70	ゼミの積極的参加、プレゼン・企画力(45%) FM番組の完成度(25%)
その他	30	プロジェクトについて、総まとめとなるレポート

2025 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		専門ゼミナールⅣ(星野)					
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C317	担当教員	星野 芳輝		
到達目標							
<p>「観光」と「文化」は切っても切り離せない関係にある。さらに、文化と地域、歴史、生活はそれぞれが相互に関係しあっている。本ゼミにおいては、自身の興味関心のある「観光」または「文化」についての知見を深め、それらをテーマに論文執筆にあたっての資料収集や分析などを行えるようになることを目標とする。</p> <p>「好きな物」を学問として分析し、地域や文化、観光への学術テクアプローチをするための手法を学ぶ</p>							
取得可能な資格							
無し							
受講登録以前に準備すること							
なし							
テキスト							
なし(適宜指示します。事前に準備する必要はありません。)							
講義内容							
<p>受講生との相談をもとに決定します。</p> <p>「観光」「文化」「地域」をテーマに、事例分析や資料の輪読、討論などを行う。</p>							
成績評価の方法							
<p>積極的参加 15回×3 (45%)</p> <p>発表 5回×5 (25%)</p> <p>最終レポート課題 (30%)</p>							
授業の方法							
資料の講読を行い、それについて適宜討論を行う。資料輪読などにおいては指定された資料の該当箇所について発表を行う。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅣ(星野)
適宜資料の作成や復習を行う(4時間程度)	
授業計画	
第1回	ガイダンス・講義の進め方の相談
第2回	資料の輪読・分析
第3回	資料の輪読・分析
第4回	資料の輪読・分析
第5回	資料の輪読・分析
第6回	資料の輪読・分析
第7回	資料の輪読・分析
第8回	事例研究
第9回	事例研究
第10回	事例研究

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅣ(星野)	
第11回	事例研究	
第12回	事例研究	
第13回	事例研究	
第14回	事例研究	
第15回	まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	30	最終レポート課題(30%)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	45	積極的参加 15回×3 (45%)
その他	25	発表 5回×5(25%)

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	専門ゼミナールⅣ(杉山)						
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室		担当教員	杉山 維彦		
到達目標							
<p>観光に関連する産業と地域活性について調査し、探求していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に密着する産業の調査 ・地域機関の活用 ・地元産業の観光に接続した開発 ・サードエリアからのまちづくり <p>以上について、フィールドワークをグループで行い、ディスカッション、プレゼンテーションを行い、</p>							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
自分の興味ある観光産業や日本の都市について詳しく理解しておく							
テキスト							
クリエイティブツーリズム～「あの人」に会いに行く旅～ / 友原嘉彦編著 / 古今書院 / 2022年 / IBN978-4-7722-3200-5 / 3200円(税別)							
講義内容							
<p>特に観光関連産業全般について、グループで調査し、その結果を討論の上まとめ上げるプロジェクト型のゼミ。 授業時間以外にも、参与観察(定点観測)や聞き取り調査(インタビュー調査)のためフィールドへ出ることが多い実践型である。 学生それぞれの興味分野を深く探求していく。</p>							
成績評価の方法							
授業への参加度(40%)、授業内でのディスカッション、プレゼンテーション(40%・各20%)、レポート(20%)							
授業の方法							
<p>教室でのディスカッション、プレゼンテーションに先駆け、フィールドへ出かける。 そのため、プライベートに影響する可能性があるがセルフマネジメントとしての能力が必要となる。 授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要。 事前学習:フィールドワークの行先などについて詳細に調べる。(各2時間) 事後学習:終了したフィールドワークを自分なりにまとめ次週提出する。(各2時間)</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅣ(杉山)
<p>グループワークや個人でのプレゼンテーションを行ってもらおう。 配布物(プリントなど)は、翌々回(次の次の回)までしか配布しないので、欠席する場合は注意! 授業内で小テストを行うことがあるので、欠席にした場合はその点数が無くなる。 また、期末試験に代わるレポートは授業中にテーマを発表する。 よって、欠席した場合は、これらの情報や得点が得られない懸念があるので、欠席をしない様に。 欠席は厳しくチェックを行い、その時のプレゼンやワークの部分が大きく減点されることを理解した上で、参加すること。</p>	
授業計画	
第1回	プロローグ & ガイダンス(観光・観光産業とは何か)
第2回	第1章 クリエイティブツーリズムとサードエリア
第3回	第2章 あの人暮らしした町へ行こう(東京・フィレンツェ)
第4回	第3章 さくらもこの清水(清水)
第5回	フィールドワーク(新千歳空港)
第6回	第4章 小泉凡 ラフカディオ・ハーンの松江に生きる(松江)
第7回	第5章 アートと町～黄金町のアーティストたち～(横浜)
第8回	フィールドワーク(定山溪)
第9回	第6章 下関市におけるゲストハウスの新展開～クリエイティブツーリズムのポテンシャルを探る～(下関)
第10回	第7章 地域活動と岸和田だんじり祭りからの実証(岸和田)

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅣ(杉山)	
第11回	第8章 ジオパークによるクリエイティブツーリズムの創出(隠岐)	
第12回	第9章 航空マニアの道楽「紋別タッチ」に見る地元との交流と経済促進(紋別)	
第13回	第10章 居住地と夢の現実に都合の良い地域コミュニティとは～女性のクリエイティブクラスの視点から～	
第14回	クリエイティブツーリズムの確認と各自プレゼン	
第15回	エピローグ & まとめ(観光はどこに向かっているのか。地域(地元)の観光関連産業に対してどう向き合うか)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加度(40%) 授業内でのディスカッション、プレゼンテーション(40%・各20%) レポート(20%)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		専門ゼミナールⅣ(種石)					
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室		担当教員	種石 悠		
到達目標							
<p>歴史学・人類学・考古学、およびこれらの関連分野について、自身で研究テーマを設定し、その調査・研究方法を理解・実施できるようにする。</p> <p>卒業研究に向けて、その対象分野の文献を読み込んで研究史を把握するとともに、解明されていない課題を明らかにする。明らかになった課題について、どのような分析法が有効か探り、分析を行う。</p> <p>分析結果から得られた新たな知見について解釈し、的確に口頭または文章で表現できるようにする。他の発表者と議論ができるようにする。</p>							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
<p>種石 悠 2023年『オホーツク文化の考古学：辺境から眺める古代日本』銀河書籍</p> <p>※ 購入希望者のみ、購入のこと。</p>							
講義内容							
<p>歴史学・人類学・考古学、およびこれらの関連分野で卒業研究を行なおうとする学生が、研究テーマを設定し、調査・研究の方法を理解できるよう、担当教員の研究業績に沿いながら解説する。</p> <p>特に、学生が取り組もうとする研究分野について、その研究の目的と方法、先行研究の把握と課題の抽出、分析の目的と方法を明確にできるように解説する。専門ゼミⅢを履修した学生は、実際に分析し、その結果を解釈することを目指す。</p>							
成績評価の方法							
講義後のリアクションペーパー(3点×15回、45%)、期末レポート(55点、55%)							
授業の方法							
<p>担当教員の著作をテキストに、歴史学・人類学・考古学研究法の実際を学ぶ。学生が取り組もうとする研究分野について、その研究の目的と方法、先行研究の把握と課題の抽出、分析の目的と方法について発表し、議論する。研究史の理解は特に入念に行なう。</p> <p>専門ゼミⅢを履修した学生は、実際に分析し、その結果を解釈し、考察を発表する。</p> <p>毎回テキストの内容を1章ずつ解説してゆくので、2時間をかけてわからない語句等を予習し、講義後は関連文献などを用いて2時間をかけて復習を行なう。</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅣ(種石)
授業計画	
第1回	ガイダンス。 テキストを用いた歴史学・人類学・考古学研究法の講義。
第2回	テキストを用いた歴史学・人類学・考古学研究法の講義。
第3回	テキストを用いた歴史学・人類学・考古学研究法の講義。
第4回	テキストを用いた歴史学・人類学・考古学研究法の講義。
第5回	テキストを用いた歴史学・人類学・考古学研究法の講義。
第6回	テキストを用いた歴史学・人類学・考古学研究法の講義。
第7回	テキストを用いた歴史学・人類学・考古学研究法の講義。
第8回	テキストを用いた歴史学・人類学・考古学研究法の講義。
第9回	研究の目的と方法、先行研究の把握と課題の抽出、分析の目的と方法についての発表と議論。
第10回	研究の目的と方法、先行研究の把握と課題の抽出、分析の目的と方法についての発表と議論。

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅣ(種石)	
第11回	研究の目的と方法、先行研究の把握と課題の抽出、分析の目的と方法についての発表と議論。	
第12回	研究の目的と方法、先行研究の把握と課題の抽出、分析の目的と方法についての発表と議論。	
第13回	研究の目的と方法、先行研究の把握と課題の抽出、分析の目的と方法についての発表と議論。	
第14回	研究の目的と方法、先行研究の把握と課題の抽出、分析の目的と方法についての発表と議論。	
第15回	研究の目的と方法、先行研究の把握と課題の抽出、分析の目的と方法についての発表と議論。	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	45	講義後のリアクションペーパー 3点×15回
その他	55	期末レポート 55点

2025 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		専門ゼミナールⅣ(山中)					
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室		担当教員	山中 慎		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決能力 ・社会にどう貢献するかを考えることができる ・自分のキャリアについて具体的に活動することができる ・論文のテーマ決めと組み立てができる 							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
特になし							
講義内容							
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文に向けた取り組み ・前期で学んだ内容を論文作成へつなげる作業をする 							
成績評価の方法							
評価方法:授業内課題(論文組み立て) 評価割合:授業内レポート課題(100%)・授業内での提出物にて評価する							
授業の方法							
アクティブラーニング (問答法・ディスカッション・実習・グループディスカッション) 1回の授業について <ul style="list-style-type: none"> ・予習(4時間):授業で取り上げる内容などにより、授業のおおまかな流れをつかんでおくこと。次回対象となる項目については各授業の終了時に説明する。 ・復習(4時間):授業で取り上げた重要なポイントを中心に、見直し、論点を整理すること。 							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅣ(山中)
必要なもの パソコン・タブレット等入力可能なもの	
授業計画	
第1回	ガイダンス 準備学習:シラバスを読んで受講上の注意点について事前に調べておく
第2回	論文テーマ決め 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第3回	論文要旨作成 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第4回	学内企業説明会 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第5回	論文要旨作成 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第6回	先行研究調査 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第7回	先行研究調査 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第8回	論文組み立て 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第9回	論文組み立て 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第10回	論文組み立て 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅣ(山中)	
第11回	論文組み立て 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する	
第12回	自主研究(課題に対して独自研究し、発表する) 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する	
第13回	論文(緒言・目的・研究方法)確認仕上げ 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する	
第14回	自主研究(課題に対して独自研究し、発表する) 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する	
第15回	論文(緒言・目的・研究方法)発表 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	評価方法:授業内課題(論文組み立て) 評価割合:授業内レポート課題(100%)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	専門ゼミナールⅣ(高橋)						
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	高橋 あすか		
到達目標							
Communication Strategies (CSs)を活用し、円滑で自然な英会話ができるようになることを目標とします。会話分析を通じてコミュニケーション能力および相互作用能力を向上させ、そのための具体的アプローチを検討し実践できるようになることを目標とします。							
取得可能な資格							
TOEIC							
受講登録以前に準備すること							
テキスト、辞書、パソコンを各自で用意してください。							
テキスト							
David Kehe, 2014, Conversation Strategies, Second Edition, ProLingua Associates							
講義内容							
会話を円滑に進めるための「会話ストラテジー」を学び、情報の引き出し、同意・不同意の表現、要約、意思決定など多様な技法を実践します。ペアワークやグループ活動を通じて、統制練習から自由な表現活動へと発展させ、実践的なコミュニケーション能力を養成します。							
成績評価の方法							
レポート: 20% パフォーマンステスト: 80%(20点×4回) 欠席は4回までです。5回以上の欠席は単位認定できません。							
授業の方法							
各ユニットで英会話表現を学習し、ペアワークを通じて実践的に練習します。その後、文字起こした会話を学生同士で分析する機会を設け、表現の使い方や会話の構造を深く理解します。また、テキストの予習・復習および会話を考察・分析するレポート作成を通じて、毎週およそ4時間程度の自学自習が必要となります。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅣ(高橋)
授業計画	
第1回	Rejoinders
第2回	Follow-up Questions
第3回	Confirmation Questions
第4回	Clarifications with Question Words
第5回	Keeping or Killing the Conversation
第6回	Expressing Probability
第7回	Interrupting Someone
第8回	Echoing Instructions
第9回	Polite Requests, Responses, and Excuses
第10回	Getting a Response

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅣ(高橋)	
第11回	Soliciting Details	
第12回	Responding with Details	
第13回	Making Comparisons	
第14回	Finding the Right Word	
第15回	Exploring a Word	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート: 20% パフォーマンステスト: 80%(20点×4回)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		専門ゼミナールⅣ(加藤)					
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室		担当教員	加藤 剛寿		
到達目標							
1) 上記の副題に記載のキーワードのうち1つに関連する内容が説明できる。 2) 上記1)で取り上げた内容に関する研究仮説(問い)の方向性を説明できる。 3) 上記2)で挙げた研究仮説(問い)を明らかにするために必要な調査方法を説明できる。 4) クラスメンバーが上記1～3)の内容を発表会で発表する際、主体的に的確で深く掘り下げた質問ができる。							
取得可能な資格							
特になし。							
受講登録以前に準備すること							
1) 日本語能力試験N2以上の資格(保健医療分野の専門的な内容が含まれるため) 2) 健康、生活習慣病(糖尿病など)、食生活、行動変容、腸内細菌叢、看護、ダイバーシティ・インクルージョン(心理的安全性など)の中から、興味関心あるものを選択し、文献を読んでおくこと。 3) 15回の授業、全て大事な内容であり、1回も休むことのないよう、受講登録以前から体調管理を十分整えて臨んでください。							
テキスト							
特になし。							
講義内容							
現在、全世界共通とまではいきませんが、変化が激しく先行きが見えにくい状況、いわゆるVUCAと言われる時代、健康寿命延伸のニーズが益々高まる時代、一人ひとりが誇りを持ち、互いを尊重し合い、すべての人がその人の能力を最大限に発揮できる社会を目指している時代とある程度捉えることができるかと思います。 こういった時代背景の中、本授業の担当者である私はこれまでの人生において、健康、生活習慣病(糖尿病など)、食生活、行動変容、腸内細菌叢、看護、ダイバーシティ・インクルージョン(心理的安全性など)に関する研究、仕事に取り組んできました。 本授業では、まず上述の関連キーワードについて受講生それぞれが調べたことを発表し合い、教員からのフィードバックを受け概							
成績評価の方法							
後述の成績評価の方法の表に沿って評価する。全15回中11回以上の出席かつ、100点中60点以上で単位を取得できる。各課題は各授業を受講していないと取り組めない内容になっている点、ご注意ください。							
授業の方法							
1) 授業は教員からの一方的な指導(レクチャー)スタイルだけではなく、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング(学生が能動的に参加する授業展開)も適宜、取り入れ実施していく。 2) 1回の授業あたり予習・復習を合わせて4時間程度実施してください。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅣ(加藤)
<p>授業に関する重大な内容をTeamsでお知らせする場合があります。少なくとも、毎日、1日1回は必ず、Teamsでお知らせがないか、入念にご確認ください。Teamsのお知らせを閲覧できていなかったことにより不利益が生じた際、対応できない場合があります。予めご了承ください。</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	自身が調べたことをパワーポイントを用いたプレゼン発表(口頭):健康、生活習慣病(糖尿病など) /フィードバック
第3回	自身が調べたことをパワーポイントを用いたプレゼン発表(口頭):食生活、行動変容 /フィードバック
第4回	自身が調べたことをパワーポイントを用いたプレゼン発表(口頭):腸内細菌叢、看護 /フィードバック
第5回	自身が調べたことをパワーポイントを用いたプレゼン発表(口頭):ダイバーシティ・インクルージョン(心理的安全性など) /フィードバック
第6回	自身の興味・関心のある分野について調べる①
第7回	自身の興味・関心のある分野について調べる②
第8回	自身の興味・関心のある分野について調べる③
第9回	取り上げた内容に関する研究仮説(問い)の方向性を考える①
第10回	取り上げた内容に関する研究仮説(問い)の方向性を考える②

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅣ(加藤)	
第11回	自身の立てた研究仮説と類似した論文を調べる①	
第12回	自身の立てた研究仮説と類似した論文を調べる②	
第13回	発表会の準備(発表原稿、スライドの準備など)	
第14回	発表会 ①	
第15回	発表会 ②	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	発表会(100点)【発表時:プレゼンテーションの内容(60点)、質問に対する回答内容(20点)、聴講時:主体的な発言回数・質問の内容(20点)】
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	専門ゼミナールⅣ(黄)						
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室		担当教員	黄 美花		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・談話分析の主な理論と用語を理解し、自分の言葉で説明できる。 ・実際の談話データを収集し、文字起こし、分析を行う初歩的な手法が使える。 ・日常の言語使用に潜む力関係や社会的背景に気づき、言語を客観的に眺める視点を持つことができる。 							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
談話研究に関する論文を5篇以上調べ、読んでくること。							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・指定テキストは特になし。 ・必要に応じて、その都度ハンドアウトを配布する。 ・参考文献は、授業中に適宜紹介する。 							
講義内容							
談話研究の基礎理論、データ収集方法、文字化作業、データ分析とその記述法の内容を取り上げる。							
成績評価の方法							
授業への参加度30%(2点×15回)、中間課題(データ収集+文字起こし+分析)40%(20点×2回)、最終発表30%(スライド10%+プレゼン20%)により総合的に評価する。							
授業の方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・文字起こしトレーニングを早い段階で導入する(スマホ録音、エクセル集計作業等) ・グループワークでデータ分析の内容を共有し、議論する方法を進める。 ・文字化・記号化等の練習に、各自で週4時間程度の作業が必要となる。 							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅣ(黄)
特になし	
授業計画	
第1回	オリエンテーション(*必ずご参加ください) 談話とは何か 談話分析とは何か
第2回	談話の構造、談話の機能
第3回	談話とコミュニケーション
第4回	インタビュー談話
第5回	自由テーマ設定
第6回	データの収集方法
第7回	文字化・記号化①
第8回	文字化・記号化②
第9回	分析法とその記述法①
第10回	分析法とその記述法②

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅣ(黄)	
第11回	ペアワーク データ分析共有	
第12回	グループワーク データ分析共有	
第13回	学生発表①(自由テーマ)	
第14回	学生発表②(自由テーマ)	
第15回	最終発表、フィードバック	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	70	授業への参加度30%(2点×15回)、中間課題(データ収集+文字起こし+分析)40%(20点×2回)
その他	30	最終発表30%(スライド10%+プレゼン20%)

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	専門ゼミナールⅣ(奥村)						
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C321	担当教員	奥村 訓代		
到達目標							
切り貼りや盗用、ちやっとGPT の正しい運用の仕方							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
論文作成時における「盗用」と「著作権侵害」について調べておく							
テキスト							
特になし 必要時には、適宜指導する							
講義内容							
論文の書く							
成績評価の方法							
授業への参加度・貢献度・論理の斬新さ。 当たり前を当たり前と感ぜない感覚と気づきの有無など							
授業の方法							
論文や必要な資料を3日前までにTEAMSで送信し、基本的に反転授業形式で行う。 授業では予習してきたものとしての講義や演習を中心とするため、前もっての予習に3時間程度、また復習に1・2時間を必要とする。 。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅣ(奥村)
ノートとPC必携	
授業計画	
第1回	全般的なオリエンテーション 次週への課題
第2回	盗用の例 切り貼りの罪
第3回	引用の仕方を中心に
第4回	参考資料(URLと貳付け)、文献の書き方(英文と和文)、あいうえお順とアルファベット順などを中心に
第5回	サンプル論文1を読んでみる
第6回	サンプル論文2を読んでみる
第7回	サンプル論文3を読んでみる
第8回	サンプル論文4を読んでみる
第9回	サンプル論文5を読んでみる
第10回	与えられた課題で論文の構築する(1)

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅣ(奥村)	
第11回	与えられた課題で論文を構築する(2)	
第12回	与えられた課題で論文を構築する(3)	
第13回	論文の「はじめに」を書いてみる(1)	
第14回	「はじめに」を改定する	
第15回	「はじめに」を提出する	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	90	毎回の授業での真摯な態度30%と講義の論文への反映度30%及び視点は発想の斬新さ40%をもって評価する。論文の形式のマスターと生成AI時代のマナーを学ぶ
その他	10	総合的な授業態度

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	卒業研究秋(中田)						
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室	研究室	担当教員	中田 和則		
到達目標							
卒業論文の適切なテーマを選び、自らが問いを立て、自らの考えを論理的に表現することができる。先行研究や文献資料などを収集、分析する能力を身につけることができる。適切な研究方法を選び使用できる。論文の適切な書き方を理解し、各章を組み立て、全体の構成を整えた後、完成・提出することができる。							
取得可能な資格							
受講登録以前に準備すること							
卒業論文を作成できる知識と能力があることが望ましい。							
テキスト							
参考テキスト:新田誠吾著(2019)『これならできる!レポート・論文のまとめ方』株式会社すばる舎 その他の参考文献は授業中に紹介する。							
講義内容							
学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。 各自の研究計画・論文作成計画を立てさせ、報告書を提出させる。 学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。							
成績評価の方法							
授業への参加度(30%:0~2点評価X15回=30点満点)、授業内の課題(30%:0~2点評価X15回=30点満点)、論文(40%)などにより総合的に評価する。							
授業の方法							
毎回、学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。毎回課外学習(予・復習)として論文準備・作成をさせる。課外学習時間(予・復習)は毎週7時間程度必要。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(中田)
授業の内容・計画は学生の理解・習得の程度などにより変更することがある。	
授業計画	
第1回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第2回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第3回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第4回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第5回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第6回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第7回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第8回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(中田)
第9回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第10回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第11回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第12回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第13回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第14回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第15回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第16回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第17回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(中田)
第18回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第19回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第20回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第21回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第22回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第23回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第24回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第25回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則
第26回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
	担当教員 中田 和則

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究秋(中田)	
第27回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。	
	担当教員	中田 和則
第28回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。	
	担当教員	中田 和則
第29回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。	
	担当教員	中田 和則
第30回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。	
	担当教員	中田 和則
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	授業への参加度(30%)、5回以上の欠席は単位認定できない。授業での説明を聴く態度・姿勢、質問を行う度合いなどによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回=30点満点(評価30%)
その他	40	論文提出。40点満点。選んだテーマ・内容について深く調査し分析して論文を作成しているかどうかで評価する。論文形式に則って論文を作成しているかどうかで評価する。

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	卒業研究秋(田)						
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室		担当教員	田 桃雨		
到達目標							
本授業の目的は、学生が自ら適切な研究テーマを設定し、問いを立てて論理的に考察する能力を養成することである。先行研究の分析と適切な研究方法の選択を通じて、学術的基礎力を習得させる。さらに、論文の構成や執筆規範に則り、これまでの学修の総括として研究成果をまとめあげ、学士課程における水準に達する論文の完成を目指す。							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
特になし							
講義内容							
指導教員との面談を通じて、研究の進捗状況を報告し、必要な文献や研究方法について指導を受けながら論文を執筆する。また、口頭試問に向けた発表の構成や説明方法についても確認を行い、審査に対応できるよう準備を進める。							
成績評価の方法							
授業参加度 (30点): 各回の積極的な発言・参加態度を(0~1点) x 30回で評価。 授業内課題 (30点): 各回の課題(小レポート等)の達成度を(0~1点) x 30回で評価。 論文 (40点): 知識の統合と独自の考察に基づいて評価。							
授業の方法							
学生各自の学位論文作成を全面的に支援をする。授業では、研究テーマの設定、適切な研究方法と資料収集手法の選択、論文構成の策定について指導を行う。毎回、学生が自身の研究進捗を報告し、参加者全体での質疑応答を通じて研究内容を深化させる。また、論理的で規範的な執筆技術の習得を図る。学生は、毎週7時間程度の課外学習(文献講読、資料分析、草案執筆など)を必須とし、授業での指導と課外学習を循環させることで、着実な研究の完成を目指す。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(田)
授業の内容・計画は学生の理解・習得の程度などにより変更することがある。	
授業計画	
第1回	ガイダンス 論文の定義と学術的価値。論文と作文、レポート、要約の違い 学術論文に対する正しい認識を構築し、学習目標を明確にする。
第2回	論文の効率的な読み方と分析方法 良質な模範論文を精読する。タイトル、要旨、キーワード、序論、本文、結論、参考文献という論文の構造を分解して学ぶ。その論理的流れと立証方法を分析する。論文構造の直感的な理解を築く。
第3回	研究倫理と学術規範 学問的誠実さの重要性について説明する。剽窃とは何か、文献の正しい引用方法を学ぶ。一般的な学術上の不正行為とその結果を紹介する。執筆の基本線となる厳格な学術道徳観を確立する。
第4回	研究テーマの確定と研究問題の発見 授業学習、社会現象、個人的興味、文献上の空白などから、可能性のある研究テーマを見つける方法。広範な「方向性」を、具体的で実行可能な「研究問題」に焦点を絞る方法を学ぶ。
第5回	文献検索と管理ツール入門 学術データベースを紹介する。キーワードを使った効率的な検索方法を学ぶ。文献管理ツールを導入し、文献の分類と閲読ノートの管理方法を学ぶ。学術リソースを入手する基本的スキルを習得し、研究効率を高める。
第6回	文献レビューの書き方 文献レビューの目的は羅列ではなく、評議すること。既存研究を評析してその貢献と不足点を論じる方法を学び、自身の研究の切入点と価値を見出す。
第7回	研究手法の種類と選択(I) 事例研究、インタビュー、観察、テキスト分析など、一般的な質的研究手法を紹介する。その適用場面と長所・短所を解説する。
第8回	研究手法の種類と選択(II) アンケート調査、実験法、計量モデルなど、一般的な量的研究手法を紹介する。その基本論理と設計上の要点を解説する。
第9回	研究計画と研究計画書の設計 研究計画書の核心要素: 研究背景と問題、文献レビュー、研究意義、研究方法、研究計画、期待される成果を解説する。学生自身の論文の「設計図」を構築する指導を行う。
第10回	研究計画書模擬発表と相互評価 学生が自身の研究計画書を発表し、教師と学生が質問とコメントを行う。研究問題の価値、方法の実現可能性、論理の厳密性に焦点を当てる。

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(田)
第11回	論文アウトラインの書き方 研究計画書から詳細なアウトラインへ。章節の設計、論点の配分、論拠の計画方法を解説し、論文の構造が層次的で明確、論理がスムーズであることを確保する。
第12回	データ収集と整理の技術 選択した方法に基づき、データ/資料収集の具体的な流れ、技術、および遭遇する可能性のある落とし穴を解説する。分析の準備のために、データを清洗し整理する方法を学ぶ。
第13回	序論の執筆要点 序論の構造を分解する: 宏観的背景→具体的問題→文献の空白→本研究の目的、方法、意義→論文構造の紹介。読者を引き付け、研究価値を明確に説明できる序論を書く。
第14回	理論的枠組みの構築 自身の分析を支える適切な理論を選択し活用する方法を解説し、研究を無根拠なものにしない。
第15回	本文執筆(I) — 論証の技術 学術論証の基本単位を学ぶ: 論点の提示→論拠(データ、事例、文献)の提供→分析→結論の導出。記述のみで論証がない状態を避ける。
第16回	本文執筆(II) — 段落と接続 接続語や接続文を使用し、段落間、章節間の流れを滑らかにする方法を学ぶ。
第17回	結果/発見の提示 データと核心的な発見を効果的に提示するため、表、図等多種の形式を使用する方法を学ぶ。
第18回	考察の深掘り 「結果」をどう解釈するかを解説する。
第19回	結論と要旨の執筆 結論部分で全文を要約し、貢献を重申し、不足点と将来の方向性を指摘する方法。要旨で極めて簡潔な言語で全文の精華を概括する方法を学ぶ。
第20回	論文執筆における一般的な論理的落とし穴と回避策 循環論法、因果関係の逆転、一般化の誤りなど、一般的な論理エラーを分析し、修正策略を提供する。
第21回	中間チェックと初稿講評 学生が論文初稿(或いは核心章节)を提出し、教師が集中講評を行い、共通及び個別の問題点を指摘する。
第22回	学術的語言表現の規範 学術写作の文体、時制、人称の書き方を学ぶ。口語的、情緒的表現を避ける。正確、明確、簡潔、客観的であることを追求する。

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究秋(田)	
第23回	論文修正の効果的な進め方 宏観的構造と論理を調整、段落と文を修正、言語と形式をチェック。	
第24回	ピアレビュー(相互評価)と自己修正ワークショップ 学生が論文を交換し、チェックリストに従って相互評価を行う。読者の視点から相手の論文の問題点を発見すると同時に、自身の写作も反省する。	
第25回	参考文献の規範と排版 指定の引用スタイルを深く学ぶ。	
第26回	図、表、付録の形式要求 図表のタイトル、番号、出典標注の規範を解説する。	
第27回	卒業論文答弁の流程と準備 答弁の全過程を詳しく説明する。	
第28回	模擬答弁演習(I) 模擬答弁を行い、完全な流程を体験する。教師と学生が評価員役を務めて質問する。	
第29回	模擬答弁演習(II)と一般的質問への対応策略 第一回演習へのフィードバックに基づき、第二回演習を行う。高頻質問への応答思路と言葉遣いを集中的に解説する。	
第30回	論文形式の最終確認と提出 学校の公式形式要求に照らし合わせて、表紙、宣言、ヘッダー/フッター、行間、フォント、ページ番号等、全ての詳細を逐一チェックする。	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	授業参加度(30点): 各回の積極的な発言・参加態度を(0~1点)x 30回で評価。 授業内課題(30点): 各回の課題(小レポート等)の達成度を(0~1点)x 30回で評価。
その他	40	論文(40点): 知識の統合と独自の考察に基づいて評価。

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	卒業研究秋(樋口)						
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室	C315・C316	担当教員	樋口 葵		
到達目標							
研究課題を自ら考えて研究計画を立案できるようになる。 先行研究を理解し、論理的に自分の言葉で説明できる。 得られた研究成果を自分の言葉でまとめて論じることができる。							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
積極的に論文を読んだり、情報収集を行ったりすること。							
テキスト							
特になし							
講義内容							
研究とは未知の領域に挑戦することであり、本授業では、学生自らが設定した研究課題に取り組む。研究の背景や目的の設定、研究計画の立案、研究手法、結果の考察まで学生自身が主体的に進める。年度途中の報告会などで適宜発表し、質疑応答を重ねながら論文などで研究結果をまとめる。							
成績評価の方法							
授業内での積極的な参加(20%)・授業内での発表(10%)・報告会での発表(20%)・論文などのまとめ(50%)							
授業の方法							
学生主体のアクティブ・ラーニング型の授業であり、学生自らが研究課題を設定し、各自で自分の研究にまつわる先行研究を読んでもらう。適宜、ほかの学生の前で、研究内容について発表してもらう機会を作り、ブラッシュアップを図っていく。毎週7時間程度は、自身の研究に真摯に向き合う時間として、自身の研究に関する先行研究を調べたり、内容をブラッシュアップしたりなどと予習や復習の時間が必要となる。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(樋口)
授業計画	
第1回	論文を書く上での注意点と書き方
第2回	先行研究の読み方
第3回	研究課題の設定
第4回	研究計画の立案
第5回	研究内容の発表と相談
第6回	テーマ発表会
第7回	先行研究の深掘り①
第8回	先行研究の深掘り②
第9回	研究内容の発表①
第10回	研究内容の発表②

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(樋口)
第11回	研究調査地での調査①
第12回	研究調査地での調査②
第13回	研究調査地での調査③
第14回	研究調査地での調査④
第15回	研究調査地での調査⑤
第16回	調査結果のまとめ①
第17回	調査結果のまとめ②
第18回	調査結果のまとめ③
第19回	中間発表会
第20回	中間発表会を終えての研究内容のまとめ①
第21回	中間発表会を終えての研究内容のまとめ②
第22回	中間発表会を終えての研究内容のまとめ③

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究秋(樋口)	
第23回	中間発表会	
第24回	中間発表会を終えての研究内容の再度まとめ	
第25回	論文執筆①	
第26回	論文執筆②	
第27回	論文執筆③	
第28回	論文執筆④	
第29回	論文執筆⑤	
第30回	論文執筆⑥	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での積極的な参加(20%)・授業内での発表(10%)・報告会での発表(20%)・論文などのまとめ(50%)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	卒業研究秋(福本)						
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室	研究室	担当教員	福本 達也		
到達目標							
卒業論文の適切なテーマを選び、自らが問いを立て、自らの考えを論理的に表現することができる。先行研究や文献資料などを収集、分析する能力を身につけることができる。適切な研究方法を選び使用できる。論文の適切な書き方を理解し、各章を組み立て、全体の構成を整えた後、完成・提出することができる。							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
卒業論文を作成できる知識と能力があることが望ましい。							
テキスト							
参考テキスト:新田誠吾著(2019)『これならできる!レポート・論文のまとめ方』株式会社すばる舎 その他の参考文献は授業中に紹介する。							
講義内容							
学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。 各自の研究計画・論文作成計画を立てさせ、報告書を提出させる。 学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。							
成績評価の方法							
授業への貢献度(30%:0~2点評価X15回=30点満点)、授業内の課題(30%:0~2点評価X15回=30点満点)、論文(40%)などにより総合的に評価する。							
授業の方法							
毎回、学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。毎回課外学習(予・復習)として論文準備・作成をさせる。課外学習時間(予・復習)は毎週7時間程度必要。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(福本)
授業の内容・計画は学生の理解・習得の程度や論文作成の進捗状況などにより変更することがある。	
授業計画	
第1回	授業のオリエンテーション。今学期の授業の計画や予定についてのガイダンス。
第2回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
第3回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
第4回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
第5回	テーマ発表会の準備
第6回	テーマ発表会の準備
第7回	テーマ発表会
第8回	研究計画書作成・提出の指導
第9回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
第10回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(福本)
第11回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
第12回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
第13回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
第14回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
第15回	学生各自の論文テーマの選定、研究分析方法、資料収集、論文執筆の準備などについて指導をする。学生各自の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。
第16回	今学期の授業の計画や予定についてのガイダンス。
第17回	中間発表会1回目の準備
第18回	中間発表会1回目の準備
第19回	中間発表会1回目
第20回	論題の提出の指導
第21回	中間発表会2回目の準備
第22回	中間発表会2回目の準備

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究秋(福本)	
第23回	中間発表会2回目	
第24回	学生各自の論文の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。	
第25回	学生各自の論文の進捗状況の発表をさせ、状況に応じた助言・指導を行う。	
第26回	学生各自の論文提出の準備の指導を行う。各自の状況に応じた助言・指導を行う。	
第27回	学生各自の論文提出の準備の指導を行う。各自の状況に応じた助言・指導を行う。	
第28回	学生各自の論文提出の準備の指導を行う。各自の状況に応じた助言・指導を行う。	
第29回	学生の論文提出の指導	
第30回	提出論文の審査・修正指導	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	授業への貢献度(30%)、5回以上の欠席は単位認定できない。また、授業での説明を聴く態度・姿勢、質問を行う度合いなどによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):論文の準備・作成を確実にしているか、正確にできているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%)
その他	40	論文提出。40点満点。選んだテーマ・内容について深く調査し分析して論文を作成しているかどうかで評価する。論文形式に則って論文を作成しているかどうかで評価する。

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	卒業研究秋(末富)						
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室	C323	担当教員	末富 弘		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・実現可能なビジネスプランを策定する。 ・各種ビジネスプランコンテストに参加し、評価を受ける。 ・起業までの課題を認識し、解決に努める。 							
取得可能な資格							
特になし。							
受講登録以前に準備すること							
<p>日本政策金融公庫発行の以下の「創業の手引」を読み込み、創業までのイメージを上げる。 https://www.jfc.go.jp/n/finance/sougyou/pdf/sougyou_tebiki_book_202406.pdf</p>							
テキスト							
<p>ドリームゲートの「事業計画書」(パワーポイント)を使用する。 また、都度、参考資料等は提供する。</p>							
講義内容							
<p>ドリームゲートの「事業計画書」にそって学修して作成していく。 都度、内容について確認し、指導するが、外部専門家の指導がある場合もある。 できあがった事業計画書は、各種ビジネスプランコンテストへの参加が可能なレベルまでブラッシュアップする。</p>							
成績評価の方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・合計100点で、60点以上の場合に単位を付与するが、ビジネスプランの提出が無い場合は単位を認めない。 ・ゼミの各回の理解度・学習態度:最高60点(30回×2点～各回の評価) ・ビジネスプランの完成度:最高40点(1回×40点～作成したビジネスプランの評価) ・5回以上の欠席は単位を付与しない。 							
授業の方法							
<p>ドリームゲートの「事業計画書」を作りこんでいく。 都度教員や外部専門家の指導を入れて、ブラッシュアップする。 事前配布された資料で2時間の予習(ゼミ前には、ゼミを効果的に進めるため当日の内容についてあらかじめ理解しておく)を行い、講義終了後に2時間の復習(ゼミ後には学修・作成した部分について見直し、必要であれば修正する)を行って補完する。</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(末富)
実務家教員による科目 1977～1998 北海道拓殖銀行 (1986～1988 北海道出向) 1998～2011 北洋銀行 (2000～2007 北海道TLO出向) 2011～ 苫小牧信用金庫	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	起業の心構えについて復習する。
第3回	起業する業種について決める。
第4回	起業する背景(どうしてこの業種にしたか)と事業の使命・理念・目的を説明する。
第5回	サービスや製品の内容を決める。(1)
第6回	サービスや製品の内容を決める。(2)
第7回	事業の対象となる市場の規模や特徴をまとめ、説明する。
第8回	事業の対象となる市場の規模や特徴をまとめ、説明する。
第9回	事業の優位性(商品サービス、人材、立地、チャネル等)を調査する。
第10回	事業の優位性(商品サービス、人材、立地、チャネル等)をまとめ、説明する。

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(末富)
第11回	外部専門家の指摘を受け、修正する。(1)
第12回	外部専門家の指摘を受け、修正する。(2)
第13回	ビジネスモデルを検証する。(実現可能性、経営プランの内容)
第14回	マーケティング計画を作成する。
第15回	マーケティング計画を検証し、必要があれば修正して説明する。
第16回	短期的・中期的・長期的な事業目標を作成し、説明する。
第17回	事業の収支計画(売上・費用・利益等)を作成する。
第18回	事業の収支計画を確定し、説明する。
第19回	想定されるリスクを検証し、解決策を説明する。
第20回	必要な設備や運転資金を算定し、資金計画を策定する。
第21回	資金計画を確定し、説明する。
第22回	開業までのスケジュールを策定する。

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究秋(末富)	
第23回	サマリー(概要書)を1ページにまとめて作成する。	
第24回	外国人起業に関して学修する。	
第25回	外国人起業の課題や解消法について説明する。	
第26回	出来上がったビジネスプランについてゼミで発表し、意見を聴いたうえで必要があれば修正する。(1)	
第27回	出来上がったビジネスプランについてゼミで発表し、意見を聴いたうえで必要があれば修正する。(2)	
第28回	出来上がったビジネスプランについて外部専門家に対して発表し、意見を聴いたうえで必要があれば修正する。(1)	
第29回	出来上がったビジネスプランについて外部専門家に対して発表し、意見を聴いたうえで必要があれば修正する。(2)	
第30回	出来上がったビジネスプランについて外部専門家に対して発表し、意見を聴いたうえで必要があれば修正する。(3)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	<ul style="list-style-type: none"> ・合計100点で、60点以上の場合に単位を付与するが、ビジネスプランの提出が無い場合は単位を認めない。 ・ゼミの各回の理解度・学習態度:最高60点(30回×2点～各回の評価) ・ビジネスプランの完成度:最高40点(1回×40点～作成したビジネスプランの評価) ・5回以上の欠席は単位を付与しない。
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	卒業研究秋(奥村)						
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室		担当教員	奥村 訓代		
到達目標							
論文が正しく書けること 就職や進学に役立つこと							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
進学するなら、どの大学のどの研究科、どの先生について何をしたいかを考えてくる。 就職するなら、どの企業のどの分野で、どんな仕事をしたいかを考えてくる。							
テキスト							
特になし							
講義内容							
論文を書く							
成績評価の方法							
論文の出来具合90%、研究に対する態度10%							
授業の方法							
演習と講義 毎回PPTを準備する 予習・復習に毎週計7時間が必要							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(奥村)
特になし	
授業計画	
第1回	自分の進路と論文関係を語る(1人5分から10分)
第2回	各自論文の構成を発表する(PPT)
第3回	各自論文の再構築(PPT)
第4回	「はじめに」を書く
第5回	「はじめに」の再考
第6回	先行研究の発表(1)
第7回	先行研究の発表(2)
第8回	先行研究の発表(3)
第9回	先行研究の発表(4)
第10回	先行研究の纏めと発表(PPT)

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(奥村)
第11回	先行研究の纏めと発表(PPT)
第12回	参考文献の発掘と発表(1)
第13回	同上(2)
第14回	同上(3)
第15回	参考文献の確認と内容吟味
第16回	先行研究と参考文献から、自分の論文における考察をする(1)
第17回	同上(2)
第18回	同上(3)
第19回	必要なデータをまとめる(1) アンケートの有無
第20回	同上(2)
第21回	同上(3)
第22回	全体的まとめと結論へ(1)

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究秋(奥村)	
第23回	同上(2)	
第24回	同上(3)	
第25回	相互発表による指摘会(1)	
第26回	同上(2)	
第27回	同上(3)	
第28回	同上(4)	
第29回	発表1	
第30回	発表2	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	90	論文の出来高
その他	10	研究に対する態度

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	卒業研究秋(黄)						
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室		担当教員	黄 美花		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら問題意識を持ち、テーマ設定ができる。 ・適切な文献を収集し、まとめることができる。 ・学術的な文章として卒業論文を執筆、完成できる。 							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
就職、進学等進路を念頭において、一年間の全体計画を考えてくる。							
テキスト							
指定テキストは特になし。 参考文献は、授業中適宜紹介する。							
講義内容							
論文を仕上げていく。							
成績評価の方法							
授業への参加度15%(0.5点×30回)、中間提出物15%(5点×3回)、授業内での発表20%(5点×4回)、論文の出来具合50%により総合的に評価する。							
授業の方法							
講義と演習 先行文献を読み、データを収集する等作業に毎週7時間程度必要となる。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(黄)
特になし	
授業計画	
第1回	オリエンテーション(*必ずご参加ください) 卒論とは何か
第2回	テーマの検討、生成AIの問題
第3回	良い問いを立てるための演習 テーマの精緻化
第4回	文献の探し方
第5回	先行文献の書き方
第6回	先行文献のまとめ①
第7回	先行文献のまとめ②
第8回	研究方法論の選択
第9回	データ収集の設計
第10回	データ収集・分析の基礎

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(黄)
第11回	文字化・記号化
第12回	目次案の作成
第13回	序論の書き方(背景、目的、問い)
第14回	序論のまとめ
第15回	序論のフィードバック
第16回	執筆のルールと表現技法 引用、注記、参考文献の形式
第17回	論文の執筆とフィードバック①
第18回	論文の執筆とフィードバック②
第19回	論文の執筆とフィードバック③
第20回	論文の執筆とフィードバック④
第21回	ペアワーク(学生同士でコメント)①
第22回	ペアワーク(学生同士でコメント)②

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究秋(黄)	
第23回	教員からのフィードバック①	
第24回	教員からのフィードバック②	
第25回	推敲と校正①(全体)	
第26回	推敲と校正②(日本語表現等)	
第27回	論文完成のための最終調整①	
第28回	論文完成のための最終調整②	
第29回	提出準備(形式、提出方法等確認)	
第30回	最終確認、提出完了	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	授業への参加度15%(0.5点×30回)、中間提出物15%(5点×3回)、授業内での発表20%(5点×4回)
その他	50	論文の出来具合

2025 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		卒業研究秋(加藤)					
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室		担当教員	加藤 剛寿		
到達目標							
<p>上記の副題のテーマに関する研究において、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 先行文献から、背景を記載するとともに、口頭で発表することができる。 2) 背景に沿った、目的、方法を記載するとともに、口頭で発表することができる。 3) 論理性、新規性のある卒業論文を作成するとともに、口頭で発表することができる。 4) 研究の基本的知識・技術・態度を身につけることができる。 							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本語能力試験N2以上の資格(保健医療分野の専門的な内容が含まれるため) 2) 健康、生活習慣病(糖尿病など)、食生活、行動変容、腸内細菌叢、看護、ダイバーシティ・インクルージョン(心理的安全性など)の中から、興味関心あるものを選択し、文献を読んでおくこと。 3) 本科目の受講予定者は、本科目の前段階に位置する「専門ゼミナールⅢ(加藤)」、「専門ゼミナールⅣ(加藤)」を事前に受講しておくことが望ましい。 4) 15回の授業、全て大事な内容であり、1回も休むことのないよう、受講登録以前から体調管理を十分整えて臨んでください。 							
テキスト							
特に指定はないが、自身の研究テーマに関連する図書や、研究の一連の流れが記載されている図書等を熟読してください。							
講義内容							
<ol style="list-style-type: none"> 1) 最終的に卒業論文を作成、発表、提出できるよう授業を展開していく。 2) 研究テーマについては、健康、生活習慣病(糖尿病など)、食生活、行動変容、腸内細菌叢、看護、ダイバーシティ・インクルージョン(心理的安全性など)の中から、興味関心あるテーマとする。 							
成績評価の方法							
後述の成績評価の方法の表に沿って評価する。全30回中21回以上の出席かつ、100点中60点以上で単位を取得できる。各課題は各授業を受講していないと取り組めない内容になっている点、ご注意ください。							
授業の方法							
<ol style="list-style-type: none"> 1) 毎回、ほとんど全ての授業において、予習してきた内容について、口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションを実施する。 2) 1回の授業あたり予習・復習を合わせて7時間程度実施してください。 							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(加藤)
<p>1) 授業に関する重大な内容をTeamsでお知らせする場合があります。少なくとも、毎日、1日1回は必ず、Teamsでお知らせがないか、入念にご確認ください。Teamsのお知らせを閲覧できていなかったことにより不利益が生じた際、対応できない場合があります。予めご了承ください。</p> <p>2) 自身で決定した研究テーマの内容が、これまで、学修したことがない内容である場合、予習・復習時間について、毎週計7時間でも足りない可能性が高い。単位取得、卒業のために、授業時間外での十分な学修が必要です。この点を予め了承の上、受講してください。</p>	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	初期段階の研究テーマの発表(パワーポイント使用)、ディスカッション
第3回	【先行研究】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー1ー
第4回	【先行研究】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー2ー
第5回	【先行研究】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー3ー
第6回	【背景】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー1ー
第7回	【背景】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー2ー
第8回	【背景】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー3ー
第9回	【目的】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー1ー
第10回	【目的】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー2ー

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(加藤)
第11回	【目的】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー3ー
第12回	【方法】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー1ー
第13回	【方法】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー2ー
第14回	【調査】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー1ー
第15回	【調査】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー2ー
第16回	【調査】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー3ー
第17回	【分析】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー1ー
第18回	【分析】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー2ー
第19回	【考察】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー1ー
第20回	【考察】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー2ー
第21回	【結果】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー1ー
第22回	【結果】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー2ー

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究秋(加藤)	
第23回	【結論】口頭での発表(パワーポイント使用)、ディスカッションー1ー	
第24回	論文作成・発表準備ー1ー	
第25回	論文作成・発表準備ー2ー	
第26回	論文作成・発表準備ー3ー	
第27回	発表・ディスカッションー1ー	
第28回	発表・ディスカッションー2ー	
第29回	発表・ディスカッションー3ー	
第30回	最終まとめ・提出	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業論文の内容(60%) 授業中のディスカッション態度(20%) 口頭での発表(質疑応答を含む)(20%)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	卒業研究秋(高橋)						
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	高橋 あすか		
到達目標							
卒業論文の適切なテーマを設定し、自ら問いを立てて論理的に考察・表現できる。 先行研究や文献を収集・分析し、適切な研究方法を選択して研究計画を立案できる。 研究成果を自分の言葉でまとめ、論文として章立てや全体構成を整えることができる。							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
参考テキスト:新田誠吾著(2019)『これならできる!レポート・論文のまとめ方』株式会社すばる舎 その他の参考文献は授業中に紹介する。							
講義内容							
本講義では、学生が自ら研究課題を設定し、テーマ選定・研究計画・資料収集・分析方法を学びながら主体的に研究を進める。進捗状況の発表や報告会を通じて質疑応答を行い、教員の助言を受けつつ成果を論文としてまとめる。							
成績評価の方法							
レポート: 50% (10点×5回) 論文: 50%							
授業の方法							
学生主体が主体となり、各自が研究課題を設定し、先行研究の調査、研究方法の検討、資料収集を通じて論文執筆を進める。授業内での発表や相互のフィードバックを通じて研究を深化させ、課外学習として毎週約7時間の予習・復習に取り組むことが必要。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(高橋)
授業計画	
第1回	論文を書く上での注意点と書き方
第2回	テーマ設定のための文献調査①
第3回	テーマ設定のための文献調査②
第4回	テーマ設定のための文献調査③
第5回	テーマ設定のための学術書を読む①
第6回	テーマ設定のための学術書を読む②
第7回	テーマ設定のための学術書を読む③
第8回	仮説の設定、基礎的な調査や研究方法の検討①
第9回	仮説の設定、基礎的な調査や研究方法の検討②
第10回	仮説の設定、基礎的な調査や研究方法の検討③

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(高橋)
第11回	研究計画書の検討
第12回	研究計画書の作成
第13回	分析や調査①
第14回	分析や調査②
第15回	分析や調査③
第16回	先行研究の調査①
第17回	先行研究の調査②
第18回	先行研究の調査③
第19回	研究方法の確定①
第20回	研究方法の確定②
第21回	研究方法の確定③
第22回	アウトラインの作成①

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究秋(高橋)	
第23回	アウトラインの作成②	
第24回	仮説の見直し①	
第25回	仮説の見直し②	
第26回	論文執筆①	
第27回	論文執筆②	
第28回	論文執筆③	
第29回	論文執筆④	
第30回	論文執筆⑤	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート: 50% (10点×5回) 論文: 50%
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	卒業研究秋(山中)						
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室		担当教員	山中 慎		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> 論文を順序だてた(緒言・目的。研究方法・考察)組み立てができる パワーポイントを使った発表ができる 							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
特になし							
講義内容							
<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文完成に向けた仮設・検証を繰り返す。 							
成績評価の方法							
評価方法:論文の完成 評価割合:論文の完成(100%)・授業内での提出物にて評価する							
授業の方法							
アクティブラーニング (問答法・ディスカッション・実習・グループディスカッション) 1回の授業について <ul style="list-style-type: none"> 予習(3.5時間):授業で取り上げる内容などにより、授業のおおまかな流れをつかんでおくこと。 次回対象となる項目については各授業の授業時に説明する。 							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(山中)
必要なもの パソコン・タブレット等入力可能なもの	
授業計画	
第1回	ガイダンス 準備学習: シラバスを読んで受講上の注意点について事前に調べておく
第2回	論文作成(3年時振り返り) 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第3回	論文作成(組み立て) 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第4回	論文作成(組み立て) 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第5回	論文作成(組み立て) 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第6回	論文作成(アンケート実施・まとめ) 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第7回	論文作成(アンケート実施・まとめ) 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第8回	論文作成(アンケート実施・まとめ) 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第9回	論文作成(アンケート実施・まとめ) 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第10回	論文作成(分析) 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(山中)
第11回	論文作成(分析) 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第12回	論文作成(分析) 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第13回	論文作成(分析) 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第14回	論文作成(分析) 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第15回	論文作成(中間発表:パワーポイントによる発表) 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第16回	論文作成(中間発表:パワーポイントによる発表) 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第17回	論文作成(修正期間) 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第18回	論文作成(修正期間) 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第19回	論文作成(修正期間) 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第20回	論文作成(修正期間) 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第21回	論文作成(本発表:パワーポイントによる発表) 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する
第22回	論文作成(本発表:パワーポイントによる発表) 準備学習:前回の授業最後に伝えた内容を予習する

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究秋(山中)	
第23回	論文作成(再修正期間) 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する	
第24回	論文作成(再修正期間) 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する	
第25回	論文作成(再修正期間) 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する	
第26回	論文作成(再修正期間) 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する	
第27回	論文作成(本発表: パワーポイントによる発表) 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する	
第28回	論文作成(本発表: パワーポイントによる発表) 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する	
第29回	論文作成(修正期間) 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する	
第30回	論文作成(本発表: 提出) 準備学習: 前回の授業最後に伝えた内容を予習する	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	評価方法: 論文の完成 評価割合: 論文の完成(100%)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	卒業研究秋(種石)						
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室		担当教員	種石 悠		
到達目標							
卒業論文について、研究テーマを決定し、研究方法、論旨の展開の仕方について、本学の求める水準に達することができるようにする。 これまでの学修を総括する内容を、研究に盛り込むことができるようにする。 論文としての体裁を整えることができるようにする。							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
卒業論文の研究テーマを考えておくこと。							
テキスト							
特になし							
講義内容							
卒業論文の研究テーマについて、問いの立て方、先行研究のまとめ方、調査の仕方、データの集め方、分析の仕方、論旨の組み立て方、考察と結論の書き方について指導する。							
成績評価の方法							
講義内の課題(10点×4回、40%)、卒業論文(60点、60%)							
授業の方法							
初回は卒業論文の研究テーマについて各自発表し、議論しながらテーマを絞り込む。2回目以降は毎回、卒業論文の執筆に向けた課題を出すので、まとめた課題を講義で発表し、整えてゆく。 毎回の講義の前に出した課題について、自分で調べながら4時間をかけて文章にまとめる。講義後は、指導した内容に沿って3時間をかけて、まとめた文章を修正する。 また、テーマ、研究史、分析、考察について、各10点の大きな課題を4回出す。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(種石)
特になし	
授業計画	
第1回	卒業論文の研究テーマ発表と議論
第2回	卒業論文の研究テーマ発表と議論
第3回	卒業論文の問題設定
第4回	卒業論文の問題設定
第5回	関連する先行研究のまとめ
第6回	関連する先行研究のまとめ
第7回	研究史の執筆と発表
第8回	研究史の執筆と発表
第9回	調査・分析の目的について
第10回	調査・分析の目的について

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(種石)
第11回	調査・分析の方法について
第12回	調査・分析の方法について
第13回	データをどのようにして集めるか
第14回	データをどのようにして集めるか
第15回	集めたデータをどのように分析するか
第16回	集めたデータをどのように分析するか
第17回	分析結果をどのようにまとめるか
第18回	分析結果をどのようにまとめるか
第19回	分析結果を解釈・考察する
第20回	分析結果を解釈・考察する
第21回	分析結果の解釈をまとめる
第22回	分析結果の解釈をまとめる

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究秋(種石)	
第23回	分析結果の考察	
第24回	分析結果の考察	
第25回	考察結果をまとめる	
第26回	考察結果をまとめる	
第27回	結論をまとめる	
第28回	結論をまとめる	
第29回	論文の体裁を整える	
第30回	論文の体裁を整える	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	40	講義内の課題(10点×4回)
その他	60	卒業論文(60点)

2025 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		卒業研究秋(杉山)					
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室		担当教員	杉山 維彦		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文作成のために必要な文献や資料を収集できるようになること 前半では、仮テーマの設定と研究論文中の「研究動機や研究背景」などを作成できること 後半は研究テーマを「観光・環境・ビジネス・観光事業」の4つに合致するものとし、日本における観光ビジネスの現状と課題、観光事業の経営問題等を考察できるようになること 							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
これならできる!レポート・論文のまとめ方 / 新田誠吾 / 2019年 / すばる舎 / 978-4-7991-0837-6 / 1,650円(税込)							
講義内容							
<p>本講義では、学生が自ら研究課題を設定し、テーマ選定・研究計画・資料収集・分析方法を学びながら主体的に研究を進める進捗状況の発表や報告会を通じて質疑応答を行い、教員の助言を受けつつ成果を論文として完成させる</p> <p>教室でのディスカッション、プレゼンテーションに加え、ゼミ生単独での指導もある</p> <p>そのため、プライベートに影響する可能性があるがセルフマネジメントとしての能力が必要となる</p> <p>授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要</p> <p>事前学習:フィールドワークの行先などについて詳細に調べる。(各2時間)</p>							
成績評価の方法							
<p>レポート&プレゼン: 50% (10点×5回)</p> <p>卒業論文: 50%</p>							
授業の方法							
<p>学生主体が主体となり、各自が研究課題を設定し、先行研究の調査、研究方法の検討、資料収集を通じて論文執筆を進める</p> <p>授業内での発表や相互のフィードバックを通じて研究を深化させ、課外学習として毎週約7時間の予習・復習に取り組むことを必要とする</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(杉山)
<p>個人でのプレゼンテーションを行ってもらう。 配布物(プリントなど)は、翌々回(次の次の回)までしか配布しないので、欠席する場合は注意! ゼミメンバーでディスカッションを行うことがあるので、欠席にした場合はその点数が無くなる。 よって、欠席した場合は、これらの情報や得点が得られないため欠席をしない様に。 欠席は厳しくチェックを行い、その時のプレゼンやワークの部分が大きく減点されることを理解した上で、参加すること。 また、期末試験に代わるレポートは卒業研究を意味する。</p>	
授業計画	
第1回	プロローグ & ガイダンス
第2回	研究計画書を作成土台を作る
第3回	研究計画書を完成させる
第4回	研究計画発表会(各自プレゼン)
第5回	先行研究の発掘、過去の文献を探す
第6回	参考文献の検索・調査方法を学習し、図書館やインターネットで情報を収集する
第7回	仮説の設定と検証、論文構成と論理展開について、過去の文献例で学習する
第8回	教員とのディスカッションやゼミメンバーの意見より研究対象の大枠を形成する
第9回	収集した参考文献や先行研究などを精読し、その中から関心のある分野を選択し、卒論の方向性を決定する
第10回	研究分野の絞り込みから問題意識を涵養し、章立て(目次)を考える

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(杉山)
第11回	研究分野の絞り込みから問題意識を涵養し、レポート作成を開始する
第12回	本論の見直しを行い、可能な調査・観察・統計であるか再検討する
第13回	今後の研究計画のフローを再確認する
第14回	章立ての見直し(序論の手直し・本論の立て直し)
第15回	進捗状況について簡潔にまとめ、第1回中間報告する(各自プレゼン)
第16回	教員およびゼミメンバーでディスカッションを行い、他者の研究も共有し相互に意見し合う
第17回	引き続き教員およびゼミメンバーでディスカッションを行い、各自今後の研究方針を明確化する
第18回	簡易なレポートを完成し、提出する
第19回	提出されたレポートを共有し、ゼミメンバーでディスカッションをし自分の研究に結び付けてみる
第20回	研究結果を得るうえでの問題点に関して教員と意見交換を行う
第21回	問題点について再検討を行い、必要に応じ調査・観察・統計作りを再度検討する
第22回	参考文献・先行研究について再考し、再度レポートを手直しする

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究秋(杉山)	
第23回	第2回中間に向けた発表資料を作成する	
第24回	進捗状況やレポートの完成具合をまとめ、第2回中間報告する(各自プレゼン)	
第25回	卒業論文の土台となるレポートを手直しし、論文の体裁に直す	
第26回	論文に直したレポートを確認し、図表や参考文献の確認を行う	
第27回	教員およびゼミメンバーでディスカッションを行い、他者の研究も共有し相互に確認	
第28回	卒論発表会(各自プレゼン)	
第29回	卒論発表会の反省会	
第30回	エピローグ & まとめ(卒業論文提出)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート&プレゼン: 50% (10点×5回) 卒業論文: 50%
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	卒業研究秋(星野)						
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室	C319	担当教員	星野 芳輝		
到達目標							
卒業論文の完成							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
なし							
テキスト							
なし							
講義内容							
担当教員と相談の上、随時決定する							
成績評価の方法							
卒業論文 55点(55%) 積極的参加 45点(45%)							
授業の方法							
担当教員と相談のうえ、随時決定する							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(星野)
指示した内容や課題を忘れずに行う(事前学習 週7時間程度の自主的な研究活動)	
授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	担当教員と相談の上決定
第3回	担当教員と相談の上決定
第4回	担当教員と相談の上決定
第5回	担当教員と相談の上決定
第6回	担当教員と相談の上決定
第7回	担当教員と相談の上決定
第8回	担当教員と相談の上決定
第9回	担当教員と相談の上決定
第10回	担当教員と相談の上決定

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(星野)
第11回	担当教員と相談の上決定
第12回	担当教員と相談の上決定
第13回	担当教員と相談の上決定
第14回	担当教員と相談の上決定
第15回	担当教員と相談の上決定
第16回	担当教員と相談の上決定
第17回	担当教員と相談の上決定
第18回	担当教員と相談の上決定
第19回	担当教員と相談の上決定
第20回	担当教員と相談の上決定
第21回	担当教員と相談の上決定
第22回	担当教員と相談の上決定

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究秋(星野)	
第23回	担当教員と相談の上決定	
第24回	担当教員と相談の上決定	
第25回	担当教員と相談の上決定	
第26回	担当教員と相談の上決定	
第27回	担当教員と相談の上決定	
第28回	担当教員と相談の上決定	
第29回	担当教員と相談の上決定	
第30回	担当教員と相談の上決定	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	45	積極的参加 45点
その他	55	卒業論文 55点

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	演習科目 演習科目						
科目名	卒業研究秋(西川)						
副題							
対象	4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	6	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室	研究室	担当教員	西川 祥一		
到達目標							
ジャーナリズム、メディア論、地域創生などの分野を中心としたテーマで、各自の問題意識に沿って分析、考察ができる力を習得する。研究計画書にもとづいて、論文を書ける力を身に付ける。これらの作業を通じて、学士としての幅広い見識を獲得することをめざす。							
取得可能な資格							
なし							
受講登録以前に準備すること							
なし							
テキスト							
佐渡島沙織、吉野亜矢子『これから研究を書くひとのためのガイドブック』(ひつじ書房)							
講義内容							
基本的には指導教員と対面で、論文の執筆状況を説明、必要な文献や調査・研究方法のアドバイスを受けながら、執筆を進める。中間報告でのプレゼンの方法も検討する。							
成績評価の方法							
授業内での積極的な参加(20%)・授業内での発表(20%)・報告会での発表(30%)・論文などのまとめ(30%)							
授業の方法							
基本的には対面で進捗状況を説明し、受講者全員でディカッションを行い、指導教員からアドバイスを受ける。ただ、卒業研究の指導は、学生が決める研究テーマ、文献研究か実証研究かなどの研究スタイル、学生の進捗状況などによって、担当教員の指導も異なってくる。授業計画は、随時変更されることを了解してほしい。毎週7時間程度は、予習や復習が必要。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(西川)
授業時間外の学修としては、文献の読解、データの収集などすすめながら、計画的に論文の執筆を行う。	
授業計画	
第1回	テーマの設定、今後の進め方について説明
第2回	テーマ設定のための文献調査①
第3回	テーマ設定のための文献調査②
第4回	テーマ設定のための文献調査③
第5回	テーマ設定のための学術書を読む①
第6回	テーマ設定のための学術書を読む②
第7回	テーマ設定のための学術書を読む③
第8回	仮説の設定、基礎的な調査や研究方法の検討
第9回	仮説の設定、基礎的な調査や研究方法の検討
第10回	研究計画書の検討

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	卒業研究秋(西川)
第11回	研究計画書の検討
第12回	研究計画書の作成
第13回	分析や調査①
第14回	分析や調査②
第15回	分析や調査③
第16回	先行研究の調査
第17回	先行研究の調査
第18回	先行研究の調査
第19回	研究方法の確定
第20回	研究方法の確定
第21回	研究方法の確定
第22回	アウトラインの作成

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	卒業研究秋(西川)	
第23回	アウトラインの作成	
第24回	仮説の見直し	
第25回	仮説の見直し	
第26回	アウトラインと論文修正	
第27回	アウトラインと論文修正	
第28回	最終確認	
第29回	最終確認	
第30回	論文の読みなおし、提出	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での積極的な参加(20%)・授業内での発表(20%)・報告会での発表(30%)・論文などのまとめ(30%)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	実習科目 実習科目						
科目名	地域創生B						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	実習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	樋口 葵		
到達目標							
<p>地域が抱える問題や課題を説明できる。 その課題を正確な情報でまとめて論じることができるとともに、持論を展開して自分の考えを示すことができる。 グループワークやディスカッションを通して、コミュニケーション能力や発信力、傾聴力を高めることができる。</p>							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
<p>苫小牧市内やその周辺地域で起こっているニュースを日頃からよく収集し、把握する。 第1回目のガイダンスを必ず受講すること。第2回目からの受講は認めないので注意すること。</p>							
テキスト							
特になし							
講義内容							
<p>座学、グループワーク、ディスカッション、フィールドワークを組み合わせた演習授業で、近年苫小牧市が力を入れて取り組んでいる「観光」と、胆振東部地震をはじめとした地震や火山噴火などあらゆる災害リスクを抱える「災害」がテーマだ。座学では、苫小牧市役所の担当者など外部講師を招き、生の声を聞く予定を考えているとともに、地元紙などを活用しながら、現状の観光や災害の取り組み内容や抱えている課題を整理する。また、避難所運営ゲームも体験し、苫小牧市で災害が発生した場合を想定し、地域の課題を探る。フィールドワークでは、苫小牧市内や近隣地域にある観光スポットやその他施設を数か所回る予定を考えている。また、授業内では適宜グループワークも行い、最終回にはグループまたは個人発表を実施する予定である。</p>							
成績評価の方法							
リアクションペーパーを含む小レポートとレジュメ作成(50%:5回×10点)、プレゼンテーション(50%)							
授業の方法							
<p>座学、グループワーク、ディスカッション、フィールドワークを組み合わせた演習授業である。学生主体の授業形式であり、フィールドワークに向けて座学を行い、そののち、フィールドワークをし、訪問後に振り返りをする。 予習として新聞記事や災害・観光にまつわるニュースを事前に渡し、その内容をレジュメとしてまとめるとともに、授業後は復習として学んだ内容を振り返ってもらうため、毎週4時間程度の時間が必要となる。</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	実習科目 実習科目
科目名	地域創生B
<p>バスでのフィールド学習を行う関係から履修人数に制限がある。受講生は23人までで、上級学年を優先としつつ、それでも超過した場合は成績上位者を選定する。 一部施設の観覧料として、200円程度の実費負担が必要となる。</p>	
授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	観光、災害に関する新聞記事やニュースを用いたグループワーク
第3回	苫小牧市内の観光の現状と課題(ゲストスピーカーの予定)
第4回	苫小牧市内の防災の現状と課題(ゲストスピーカーの予定)
第5回	避難所運営ゲームの説明
第6回	避難所運営ゲームの実施①
第7回	避難所運営ゲームの実施②
第8回	フィールド学習①
第9回	フィールド学習②
第10回	フィールド学習③

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	実習科目 実習科目	
科目名	地域創生B	
第11回	フィールド学習④	
第12回	フィールド学習⑤	
第13回	フィールド学習後の振り返り	
第14回	フィールド学習後の発表①	
第15回	フィールド学習後の発表②	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	リアクションペーパーを含む小レポートとレジュメ作成(50%:5回×10点)、プレゼンテーション(50%)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	実習科目 実習科目						
科目名	伝統文化A(茶道)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択
種類	実習	時間数		単位	1	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C202	担当教員	佐藤 郁子		
到達目標							
<p>「おもてなし」が日本の、日本人の美德として認識されています。約500年にわたり守り続けられている「茶道」を通して、自立する大学生、社会人に求められる「おもてなし、心配りの心」を理解します。日本伝統文化を教養的見地からの座学、実習から「茶道の修養」を習得します。</p>							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
「茶道」について興味、知識、体験について整理・確認してみる。							
テキスト							
【参考図書】 学校茶道 初級編（裏千家今日庵）							
講義内容							
1. 講義(座学)→教場で行う。 2. 実習→御園棚で実践する。教授者がお点前の実演し、学生もお茶を点て、相互に味わう。							
成績評価の方法							
授業履修態度:50%(授業参加:20%、実習・実技:10%、小テスト:20%)、筆記試験:50%							
授業の方法							
シラバスに沿って進行・展開する。 授業内容の復習(1時間)、次の授業の予習(1時間)を通して「茶道」を理解する お点前を実践希望する学生がいる場合は体験できる実技指導時間を設ける。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	実習科目 実習科目
科目名	伝統文化A(茶道)
履修学生数の上限は20名。	
授業計画	
第1回	授業内容及び授業計画の説明。 「茶道」に関する意識調査。日本の伝統文化。 「実習」の場所確認(教室)。
第2回	茶道の心 I : 茶道を学ぶ。日本の茶道界(流派と三千家)。茶道の四規七則。
第3回	茶道の心 II : 茶道と禅
第4回	「茶道」の成り立ちと歴史 I
第5回	「茶道」の成り立ちと歴史 II
第6回	千利休の生涯と利休七哲
第7回	茶道の普及と教育(近代・明治以降の変化)
第8回	「立礼」の成り立ちと発展: 御園棚、春秋棚
第9回	茶道の基礎知識: 茶会と茶席、茶道具
第10回	実習1: 御園棚でお茶を点てる。薄茶(抹茶)を味わう。

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	実習科目 実習科目	
科目名	伝統文化A(茶道)	
第11回	実習 2:御園棚でお茶を点てる。薄茶(抹茶)を点てる、味わう。実技体験。	
第12回	実習 3:御園棚でお茶を点てる。薄茶(抹茶)を点てる、味わう。実技試験。	
第13回	実習 4:御園棚でお茶を点てる。薄茶(抹茶)を点てる、味わう。実技体験。	
第14回	学習内容の確認:小テスト	
第15回	「千利休・天下一となった茶人の運命」についてDVD鑑賞。	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	50	筆記試験
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	授業参加:20%、実習・実技:10%、小テスト:20%
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	実習科目 実習科目						
科目名	伝統文化B(華道)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択
種類	実習	時間数		単位	1	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C202	担当教員	上田 敦子		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・実習を通して花の季節感や素材感をいかし生活空間に生かせる日本の伝統文化である「華道」を習得 ・この体験を足掛かりに「いけばな」に興味を持ち、特技や趣味となり自己アピールが出来る ・花の彩りの対比や調和を認識できる表現力アップ ・生活の中で「いけばな」をする楽しみ(趣味)ができ、心豊かな気持ちを保つ ・基本の「いけばな」作品としてある程度の完成度 							
取得可能な資格							
<ul style="list-style-type: none"> ・修了時に、受講証明書・記念品贈呈 ・取得単位(初等科基本)を小原流本部に報告することで、在学中に学んだことが受講証明書により証明可能 							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
テキスト・資料等は講師がその都度用意							
講義内容							
<ul style="list-style-type: none"> ・いけばなの実技と関連する知識の座学 ・小原流いけばなの基本的な表現方法の「型」を実習で身につける ・季節の植物を実際に手に取り、型におさめ作品にする ・日々のストレスを忘れて仲間と楽しい時間を過ごすことも「いけばな」で体験 							
成績評価の方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・出席回数・授業への意欲度(60%) ・実技テスト(1回)・筆記テスト(1回)(20%) ・いけばなとしてのある程度の完成度(20%) 							
授業の方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化であるいけばなの歴史や知識を講義し、授業で習得していく型の再確認をする(30分) ・基本的な型に必要な表現方法を説明し、実際に花材を手に取り実技(いけばな)をする(40分) ・学生一人一人の作品を講師が丁寧に寸評・手直し(15分) ・技術が身につけてきた時期から、全体の中から参考花(優秀花)を選出し評価する(5分) 							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	実習科目 実習科目
科目名	伝統文化B(華道)
○実務家教員による科目／昭和55年に小原流専門教授者登録 ・一般財団法人小原流／1級家元教授・副教務 ・公益財団法人 日本いけばな芸術協会／特別会員に認許(令和7年～) ・いけばな教室(3教室)において教授者活動 ・文化庁委託事業である「伝統文化いけばな親子教室」を開催(令和3年～)	
授業計画	
第1回	座学／いけばなの歴史 いけばなのデモンストレーション(小品2作程度)
第2回	実技／季節のいけばな(基本) 座学／いけばなの基本知識
第3回	実技／季節のいけばな(基本) 座学／いけばなの基本知識
第4回	実技／季節のいけばな(基本) 座学／いけばなの基本知識
第5回	実技／季節のいけばな(基本) 座学／いけばなの基本知識
第6回	実技／季節のいけばな(基本) 座学／いけばなの基本知識
第7回	実技／季節のいけばな(基本) 座学／いけばなの基本知識
第8回	実技／季節のいけばな(基本) 座学／いけばなの基本知識
第9回	実技／季節のいけばな(基本) 座学／いけばなの基本知識
第10回	実技／季節のいけばな(基本) 座学／いけばなの基本知識

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	実習科目 実習科目	
科目名	伝統文化B(華道)	
第11回	実技／季節のいけばな(基本) 座学／いけばなの基本知識	
第12回	実技／季節のいけばな(基本) 座学／いけばなの基本知識	
第13回	実技／季節のいけばな(基本) 座学／いけばなの基本知識	
第14回	小テスト(筆記)／30分間 実技／季節のいけばな(基本)	
第15回	実技(いけばな)小テスト 修了証・記念品授与	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	20	・実技1回(100点満点) ・小テスト(筆記)1回(50点満点)・実技で習得した中からピックアップ
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	・授業に出席することが重要 ・真剣に取り組む姿勢、授業態度
その他	20	・習得した技術を発揮した基本のいけばなの完成度

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	実習科目 実習科目						
科目名	伝統文化D(アイヌ)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択
種類	実習	時間数		単位	1	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	長谷 仁美、長谷 仁美、内田 祐一		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・日本列島北部周辺、とりわけ北海道の先住民族であるアイヌ民族の歴史や文化に関する基礎的な知識を習得し、概括的に説明することができる。 ・先住民問題克服のため、アイヌ民族の歴史的背景を理解した上で社会的責任を自ら考え、共生社会の実現に向けて協調し行動することができる。 							
取得可能な資格							
受講登録以前に準備すること							
テキスト							
<p>以下のテキスト2冊は授業で使用するため、必ず購入の上持参すること。 参考図書は、適時紹介する。</p> <p>○北原モコットウナシ 『アイヌもやもや 一見えない化されている「わたしたち」と、そこにふれてはいけない気がしてしまう「わたしたち」の一』(303BOOKS株式会社 2023)</p>							
講義内容							
<p>文化の認識を深めるためには、体験活動を重ねることが非常に重要である。 この講義では、前半は歴史・文化の基礎的な知識を学ぶため、教科書・参考図書等を読み解き理解を深めていく。適時、映像を活用する。 後半は、前半で身につけた基礎的な知識をもとに、アイヌ文化に係る体験活動をとおして主体的に学びを深めていく。</p>							
授業計画							
成績評価の方法							
<p>レポート(70%) 授業参画態度・コメント・ペーパー(30%(2点×15回)) ※毎回出欠確認を行う。出欠確認を終えてからの出席は、欠席とはしないが「遅刻」として扱う。</p>							
授業の方法							
<p>講義形式・体験活動形式 二名の教員によるオムニバス形式 ＜講義形式＞ アイヌの歴史・文化に関する基礎知識等 ＜体験活動＞ 生業・食・子どもの暮らしに関する道具づくりの体験</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	実習科目 実習科目
科目名	伝統文化D(アイヌ)
授業計画	
第1回	問題提起(長谷)
	担当教員 長谷 仁美
第2回	共生とは(長谷)
	担当教員 長谷 仁美
第3回	マジョリティの優位性 ―国外の事例―(長谷)
	担当教員 長谷 仁美
第4回	マジョリティの優位性 ―テキストを読み解く1―(長谷)
	担当教員 長谷 仁美
第5回	マジョリティの優位性 ―テキストを読み解く2―(長谷)
	担当教員 長谷 仁美
第6回	歴史 ―教科書を読み解く1―(長谷)
	担当教員 長谷 仁美
第7回	歴史 ―教科書を読み解く2―(長谷)
	担当教員 長谷 仁美
第8回	歴史 ―教科書を読み解く3―(長谷)
	担当教員 長谷 仁美

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	実習科目 実習科目	
科目名	伝統文化D(アイヌ)	
第9回	工芸(長谷)	
	担当教員	長谷 仁美
第10回	世界観(内田)	
	担当教員	内田 祐一
第11回	住まい(内田)	
	担当教員	内田 祐一
第12回	生業(内田)	
	担当教員	内田 祐一
第13回	子どものくらし(内田)	
	担当教員	内田 祐一
第14回	食(内田)	
	担当教員	内田 祐一
第15回	動植物の利用(内田)	
	担当教員	内田 祐一
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	70	レポートとする。
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	30	※毎回出欠確認を行う。出欠確認を終えてからの出席は、欠席とはしないが「遅刻」として扱う。

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	実習科目 実習科目	
科目名	伝統文化D(アイヌ)	
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	学芸員(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 学芸員						
科目名	博物館情報・メディア論						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	種石 悠		
到達目標							
博物館における、情報とメディアの扱い方について理解できるようにする。							
取得可能な資格							
博物館学芸員							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
テキスト							
稲村哲也・近藤智嗣 2018『博物館情報・メディア論』放送大学教育振興会							
講義内容							
博物館はメディアの複合体であるといわれる。メディアとしての博物館について、その特色、技術、利点、課題を包括的に学んでゆく。							
成績評価の方法							
毎回講義後のリアクションペーパー(3点×15回、45%)、期末レポート(55点、55%)							
授業の方法							
テキストに沿いながら、随時、担当教員が勤務していた博物館の実例をあげながら、解説する。講義終了後、リアクションペーパーに記入いただく。講義はテキストの各章ごとに毎回進めてゆくので、講義前にわからない語句等を2時間をかけて予習し、講義後は関連文献などを用いて2時間をかけて復習を行なう。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	学芸員(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 学芸員
科目名	博物館情報・メディア論
特になし。	
授業計画	
第1回	メディアとしての博物館
第2回	博物館における情報とメディアの基礎
第3回	博物館におけるメディア・リテラシー
第4回	情報のドキュメンテーションとデジタル・アーカイブズ
第5回	博物館と知的財産
第6回	ユニバーサル・ミュージアムと情報・メディア
第7回	博物館教育の多様な機会と情報・メディア
第8回	博物館の情報・メディア拡充への連携
第9回	科学系博物館における情報・メディア
第10回	生き物の博物館における情報・メディア①

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	学芸員(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 学芸員	
科目名	博物館情報・メディア論	
第11回	生き物の博物館における情報・メディア②	
第12回	民族・歴史博物館における情報・メディア	
第13回	美術館における情報・メディア	
第14回	考古博物館における情報・メディア	
第15回	地域の総合博物館における情報・メディア	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	45	リアクションペーパー(3点×15回)
その他	55	期末レポート(55点)

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	学芸員(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 学芸員						
科目名	博物館論(経営)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	岡田 路明		
到達目標							
今、日本では博物館学芸員の質の向上が求められている。授業では、単に資格だけの学芸員ではなく、即戦力としての学芸員の養成を目指す。							
取得可能な資格							
博物館学芸員							
受講登録以前に準備すること							
博物館(博物館、資料館、郷土館、動物園、植物園、美術館、科学館など)に興味を持っていること。少なくとも、1年以内に複数の博物館を訪れたことがあること。							
テキスト							
なし							
講義内容							
博物館とは何か、そして、博物館を維持管理し、教育機関としての役割を担う学芸員とは何かについて学ぶ。博物館学芸員を目指す学生が、最初に学ぶ科目で、博物館学とは何かという基本的な知識や、博物館の必要性、存在意義、博物館の法律など、学芸員としての基礎知識を総合的に学ぶ。							
成績評価の方法							
授業中の受け答えや授業への取り組み(5点×15回:75%)、最終レポート(25%:1回)で評価する。							
授業の方法							
授業の資料を配布し、それに沿って授業を進める。次週の授業内容に関する予習を2時間以上実施し、授業が終わってからは、その授業について2時間以上の復習を実施する。 博物館における「経営」とは何かという内容が主体となるので、事前に博物館を見学し、博物館がどのように「経営」(運営)されているのかを事前学習する。その内容を、授業の中で討論する。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	学芸員(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 学芸員
科目名	博物館論(経営)
授業計画	
第1回	博物館学とは
第2回	世界の博物館学と日本の博物館学
第3回	博物館とは
第4回	博物館の設置目的と役割
第5回	各種の博物館
第6回	北海道の博物館とその現状
第7回	日本の博物館
第8回	世界の博物館
第9回	博物館の歴史
第10回	博物館の法律

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	学芸員(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 学芸員	
科目名	博物館論(経営)	
第11回	地域の文化を担う博物館	
第12回	博物館と学芸員	
第13回	博物館を運営する	
第14回	博物館に課せられた課題	
第15回	これからの博物館	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への取り組み姿勢75%、及びレポートの内容(25%)から総合的に評価する。
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	学芸員(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 学芸員						
科目名	博物館論(資料保存)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	岡田 路明		
到達目標							
<p>博物館の使命には文化財の保存がある。 文化財は人類の財産となるものであることを知り、その保存方法を学ぶ。 また同時に、文化財は単に保存されるだけではなく、研究に活用されなければならないことから 保存と活用の両立を如何に行うべきかについても理解し、学芸員としての資質を身につけることを目指す。</p>							
取得可能な資格							
博物館学芸員							
受講登録以前に準備すること							
<p>「博物館論(経営)」から履修すること。 「博物館論(資料保存)」は、「博物館論(経営)」、「博物館論(資料)」の知識の上に授業が進む。 授業の中で必要となるので、できるだけ多くの博物館を訪れ、博物館に関する知識を身につけること。 博物館に興味がないと、受講することは難しい。</p>							
テキスト							
特になし							
講義内容							
<p>博物館資料とは何か、何故資料を保存しなければならないのかという基本から、 資料をどのようにして保存するのかについて学ぶ。 資料はさまざまな要因で常に劣化している。 その劣化をどのようにして遅らせるのか、また博物館ではどのようにして保存しているのかといった実例を学び、 最善の資料保存と活用方法について学ぶ。</p>							
成績評価の方法							
授業中の受け答えや授業への取り組み(5点×15回:75%)、最終レポート(25%:1回)で評価する。							
授業の方法							
<p>授業の最初に資料を配布し、それに沿って授業を進める。次週の授業内容に関する予習を2時間以上実施し、授業が終わってから は、その授業について2時間以上の復習を実施する。博物館における「資料保存」はどのようにして行われているのか。また、博物館 における資料保存の意義とは何かという内容が主体となるので、可能な限り事前に博物館を見学し、博物館ではどのようにして資料 を保存しているのか、或いはなぜ保存しなければならないのかなどについて事前学習をする。また、その内容を、授業の中で討論す る。</p>							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	学芸員(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 学芸員
科目名	博物館論(資料保存)
授業計画	
第1回	資料保存の概念
第2回	文化財の保存と博物館資料
第3回	文化財の保存と活用
第4回	資料が受ける環境からの影響
第5回	資料修復技法
第6回	展示での資料保全
第7回	資料の素材と特性
第8回	資料の保存処理
第9回	資料の梱包方法
第10回	資料の収蔵方法

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	学芸員(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 学芸員	
科目名	博物館論(資料保存)	
第11回	博物館収蔵庫の実例(国内)	
第12回	博物館収蔵庫の実例(海外)	
第13回	博物館で資料保存を学ぶ	
第14回	博物館で資料保存を学ぶ	
第15回	博物館で資料保存を学ぶ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への取り組み姿勢(75%)、及び期末レポートの内容(25%)から総合的に評価する。
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	日本語教師(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 日本語教師						
科目名	音声学						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	オンライン	担当教員	植田 尚樹		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> 日本語および他言語の言語音について、音声の種類や特徴、産出方法などを正しく観察・分析・記述できる。 重要な音声の発音と聞き分けができる。 							
取得可能な資格							
日本語教師課程必修科目							
受講登録以前に準備すること							
教科書を準備しておくこと。							
テキスト							
斎藤純男(2005)『日本語音声学入門【改訂版】』三省堂							
講義内容							
日本語教師をはじめ言語の「プロ」を目指すためには、音声に関する知識が必須です。この授業では、実際にさまざまな音声の発音・聞き取りを行いながら、音声学および日本語の音声に関する知識を身に付けるとともに、音声について観察・分析・記述する力を養います。							
成績評価の方法							
授業中に課す小テスト 20点×2回(40%) 定期試験60点(60%)							
授業の方法							
教科書を用いて、音声の種類や特徴、産出方法などを確認していきます。また、実際にさまざまな音声の発音・聞き取りを行いながら、音声に関する基本的な知識を実践的に身に付けていきます。 各回の授業の前に、あらかじめ教科書を読んで基本的な用語や概念を理解しておいてください(予習:1時間)。また各回の授業の後には、授業で取り扱った音声について、音声の種類や特徴、産出方法などを確認しながら発音練習を行ってください(復習:3時間)。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	日本語教師(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 日本語教師
科目名	音声学
授業計画	
第1回	音声学とは何か
第2回	音声器官
第3回	子音の基本(1)
第4回	子音の基本(2)
第5回	子音の基本(3)
第6回	日本語の子音(1)
第7回	日本語の子音(2)
第8回	世界の言語の子音
第9回	母音の基本
第10回	日本語の母音

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	日本語教師(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 日本語教師	
科目名	音声学	
第11回	音節とモーラ	
第12回	超分節素(1)	
第13回	超分節素(2)	
第14回	音声学と音韻論	
第15回	音声学と日本語教師	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	60	筆記試験60点(一部発音問題あり)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	40	授業中に課す小テスト 20点×2回
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		日本語教師(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 日本語教師					
科目名		言語心理学					
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	オンライン	担当教員	福嶋 剛司		
到達目標							
人間は生まれたときは言語を発することはできないが、数年で歩けるようになるのと同様に母語となる言語を自在に操ることができるようになっていく。なぜ人間はこのように言語を身に付けることができるのだろうか、大人の言語学習とは何か違うことが子どもたちの脳の裏側では起きているのだろうか。 本講義では、我々人間が持つ言語を獲得する際に働いているメカニズムを学び、英語や日本語などの言語間に存在する共通・相違点をより深く知り、個別の言語それぞれの根源となる共通性およびその獲得過程に存在する言語のバリエーションにはどのようなものがあるのかを説明できるようになることを目標とする。							
取得可能な資格							
特になし							
受講登録以前に準備すること							
教科書の購入(第1, 2回目を除く)							
テキスト							
杉崎鉦司(2015)『はじめての言語獲得—普遍文法に基づくアプローチ』岩波書店							
講義内容							
テキストおよびプリントを使って、言語獲得に関する知識を講義形式の授業を基本として教授する。ただし学生側にも積極的に例を考え理解を深めてもらえるよう演習形式の授業も適宜実施し反転授業としての形式も取る。 主に、子どもは言語をどのような理解の変化がこころ(mind)の中で生じ数年という短い期間で獲得されているのかを見ていく。その結果、大人と子どものこころ(mind)の中で言語がどのように変化していくのか、大人と子どもではどのように言語が異なるのかを種々の実験結果を実験方法とともに見ていくことで学んでいく。一部、CHILDESなどの子どもの発話コーパスなどのデータを見ながら子どもの発達段階でどのような理解変容が起きているか理解を深めていくことで自身でも予測や可能性を論じることができるようにする							
成績評価の方法							
授業での積極的参加・授業ごとのコメントシート(30%) 2% × 15回 授業内の発表(40%):25% × 2回 期末レポート(30%)							
授業の方法							
教科書を基本的な使用するため、3週目までに用意しなかった者は以後の授業参加を認めない。また毎週講義の該当箇所はあらかじめ示しておくため、予習(各回2-3時間程度)することが必須である。また理論言語学の知見を学習しながら観察をしていく都合上、理論は積み上げ式の学習が必須であるため定着のために復習(各回1-2時間程度)が必要となる。 その他、授業中に用いる資料はTeamsを使用し共有するため、適宜資料を自身で保管しておくこと。出席しているだけでは単位も学習価値もないので十分に心の準備をして授業に臨むことを強く希望する。その他、詳しい講義方法・内容については第1回目の授業で説明する。							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	日本語教師(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 日本語教師
科目名	言語心理学
授業計画	
第1回	「こころ」(mind)の研究としての母語獲得研究
第2回	母語獲得に関する基本的仮説
第3回	母語獲得に関する構造依存性
第4回	幼児と大人の移動に対する制約
第5回	幼児と大人のwh疑問文に対する制約
第6回	幼児と大人の「なぜ」に対する制約
第7回	幼児と大人のスルーシングに対する制約
第8回	言語の異なり方を司る生得的な仕組み:パラメータ
第9回	空主語現象のパラメータ
第10回	パラメータとmedial-wh疑問文

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	日本語教師(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 日本語教師	
科目名	言語心理学	
第11回	パラメータと関係節	
第12回	パラメータと名詞複合	
第13回	パラメータと前置詞残留現象	
第14回	日韓言語における項省略	
第15回	普遍文法に基づく母語獲得研究のまとめと最新研究の紹介	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業での積極的参加・授業ごとのコメントシート(30%) 2% × 15回 授業内の発表(40%):25% × 2回 期末レポート(30%)
その他	0	

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	日本語教師(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 日本語教師						
科目名	日本語教育実習Ⅱ						
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	30
カリキュラム	2021	教室	C319	担当教員	黄 美花		
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業目標に基づいた教案を作成し、それに沿って授業を実施することができる ・学習者の背景を理解し、適切な対応を考えることができる 							
取得可能な資格							
日本語教員試験を目指すことができる							
受講登録以前に準備すること							
国内のみならず、海外での教壇実習を想定した数々のケースでの諸問題を、各自で調べ、授業でどのように生かすかを検討しておくこと							
テキスト							
授業中に提示する							
講義内容							
準備－実習－反省－改善の繰り返し							
成績評価の方法							
教案作成20%(4点×5回)、模擬授業30%(10点×3回)、教壇実習30%(15点×2回)、実習報告書20%の合計で判断する							
授業の方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・講義と演習を適宜組み合わせ、学生同士が議論したり、相互評価したりする方法で進める ・教案作成と授業中に議論した内容を含め、各自で週1時間程度の予・復習が必要となる 							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	日本語教師(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 日本語教師
科目名	日本語教育実習Ⅱ
実習において、レアリアの準備が必要となることを認知しておくこと	
授業計画	
第1回	オリエンテーション 授業の進め方、評価の方法、今年度の実習先とスケジュールなど
第2回	日本語教育基礎(教授法の概要、学習者の多様性)
第3回	国内実習の心得
第4回	海外実習の心得
第5回	学習者分析、ニーズ調査の方法
第6回	授業観察(模擬授業の視聴)
第7回	日本語教科書を調べる
第8回	教案作成の基本
第9回	教案作成
第10回	模擬授業

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	日本語教師(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 日本語教師
科目名	日本語教育実習Ⅱ
第11回	振り返り、フィードバック
第12回	模擬授業
第13回	振り返り、フィードバック
第14回	模擬授業
第15回	振り返り、フィードバック
第16回	実習先・対象学習者の理解(事前調査・資料分析)
第17回	教材分析①
第18回	教材分析②
第19回	教案作成①
第20回	教案作成②
第21回	授業見学に向けての準備
第22回	授業見学①

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	日本語教師(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 日本語教師	
科目名	日本語教育実習Ⅱ	
第23回	授業見学②	
第24回	教壇実習に向けての準備(リハーサル)	
第25回	教壇実習に向けての準備(フィードバック)	
第26回	教壇実習に向けての準備(修正)	
第27回	教壇実習①	
第28回	教壇実習②	
第29回	振り返り 実習報告書作成	
第30回	実習報告会	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	80	教案作成20%(4点×5回)、模擬授業30%(10点×3回)、教壇実習30%(15点×2回)
その他	20	実習報告書

2025 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	日本語教師(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 日本語教師						
科目名	日本語教授法Ⅱ						
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2025年秋学期	履修要件	必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C321	担当教員	奥村 訓代		
到達目標							
それぞれのおかれている環境を理解し、最適の教授法や教材で対応できる能力を養う。							
取得可能な資格							
日本語教師国家試験の準備となる							
受講登録以前に準備すること							
以下下での知識を実践に生かせるように創意工夫しておくこと							
テキスト							
特になし							
講義内容							
講義－実践－反省－改善の繰り返し							
成績評価の方法							
TPOの見極め方をチェックし、その適切さによって評価する 教材選定30% 教授法30% 振り返りと改善40%							
授業の方法							
講義と演習							
その他							

2025 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	日本語教師(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 日本語教師
科目名	日本語教授法Ⅱ
授業計画	
第1回	オリエンテーション 授業内容と評価の方法など
第2回	いわゆる大学の留学生に必要な日本語・及び日本語教育の教え方(1)
第3回	同上(大学2)
第4回	いわゆる日本語学校の留学生に必要な日本語・日本語教育の教え方(1)
第5回	同上(日本語学校2)
第6回	技能実習生に必要な日本語・日本語教育の教え方(1)
第7回	同上(技能実習生2)
第8回	小・中学校(義務教育)で日本語・日本語教育を必要とする人々への教え方(1)
第9回	同上(義務教育2)
第10回	生活者としての外国人に必要な日本語・日本語教育の教え方(1)

2025 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	日本語教師(令和3(2021)年～令和7(2025)年) 日本語教師	
科目名	日本語教授法Ⅱ	
第11回	同上(生活者2)	
第12回	海外で日本語・日本語教育を必要とする人々(1)への教え方	
第13回	同上(海外2)	
第14回	その他の日本語・日本語教育を必要とする人々への教え方	
第15回	まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	85	授業中の質問に対するレスポンス30% 理解度30% 準備25% により適応能力を見る
その他	15	相対的な態度・貢献度などにより観察力を見る